「学級の荒れ」のとらえ方

東京成徳短期大学教授
深谷昌志

学級崩壊でなく、「学級の荒れ」――

学級崩壊が進んでいるといわれる。NHKなどのテレビメディアが特集を組んで、問題を提起し、それを後追いする形で、活字メディアが問題を取り上げたので、「学級崩壊」という言葉が一人歩きして、学校が荒廃している印象を受ける。

授業中に私語をして静かにならない。ざわざわして、先生の話を聞こうとしない。あるいは、ぼんやりと外を見ている子どもが増えた。時には、消しゴムを細かく砕いて、教室内で投げ合う。先生に質問されても、答えようとしない。まれではあろうが、教室から出ていく子どもがいるなどの話を耳にすることがある。それだけに、これまでと比べ、授業をしにくい状況が多くなったのは確かであろう。

そうした反面、身近な教師たちに話を聞くと、「崩壊」という言葉で連想されるような乱れはきわめて少ないという。

いずれにせよ、「崩壊」は「崩れて、壊れる」という意味で、学級の授業が成り立たないくらいに崩れている状況を示していよう。マスコミ用語として、「崩壊」はショックな響きがあって、問題を提起するのに有効なように思える。しかし、実際の学校では、「崩壊」といえるような学級はきわめて少ないのではないか。したがって、ここでは「学級崩壊」という言い方は誇張しすぎるので、それを避けて、「学級の荒れ」という言葉を使いたいと思う。

子ども指導を段階的にとらえる――

そこで思い出すのは、何年か前の「いじめ」論の経緯である。深刻ないじめが発生しているのは否定できないが、かといって、そうしたいじめがあちこちで続発しているわけではない。つまり、暴力を伴うリンチに近い逸脱行為はそれほど多くはないが、子どもたちの間で、誰かをからかったり、ふざけたり、意地悪をしたりする行為は広くみられる。

そうしたいじめの程度によって、いじめへの対応も異なってくる。深刻ないじめは警察の力を借りてでもすぐに止めなければならないが、ふざけに近いいじめに対しては子どもたちを信じ、状況を見守る態度も必要になる。

したがって、一口にいじめといっても、い

じめの程度によって、意味も異なるし、対応の仕方も変わってくる。もちろん、ふざけのように見えても一定期間続いたり、ふざける集団が大きくなり、特定の子に対するふざけが続くと、ふざけとはいえないくらいに対象となった子どもの心に傷跡が残る。

普通の学校で気にしなければならないのは、ふざけより程度がひどいが、警察の手を借りるようなリンチほど悪辣ではないレベルの行為であろう。

こうした見方で、いじめを①「ふざけ」と②「いじめ」、そして③「いじめ非行」のように３段階でとらえてみると、いじめの本質に迫れるように思える。

実をいうと、不登校についてもそうした３段階でとらえると問題の本質に迫れた経験がある。まず、①「行き渋り」は学校へ行きたくない気持ちで、そうした「行き渋り」はどの子どもにも起こりがちな状況であろう。そして、第２段階の「不登校傾向」は週に１、２回休むもので、「不登校」の初期状況であろう。ここで対応できると、不登校傾向は歯止めがかかり、不登校に進まないですむ。しかし、対応がうまくいかず、子どもが何日も連続して休むようになると、③の「不登校」になる。「不登校」段階では、問題がこじれてくるので、担任の手を超え、専門家による診断やカウンセリングが必要になる。

「学級の荒れ」を３段階で

子ども指導の問題をこうした３段階に分けてとらえる見方で、学級崩壊も３段階に分けてとらえたらどうなるのか。

別表に目を通してほしい。第１段階はいわば日常的に起きる状況で、学級崩壊でいうなら、「学級の崩れ」で、子どもたちが私語をしたり、ねむる子どもが多くなったりする。こうした状況はどのクラスにも起こるし、望ましいとは思わないが、日常的な光景である。

それに対し、「崩れ」がもう少し進んで子どもたちが「質問されても、返事をしない」とか「注意されても、すぐに騒がしくなる」の状況になると、第２段階の「乱れ」になる。この段階になると、担任と子どもとの関係が悪化しているので、担任だけの力で問題を解決するのは困難で、学年や学校全体の協力が必要になる。

そして、子どもたちが集団となって、担任に反抗し、何人かの子どもが授業中でも勝手に教室を出入りする。そうした無秩序状態が第３段階の「荒れ」になる。

第１段階の「崩れ」は担任が適切な対応をすれば問題を処理できよう。しかし、「乱れ」になると、学年や学校全体の対応が必要になる。しかし、その段階でブレーキがかかれば、

	第１段階	第２段階	第３段階
いじめ 不登校 学級崩壊	ふざけ 行き渋り 崩れ	いじめ 不登校傾向 乱れ	いじめ非行 不登校 荒れ
状況	日常	やや逸脱	逸脱
対応	担任	学校全体	専門家の協力

「荒れ」の段階に進まないですむ。いじめや不登校もそうだが、初期の適切な対応が問題を悪化させない鍵となる。

しかし、第３段階の「荒れ」に入った場合は、理由の詮索は後回しにして、教育研究所やカウンセラーなど、学校外の専門家の協力を得て、対応を急ぐべきであろう。

もちろん、学級の荒れを「乱れ」にとどめておくのが鉄則で、その際には、「荒れ」に進むのを防ぐため、学年主任や教頭先生が積極的に関与して、担任に助言を与えるべきであろう。いじめの場合もそうだが、状況が第３段階に入っているのに、学級あるいは学校内で穏便に処理しようとすると、問題が一層こじれる。

教室の問題は学級担任の責任であると同時に、学級に責任を持つのは担任の権利でもある。したがって、崩れているからといって、安易に干渉するのは望ましくない。それだけに、静観と関与との見極めが重要になると思われる。

いずれにせよ、これから先、集団行動に慣れていない子どもが増加しよう。それと同時に、教師が高齢化する一方、群れ遊びを体験していない若い教師が教壇に立つことになる。それだけに、学級崩壊にいたらなくとも、「崩れ」や「乱れ」が広まる可能性が強い。そうした考察は後に譲り、ここでは、「学級の荒れ」を３段階に分けてとらえる見方を提示し、そうした見方が妥当なのかどうかは、数値を通して検討することにしたい。

〔調査レポート〕

「学級の荒れ」をどうとらえるか

―教師調査から―

（執筆順）

東京成徳短期大学教授　深谷昌志（全体）
世田谷区立東玉川小学校教頭　土橋　稔（1章）
杉並区立桃井第二小学校教諭　鶴巻景子（1章）
千代田区立麹町小学校教諭　島田美佐江（1章）
埼玉県立松山高等学校教諭　三枝惠子（2章）
横浜市立相武山小学校教諭　戸塚　智（3章）
東京成徳大学教授　深谷和子（4章）

『モノグラフ・小学生ナウ』Ｖｏｌ．19－2

調査レポート

「学級の荒れ」をどうとらえるか
―教師調査から―

要　約

●調査概要

１．調査テーマ　「学級の荒れ」をどうとらえるか

２．調査視点　「学級崩壊」が進んでいるといわれる。そこで、「学級崩壊」という現象を仮に、①学級の崩れ、②学級の乱れ、③学級の荒れの３段階に分けてとらえることにした。教師を対象とした調査を実施し、その実態を明らかにすると同時に、対応策を探ることにした。

３．調査項目　一番受け持ちたい学年、受け持ちたくない学年・教師をやめようと思ったこと・教師の悩み・教師としての意識・教師としての自信・学級経営がうまくいかなかった体験・学級の崩れ、乱れ、荒れの体験・荒れているクラスの子どもたちの様子・荒れている学級の担任像・学級の荒れが起こる原因・荒れを解決していくための対応など。

４．調査時期　1999年２月～３月

５．調査対象　東京都の小学校教師

６．調査方法　郵送法

７．サンプル数　配布数2,500名／回収数520名（男性170名・女性347名）／回収率21％

１．「学級崩壊」という現象を、
①授業や学級経営が何となくうまくいかない状態＝「学級の崩れ」
②子どもと担任の先生との気持ちが離れてしまった状態＝「学級の乱れ」
③先生の言うことを聞かず、授業が成立しない状態＝「学級の荒れ」
の３段階に分類し、「学級の荒れ」の状態を分析する。

２．「もう一度人生をやり直せるとしたら、また『小学校の教師』になりたいか」に「ぜひなりたい」23％、「できればなりたい」31％と５割以上が教師としての人生に十分な満足感を得ている。（表10）

３．「教師を辞めようと思ったことがあるか」の問いに「１度もない」が41％とかなり高い数値を示している。しかし、６割近い教師が１度は辞めたいと思った経験があり、「１度だけある」17％、「２～３回ある」19％、「４～５回ある」６％、「今までに何度もある」17％、「今辞めたいと思っている」２％となる。性別では、男性教師が「１度もない」51％、女性教師では35％と差が大きい。（表11）

４．教師の悩みは、「忙しすぎて、クラスの子どもたちに接する時間が不足している」と「いつも感じている」31％、「かなり＋やや」まで含めると94％と９割を超える。（表15）

５．教師としての自信は、「とても自信がある」はどの項目も数%、「とても＋かなり自信がある」をみると、「教育についての考え方」「子どもの心を理解する」「子どもたちからの信頼」に自信を持っていると答えた教師が約４割、逆に「個人的な魅力」や「教材研究」「一般的な教養」などは自信が持てない。（表19）

６．教師がとらえる最近の子どもたちの特徴的な傾向は、「物を粗末にする子」「家庭で基本的なことがしつけられていない子」「鉛筆や箸をきちんと使えない子」「姿勢や学習態度が悪い子」「ストレスがたまっている子」「授業中、わかっていても発言しない子」が５割を超える。（表22）

７．10年前の子どもたちと比較すると向上したと思われる項目はほとんどなく、「計算力」や「自分の意見を発表する力」の２項目は現状維持程度、「かなり低下した」数値の高い項目順に「がまん強さ」「物を大切にする気持ち」「集団としてのモラル（道徳性）」「読書量」「先生やおとなを尊敬する気持ち」「リーダー性」「けがや病気に負けない基礎体力」「基本的な運動能力」「文章表現力（作文力）」「社会一般の知識」となる。（表24）

８．一番受け持ちたい学年は、３年生（35％）。受け持ちたくない学年は６年生（43％）、次いで、１年生（31％）である。（表13）

９．今までに受け持ったクラスで、「何となく学級経営がうまくいかなかった経験」が「１度もない」36.5％、63.5％が「何となくうまくいかなかった経験」を持っている。（表25）

10．「子どもたちの気持ちが、担任から離れてしまった」すなわち「学級の乱れ」の体験は「１度もない」は68％と約７割。しかし、「１度だけある」24％、「２回以上ある」が９％と「体験のある」教師が３割にも達している。（表26）

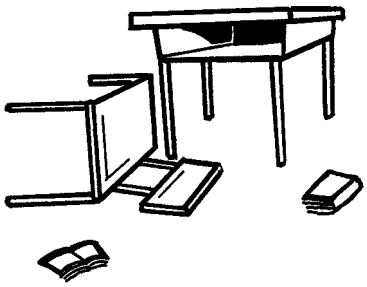
11．教職経験年数別に「学級の崩れ」「学級の乱れ」の体験の割合をみると、教職経験の少ない「10年以下」の教師に比べ「31年以上」の教師に「学級の崩れ・乱れ」の体験が多く、教職経験が増えるほどその体験も増える。（表28）

12．学級経営がうまくいかなかった原因は、「とても＋わりとそう」の数値でみると、「クラス内に問題のある子や秩序を乱すグループがあった」が最も多く65％、次に「以前からいろいろと問題のある学年・クラスだった」54％、「教師としての指導力が不足していた」40％の順である。（表29）

13．教師からみたまわりのクラスの様子は、「学級の崩れ」が約1.6割、「学級の乱れ」が約1.3割、「学級の荒れ」が約0.8割である。（表30）

14．「学級の荒れているクラスの子どもたち」の様子は、「子どもたちが先生の話を聞かない」90％、「授業中、注意されてもおしゃべりをやめない」93％、「クラスや学校の決まりが守られていない」88％、「先生を批判するグループがある」78％、「物を壊したり、後片づけをしない」78％の割合が高い。（表31）

15.「学級の荒れてしまったクラスの先生」は、「とても＋わりとあてはまる」の数値でみると、「子どもの気持ちがわからない」67％、「指導力がない」60％、「子どもを叱れない」59％、「決まった子に注意が集中する」52％、「授業中、子どもがしゃべっていても注意しない」50％、「子どもをあまりほめない」50％、「問題が起こると、子どもの責任にする」50％が５割を超える。（表32）



16.「学級の荒れ」が起こる原因は、「担任の指導力不足」に加えて、「基本的生活習慣のできていない子の増加」や「子どもたちのわがまま」および「マスコミや保護者の学校批判」などの影響が大きいという。（表33）

17.「学級の荒れ」を解決していくためには、「クラスの児童数を減らす」「研究会や会議の時間を減らして、子どもと触れ合う」「専科の先生を増やす」「ＴＴの制度や副担任の制度をもっと取り入れる」「教師のまとまりを強め、クラス間の交流を積極的に行う」などの対応が有効であるという。（表37）

18.「学級の荒れ」の現象を３段階でみると、第１段階の「何となく学級経営がうまくいかない『学級の崩れ』」、第２段階の「子どもたちと心が離れてしまった『学級の乱れ』」はかなりの教師が体験している。そうした「崩れ」や「乱れ」の体験を持つ教師が第３段階の「子どもが言うことを聞かないで授業が成立しない『学級の荒れ』」は１割未満と考えており、マスコミなどで言われるほど多くはない。

小学校高学年を中心とした「学級の荒れ」の現象は、ある意味で「学級王国」の解体現象といえる。調査結果からも、「学級の枠をゆるめる」「学年間の積極的な交流を図る」「教科担任制やＴＴの導入」「父母やボランティアの協力」といった学校や学級に柔軟さが求められている。加えて、何よりも「教師の情熱や校内での人間関係」と「子どもと一緒に遊ぶこと」「子どもに学ぶ姿勢」「子どもの言い分をしっかり聞いてあげる姿勢」が大切であることがわかった。

こうした教師の姿勢や日常の教育活動が、日々の学級経営の中でややおろそかになりがちな傾向にあり、小学校の学級担任制度では１人の教師の影響を強く受けすぎるために「学級の荒れ」現象の深刻な問題に発展するものと考えられる。

1 調査の意図と調査対象のプロフィール

●「学級崩壊」のとらえ方)))

「学級崩壊」という言葉が、テレビや新聞で報道されてから、1年以上の時間が過ぎた。身近にいる教師たちに聞いても、「学級崩壊」と呼ばれる現象がまったくないとはいえないが、マスメディアが騒ぐほど、各学校に認められるとは思えない。それだけに、「学級崩壊」に実感を持ちにくい感じがする。

そうした反面、以前に比べ、授業中の子どもの扱いが難しくなってきたのは確かであろう。少し気持ちをゆるめていると、子どもたちがざわつき、授業がしづらくなる。もちろん、子どもたちが授業中に騒ぐことは、昔からどこの学校にもあった。若い女性教師が高学年を担当すると、いたずら好きの男子たちの扱いに手こずる、あるいは、専科の時間に子どもたちが勝手に騒ぎ、担任が関与するなどは、何度も見聞きしてきた。

そうした過去の荒れは、教師サイドに問題があり、騒ぐ子どもに同情できる場合が少なくなかった。それと比べ、最近、同僚として特に問題があると思われない担任の学級でざわつく事例が少なくない。何かのはずみで、何人かの子どもがざわつくと、連鎖反応をするように他の子も騒ぎはじめ、授業がしにくくなるという形である。

考えてみると、「静かに授業を聞く」のに不向きな子どもが増えてきたような気がする。もちろん、だからといって、「ざわつき」と「崩壊」とは異なる。ざわついていても、教師が「静かにして」と静止するか、恐い顔をすれば、教室内は静まる。教師として、何度も「静かに」というのは、子どもをハンド

リングできていないことを意味する。それだけに、ざわつくことがあっても、大事な場面で「しん」となるのが理想の形となる。

このように、教師が気を許すと、教室がざわつきやすいのは確かだが、それは崩壊とは異なる。そこで、「まえがき」でふれたように、「学級崩壊」という現象を以下のような３段階でとらえてみた。

①授業や学級経営が何となくうまくいかない状態＝「学級の崩れ」

②子どもと担任の先生との気持ちが離れてしまった状態＝「学級の乱れ」

③先生の言うことを聞かず、授業が成立しない状態＝「学級の荒れ」

学級が「崩れる」ことは少なくないかもしれないが、「荒れる」ことはまれなように思うという仮説である。

● 調査対象のプロフィール)))

調査は、東京都の教員名簿から小学校教師2,500名をランダム抽出し、アンケート用紙を直接郵送する形で実施された。回収できた調査票は、520通で、回収率は21％であった。回収率が２割にとどまった背景として、学級崩壊という教師として答えるのが億劫なテーマであったことや３学期の忙しい時期に用紙が郵送されたことなどが考えられる。また、匿名を前提とした調査なので、未提出者に催促をかけなかったことも一因であるかもしれない。

しかし、調査票に自由記述のスペースを作っておいたところ、空白に書ききれないくらい文章を書いてくれた先生が多かった。そうした意味では、多くの教師が熱心に答えてくれたことは確かなように思われる。換言するなら、教師の中でも熱心に教育に取り組んでいる層からの回答が多い可能性は否定できない。なお、性別は、男性170名、女性347名である（**表１**）。

それでは、結果の紹介に入る前に、520名の教師のプロフィールを簡単に紹介しておこう。

表１　サンプル数

（%）

男　性	女　性	合　計
32.9 （170名）	67.1 （347名）	100.0 （520名）

性別無記入３名
回収率20.8%

まず**表２**の「現在受け持っている学年」によれば、担任をしている者（学年主任を含む）は72％（369名）である。受け持ちの学年をみると、各学年10％～15％前後の散らばりを示している。「専科・その他」の割合が28％に達する。この28％には、校長や教頭の割合10％が含まれている。東京都の小学校教員の中で校長は5.0％、教頭は5.2％、両者を合わせると10.2％となる。そうした意味では、本サンプルの管理職率10％はほぼ一致する。また、性別に着目すると、１、２年生の低学年は女性教師、５、６年生の高学年には男性教師が多い。

これまで担任してきた学年は、**表３**の通りで、低学年は女性教師、高学年は男性教師の傾向が目につく。

表2　現在受け持っている学年 × 全体・性

（%）

	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	専科・その他
全　体	9.6	11.3	11.1	13.8	15.0	11.1	28.1
			71.9				
男　性	3.0	5.3	11.8	11.8	19.5	16.6	32.0
			68.0				
女　性	12.9	14.3	10.5	14.9	12.9	8.2	26.3
			73.7				

表3　これまでに受け持ってきた学年 × 全体・性

（%）

	低学年	中学年	高学年	専科・その他
全　体	18.6	19.8	43.3	18.3
男　性	4.1	12.2	76.9	6.8
	∧		∨	∧
女　性	27.0	24.6	23.0	25.4

∨は注目すべき数値

表４は、サンプルの教職経験年数を示した。「26年以上」が39％で、教師の高齢化が進んでいるのも確かだが、それ以上に、本調査ではベテラン教師からの回答が多かった。表は省略したが、年齢では、「25歳以下」の教師は 0.4％、「30歳以下」の教師を合わせても５％にすぎなかった。もっとも、実際に若い教師が少ないのも確かで、東京都の場合、「30歳以下」の教員の比率は6.5％である。そうした意味では、本サンプルは平均よりやや年長者が多いかもしれない。

今回の調査対象のプライベートな生活を少し紹介しておこう。**表５**は出身大学を示した。「教育系の大学」が56％と半数を占め、次いで「私立４年制大学」25％となる。

表4　教職経験年数 × 全体・性

(%)

	5年以下	6～10年	11～15年	16～20年	21～25年	26～30年	31年以上
全　体	2.7	9.7	13.5	14.8	19.9	25.8	13.6
男　性	1.8	7.7	15.5	22.6 ∨	19.6	23.3	9.5
女　性	3.2	10.5	12.6	10.8	20.2	27.2	15.5

32.8 ∧

42.7

∨は注目すべき数値

表5　出身大学 × 全体・性

(%)

	全　体	男　性	女　性
1．教育系の大学	56.4	52.9	57.5
2．国公立4年制大学（教育系の大学を除く）	8.5	7.1	9.4
3．私立4年制大学	25.0	30.6	22.2
4．短期大学	6.9	2.9	9.1
5．大学院	1.9	4.1	0.9
6．その他	1.3	2.4	0.9

そして、既婚者は88％、その中で子どものある割合は79％。未婚の割合は１割となる（**表６**）。

高校までの成績の自己評価は、**表７**に示したように、「上の方」と答えた教師は29％で、「中の上」が42％を占める。そして、「中の下＋下の方」は６％である。小学校教師の場合、国立の教員養成大学卒業が主流なので、高校時代まずまずの成績をとっていることは確かであろう。なお、性差では女性教師の方が「上の方」と答えた割合が35％と男性教師の２倍を上回り、高校まで成績優秀な生

表6　結婚・子どもの有無

（%）

未婚	既婚・子どもなし	既婚・子どもあり	その他
11.0	8.5	79.1	1.4

表7　高校までの成績 × 全体・性

（%）

	上の方	中の上	中くらい	中の下	下の方
全　体	28.9	42.1	22.8	5.6	0.6
男　性	16.4	46.0	27.9	8.5	1.2
女　性	35.3	40.6	20.2	3.6	0.3

徒だったことがわかる。

教師の健康状態が悪化していると聞くことが多い。**表８**によれば、「肩がこる」と「とても感じる」割合は24％、「わりと」を含めほぼ６割に達する。

次いで、「疲れやすい」が17％（とても）と続く。「何となく体がだるい」も「わりと」を含めると40％に達する。

なお、性別では、女性教師の方が「肩がこったり」、「疲れやすく」、「立ちくらみやめまいがする」と身体的疲労を感じている割合が高いという結果が得られている。

表8　健康状態やストレス × 全体・性

(%)

	とても感じる	わりと感じる	あまり感じない	ぜんぜん感じない	性別		
					男性		女性
1．肩がこる	24.0	33.3	24.6	18.1	49.2	≪	61.7
2．疲れやすい	17.3	48.5	22.6	11.6	56.9	≪	70.4
3．何となく体がだるい	7.7	32.0	38.8	21.5	35.9	＜	41.8
4．イライラする	4.2	26.1	47.1	22.6	29.3		30.5
5．立ちくらみやめまいがする	2.4	17.9	40.1	39.6	9.6	≪	25.6
6．頭がボーっとする	2.0	15.8	45.6	36.6	15.0		19.4
7．やる気がない	1.0	16.6	54.6	27.8	19.2		16.9
8．食欲がない	0.0	6.3	41.5	52.2	4.2		7.4

性別 ＝「とても」＋「わりと」感じる割合
＜は5%、≪は10%以上の差

2 教師としての意識や子どもの様子

●教師としての意識

1）教師になってよかったか

「学級の荒れ」についての教師たちの意識にふれる前に、教師たちの教育についての見方や子どものとらえ方などを概観しておこう。

まず、教師としての意識をいくつかの角度から検討してみよう。**表9**に「教師になってよかったか」と尋ねた結果を示した。「とてもよかった」が46％とほぼ半数で、これに「わりと」を加えると79％で、「まあまあよかった」の21％を含めると99％が教師になってよかったと考えている。

そして、「もう一度人生をやり直せるとしたら、また『小学校の教師』になりたいか」の問いに対して、「ぜひなりたい」23％、「できればなりたい」31％と５割以上が「生まれ変わっても、小学校の教師になる」と答えている。そして、「どちらでもいい」は29％で、「できれば＋絶対なりたくない」が17％にとどまる（**表10**）。

さらに、**表11**が示すように、「教師を辞めようと思ったことがあるか」の問いに、「１度もない」割合が41％とかなり高い数値を示している。

ベテランの先生方でも、子どもの指導がうまくいかず、親から厳しいことを言われて、無力感から、辞めたいとか休みたいと思ったことが何度もあると聞く。本サンプルでも、辞めようと思ったことが「１度だけある」が17％、「２～３回ある」が19％で、36％を占める。それに対し、辞めたい気持ちの強い層は、「４～５回ある」の６％、「今までに何度もある」が

17％、「今辞めたいと思っている」２％で、25％と４分の１に達する。性別では、男性教師が「１度もない」51％、女性教師では35％と差が大きく、女性教師の方が辞めたいと考える割合が高い。

こうみてくると、①「教師になってとてもよかった」が46％（「わりと」を含めると79％）、②「もう一度人生をやり直せても小学校の教師になりたい」が54％、③「教師を辞めたいと思ったことは１度もない」が41％のように、いろいろと問題があるにしても、教職に魅力を感じ、熱心に子どもを指導している教師の姿が浮かんでくる。

表9　教師になってよかったか × 全体・性

(%)

	とても よかった	わりと よかった	まあまあ よかった	あまり よくなかった	ぜんぜん よくなかった
全　体	46.2	32.4	20.6	0.8	0.0
男　性	49.1	30.8	18.9	1.2	0.0
女　性	44.6	33.5	21.3	0.6	0.0

表10　もう一度人生をやり直せるとしたら「小学校の教師」になりたいか × 全体・性

(%)

	ぜひ なりたい	できれば なりたい	どちらでも いい	できれば なりたくない	絶対 なりたくない
全　体	23.0	31.2	29.1	14.1	2.6
男　性	28.7 ∨	29.9	24.0	15.6	1.8
女　性	20.4	31.6	31.6	13.4	3.0

∨は注目すべき数値

表11　教師を辞めようと思ったこと × 全体・性

(%)

	今辞めたいと 思っている	今までに 何度もある	4〜5回 ある	2〜3回 ある	1度だけ ある	1度もない
全　体	1.6	16.7	5.5	19.2	16.5	40.5
男　性	1.8	12.6	4.8	15.0	14.4	51.4 ∨
女　性	1.5	18.5	5.9	21.5	17.6	35.0

∨は注目すべき数値

2）授業はうまくいっているか

それでは、実際の授業や学級経営の場面はどうなっているのだろうか。**表12**に示したように、授業や学級経営が「とてもうまくいっている」割合は15％にとどまる。その反面、「あまり＋ぜんぜんうまくいっていない」も６％にすぎない。「とてもうまくいっている」とはいえないが、「うまくいっていない」ことはない。「わりとうまくいっている」（49％）が平均的な感じなのであろう。

教師にとっても、受け持ちたい学年や受け持ちたくない学年があるのだろうか。「学級の荒れ」に関連させて、質問してみた。**表13**によれば、「一番受け持ちたい学年」は「３年生」の35％、次いで「５年生」「１年生」の順である。逆に「一番受け持ちたくない学年」は「６年生」で43％、次いで「１年生」31％、「５年生」12％と続く。

受け持ちたい学年、受け持ちたくない学年を性差で比較すると、男性教師は「６年生」を受け持ちたいと考え、逆に受け持ちたくない学

表12　クラスの授業や学級経営はうまくいっているか × 全体・性

（%）

	とてもうまくいっている	わりとうまくいっている	まあまあうまくいっている	あまりうまくいっていない	ぜんぜんうまくいっていない
全　体	14.6	49.2	29.9	5.0	1.3
男　性	8.2	50.0	34.2	5.7	1.9
女　性	17.9 ∧	48.5	28.0	4.7	0.9

∨は注目すべき数値

表13　一番受け持ちたい学年・受け持ちたくない学年

（%）

	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
受け持ちたい学年（A）	18.3	7.8	34.7	11.2	19.7	8.3
受け持ちたくない学年（B）	31.2	3.3	7.3	3.8	11.9	42.5
（A）－（B）	－12.9	4.5	27.4	7.4	7.8	－34.2

年は「１年生」となる。一方、女性教師は、「６年生」は受け持ちたくないとする割合が高く、「４年生」「５年生」を受け持ちたいと答えている（**表14**）。

高学年を多く受け持つ教師たちに話を聞くと、口答えをする子や反抗する子が増えるとともに、体の大きさも教師と変わらない子どももでてくる。それだけに、６年生を指導するのに非常に神経を遣うことが多い。もちろん、１年生は学校生活の入り口で、集団としての「しつけ」に多くの時間がとられる。

「受け持つと大変な学年」として、６年生と１年生があがってくるのは、そうした背景からであろうが、学級崩壊と呼ばれる「学級の荒れ」は、６年生と１年生のクラスに多いのであろうか。ただ、幼い１年生と反抗する６年生とでは、「荒れ」の意味が異なってくると思うが、この問題は後に検討することにしたい。

表14　一番受け持ちたい学年・受け持ちたくない学年 × 性

（%）

		1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
受け持ちたい学年	男性	18.0	4.7	37.3	6.7	17.3	16.0 ∨
	女性	18.7	9.5	33.6	13.8	20.5	3.9
受け持ちたくない学年	男性	42.6 ∨	4.7	6.3	1.6	9.4	35.4 ∧
	女性	25.0	2.1	7.9	5.0	13.3	46.7

∨は注目すべき数値

3）教師としての悩み

これまでみてきたように、多くの教師は教職に生きがいを感じながら、その反面、疲れを感じていることも確かだった。それでは、教師たちはどんなことに悩んでいるのか。**表15**に、教師の抱えている悩みについてまとめてみた。「忙しすぎて、クラスの子どもたちに接する時間が不足している」と「いつも感じている」31％、「かなり＋やや」まで含めると94％と９割を超える。このように、仕事が忙しくて子どもとかかわれない悩みがトップにあがってくる。

そして、「いつも＋かなり＋やや感じている」数値でみると、「子どもの学力差がありすぎ、授業が思うように進まない」「保護者への対応が難しくなってきている」「『問題を持つ子』の指導がうまくいかない」「わかりやすい楽しい授業ができない」が７割を超える。

表は省略したが、女性教師は「忙しすぎて、

表15　教師の悩み

(%)

	いつも感じている	かなり感じている	やや感じている	あまり感じていない	ぜんぜん感じていない
1．忙しすぎて、クラスの子どもたちに接する時間が不足している	30.9	37.4	25.3	6.2	0.2
		93.6			
2．子どもの学力差がありすぎ、授業が思うように進まない	10.0	21.7	40.6	25.5	2.2
		72.3			
3．教頭、校長、教育委員会などと意見が対立しがちである	9.8	13.4	21.4	38.6	16.8
		44.6			
4．保護者への対応が難しくなってきている	9.2	27.6	38.2	18.8	6.2
		75.0			
5．「問題を持つ子」の指導がうまくいかない	7.4	18.4	46.3	25.1	2.8
		72.1			
6．わかりやすい楽しい授業ができない	5.4	19.8	49.8	23.6	1.4
		75.0			
7．学級をまとめることが難しくなってきている	3.4	11.6	36.1	33.5	15.4
		51.1			
8．同僚や年の違う教師とつきあう機会が持てない	2.4	6.7	20.0	45.8	25.1
		29.1			
9．子どもを集団として掌握できない	0.6	4.6	21.2	58.4	15.2
		26.4			
10．自分の悩みを相談する人がいない	1.0	1.8	9.9	40.1	47.2
		12.7			
11．自分の考えをうまく表現できない	1.0	3.2	15.9	44.8	35.1
		20.1			
12．子どもが好きになれない	0.0	0.2	7.2	37.8	54.8
		7.4			

クラスの子どもに接する時間が不足している」「教頭、校長、教育委員会などと意見が対立しがちである」「『問題を持つ子』の指導がうまくいかない」と思う割合が高く、男性教師は「自分の悩みを相談する人がいない」ことで悩んでいる者が多い。

マスコミの「学級崩壊」についての報道では、若い教師よりベテランの教師の方が子どもの扱いに苦慮しているといわれる。そこで、教師の悩みが教職経験年数とどのように関連があるかを調べてみた。表４（p.13）の教職経験年数から「10年以下」12％、「20年以下」28％、「30年以下」46％、「31年以上」14％の４群に分け、悩みの違いをまとめたものが**表16**である。

「10年以下」の若い教師が悩んでいる項目は、「『問題を持つ子』の指導がうまくいかない」「保護者への対応が難しくなってきている」「子どもの学力差がありすぎ、授業が思うように進まない」「自分の考えをうまく

表16　教師の悩み × 教職経験年数

（%）

	10年以下	20年以下	30年以下	31年以上
1．忙しすぎて、クラスの子どもたちに接する時間が不足している	93.5	91.7	◯94.6	94.1
2．子どもの学力差がありすぎ、授業が思うように進まない	◯76.7	72.2	72.3	67.2
3．教頭、校長、教育委員会などと意見が対立しがちである	37.5	36.1	49.1	◯53.0
4．保護者への対応が難しくなってきている	◯79.7	75.0	74.4	74.2
5．「問題を持つ子」の指導がうまくいかない	◯81.0	72.9	70.0	69.7
6．わかりやすい楽しい授業ができない	75.8	74.3	◯78.1	65.7
7．学級をまとめることが難しくなってきている	50.0	43.7	◯55.4	54.5
8．同僚や年の違う教師とつきあう機会が持てない	28.1	23.4	30.1	◯38.8
9．子どもを集団として掌握できない	23.0	22.9	27.7	◯32.8
10．自分の悩みを相談する人がいない	12.5	◯17.2	9.8	13.4
11．自分の考えをうまく表現できない	◯32.8	18.6	17.8	17.9
12．子どもが好きになれない	9.5	6.9	6.2	◯10.4

「いつも」＋「かなり」＋「やや」感じている割合
◯は最大値

表現できない」などで、指導法や指導力の未熟さに悩んでいる割合が高い。それに対し、経験豊かな教師は、「わかりやすい楽しい授業ができない」や「学級をまとめることが難しくなってきている」「同僚や年の違う教師とつきあう機会が持てない」「子どもを集団として掌握できない」「教頭、校長、教育委員会などと意見が対立しがちである」などで悩んでいる。ベテラン教師は長い経験と教育信念を持って指導にあたっているが、そうした経験と信念は逆に子どもたちへの柔軟な対応に苦慮し、教育方針では管理職と意見の対立を招き、同僚とのつきあいにも気を遣っている。特に、ベテランの教師が子ども集団への対応に当惑しているのが目につく。

なお、教師を辞めようと思うときと悩みとのクロスを**表17**に示した。「忙しすぎて、クラスの子どもたちに接する時間が不足している」は辞めたい教師も辞める気持ちのない教師も共通に感じている（差は６％）。そうし

表17　教師の悩み × 辞めようと思うとき

（%）

	今辞めたい＋何度もある＋4〜5回ある(A)	2〜3回ある＋1度だけある	1度もない(C)	差 (A)－(C)
1．忙しすぎて、クラスの子どもたちに接する時間が不足している	96.6	94.9	90.5	6.1
2．子どもの学力差がありすぎ、授業が思うように進まない	79.3	72.3	68.8	10.5
3．教頭、校長、教育委員会などと意見が対立しがちである	56.8	42.1	38.7	18.1
4．保護者への対応が難しくなってきている	82.1	74.1	71.0	11.1
5．「問題を持つ子」の指導がうまくいかない	81.9	72.5	66.5	15.4
6．わかりやすい楽しい授業ができない	81.9	75.1	71.1	10.8
7．学級をまとめることが難しくなってきている	63.8	54.3	41.6	22.2
8．同僚や年の違う教師とつきあう機会が持てない	39.8	30.7	21.8	18.0
9．子どもを集団として掌握できない	35.9	26.0	21.6	14.3
10．自分の悩みを相談する人がいない	22.2	12.3	7.4	14.8
11．自分の考えをうまく表現できない	30.8	17.3	15.8	15.0
12．子どもが好きになれない	10.3	7.9	5.4	4.9

「いつも」＋「かなり」＋「やや」感じている割合

た中で、差が最も大きいのは「学級をまとめることが難しくなってきている」の22％である。これは、「管理職との対立」（18％）や「同僚との不和」（18％）を上回っている。こうした傾向は、学級の荒れがあると、教師の大きな悩みとなることを示している。

4）教師としての自信

教師としての意識や行動を**表18**に示した。「自分なりの教育観を持っている」が「とても＋わりとそう」で78％を占める。その他、「運動会や遠足など子どもと触れ合う行事が好き」71％、「困ったときに、すぐ他の先生に相談できる」66％、「職員会議や学年会では積極的に発言する」54％、「同僚との飲み会やカラオケなどのつきあいはよい」46％などである。教育的信念を持ち、子どもと触れ合い、同僚とのつきあいも大切にしていこうという姿勢が認められる。

それでは、教師としての自信はどのくらい

表18　教師としての意識

（%）

	とてもそう	わりとそう	少しそう	あまりそうでない	ぜんぜんそうでない
1．自分なりの教育観を持っている	27.1	51.3	16.9	4.7	0.0
	78.4				
2．運動会や遠足など子どもと触れ合う行事が好き	32.7	38.5	21.7	6.5	0.6
	71.2				
3．困ったときに、すぐ他の先生に相談できる	24.0	42.1	18.1	13.4	2.4
	66.1				
4．職員会議や学年会では積極的に発言する	13.9	40.2	25.3	17.5	3.1
	54.1				
5．同僚との飲み会やカラオケなどのつきあいはよい	14.1	32.0	28.0	20.2	5.7
	46.1				
6．管理職や同僚と意見が違っても自分の意見を通す	6.5	23.2	33.4	32.7	4.2
	29.7				

持っているのか。「自信」といってもいろいろな側面が考えられるので、ここでは**表19**のような10の領域を設定してみた。どの項目とも、「とても自信がある」は数%にとどまるが、「とても＋かなり自信がある」をみると、「教育についての考え方」「子どもの心を理解する」「子どもたちからの信頼」に自信を持っていると答えた教師が約４割を占め

表19　教師としての自信

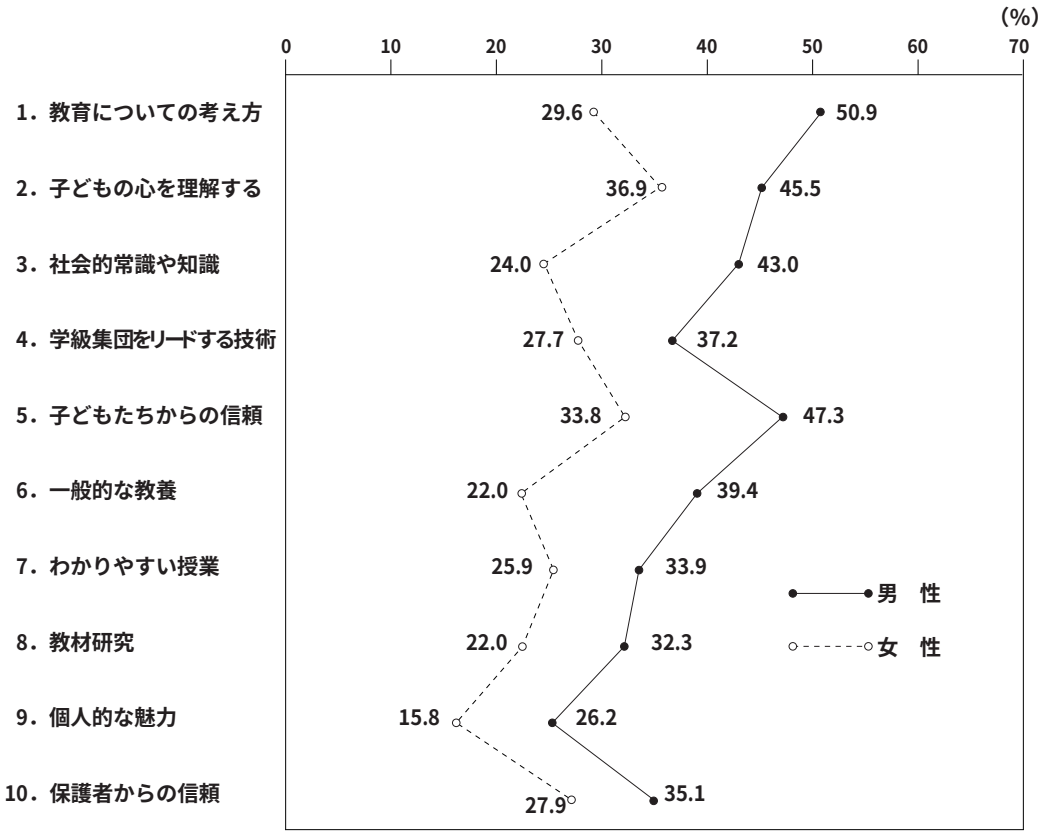
(%)

	とても自信がある	かなり自信がある	やや自信がある	あまり自信がない	ぜんぜん自信がない
1．教育についての考え方	6.5	30.0	50.2	12.3	1.0
	36.5			13.3	
2．子どもの心を理解する	6.1	33.7	49.9	9.7	0.6
	39.8			10.3	
3．社会的常識や知識	5.7	24.3	51.2	16.4	2.4
	30.0			18.8	
4．学級集団をリードする技術	5.6	25.3	50.5	17.0	1.6
	30.9			18.6	
5．子どもたちからの信頼	5.1	33.1	53.5	7.7	0.6
	38.2			8.3	
6．一般的な教養	4.7	23.0	49.4	20.1	2.8
	27.7			22.9	
7．わかりやすい授業	4.4	24.2	54.7	16.1	0.6
	28.6			16.7	
8．教材研究	4.2	21.2	50.8	22.4	1.4
	25.4			23.8	
9．個人的な魅力	3.8	15.3	50.5	27.8	2.6
	19.1			30.4	
10．保護者からの信頼	3.6	26.7	54.5	13.8	1.4
	30.3			15.2	

る。それとは逆に、「個人的な魅力」や「教材研究」「一般的な教養」などは「あまり＋ぜんぜん自信がない」が２～３割に達し、自信が持てない様子が浮かんでくる。

図１は教師としての自信と性別とのクロス結果である。全ての項目で男性教師の方が自信を持っている。特に、「教育についての考え方」「社会的常識や知識」「一般的な教養」

図１　教師としての自信 × 性



で差が顕著にみられる。

この教師としての自信を教職経験年数別にみると、**表20**の通りとなる。○印が示すように、全体に「31年以上」のベテランの教師に自信を持っている割合が高い。教育に対する考え方や子どもの心を理解すること、授業や学級集団をリードする指導力に強い自信を示している。そして、「社会的常識や知識」や「一般的な教養」も４割を超える教師が「とても＋かなり自信がある」と答えている。

このように、多くの教師は教育的信念を持ち学級経営や学習指導に自信を持っているものの、学級集団を掌握しきれなかったり管理職や同僚との人間関係に悩んでいる者も見受けられる。

それでは、学級経営や子どもの指導上問題が起こったとき、どのような対応を心がけているのか。**表21**によれば、「同学年の同僚に相談する」ことを「いつもしている」割合は45％、「わりと」を合わせると79％と８割近くの教師が同学年の教師に相談している。次いで、「いつも＋わりとしている」数値の高い項目は「校長や教頭に相談する」53％、「同じ学校でない教師の友人に相談する」40％で、さすがに「誰にも言わず、自分だけで解決しようと努力する」は９％にとどまる。「教育相談などの専門機関に相談する」も11％と低い数値である。

学級経営や子どもの指導上の問題は、学校の雰囲気や学年・クラス、担任、家庭など様

表20　教師としての自信 × 教職経験年数

(%)

	10年以下	20年以下	30年以下	31年以上
1．教育についての考え方	22.2	30.6	41.0	○47.8
2．子どもの心を理解する	42.2	31.7	42.3	○45.6
3．社会的常識や知識	18.8	27.8	31.0	○42.0
4．学級集団をリードする技術	22.2	26.8	31.4	○44.1
5．子どもたちからの信頼	34.4	34.0	38.6	○47.8
6．一般的な教養	22.2	30.6	41.0	○47.8
7．わかりやすい授業	14.3	22.4	31.9	○42.0
8．教材研究	21.9	20.7	25.3	○38.8
9．個人的な魅力	○21.9	17.4	19.6	17.6
10．保護者からの信頼	17.2	26.4	33.2	○39.1

「とても」＋「かなり」自信がある割合
○は最大値

々な要因が複雑に影響し合って起こる場合が多い。こうした状況把握が大きな意味を持ってくるのであろうか、外部の相談機関より、まずは同学年の同僚に相談することが問題の解決に向けて有効な手段と考えていることがわかる。

それだけに、学年のまとまりが大事で、多少の「荒れ」があっても、学年内の教師間で意志疎通がなされていれば、「荒れ」を悪化させないですむのではないかと思う。

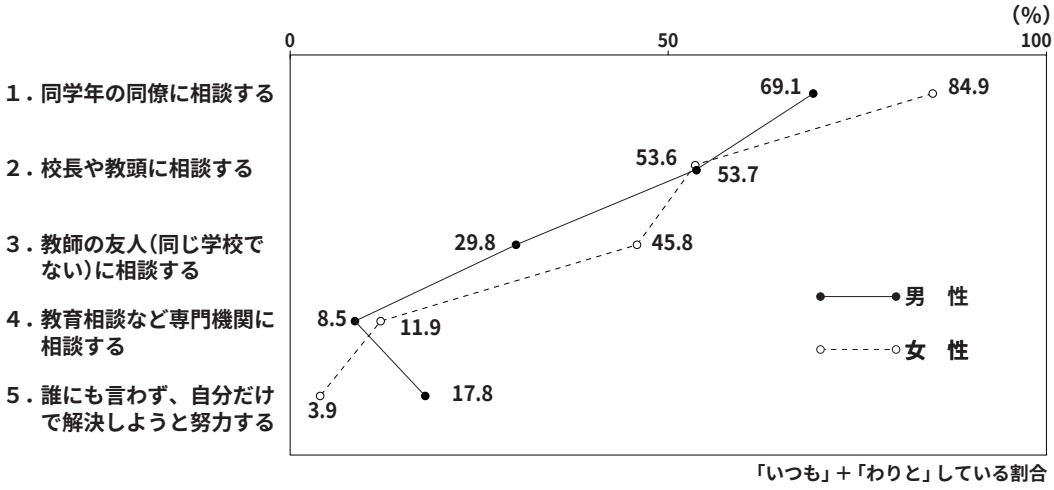
図2は、問題が起こったときの対応を性別で示した。女性教師の方が「同僚や友人に相談する」割合が高く、「誰にも言わず、自分だけで解決しようと努力する」のは男性教師に多い。

表21　学級経営や子どもの指導上問題が起こったときどうするか

(%)

	いつもしている	わりとしている	ときどきしている	あまりしない	ぜんぜんしない
1．同学年の同僚に相談する	44.8	34.5	14.9	5.0	0.8
	79.3				
2．校長や教頭に相談する	17.8	35.5	27.7	13.8	5.2
	53.3				
3．教師の友人(同じ学校でない)に相談する	15.7	24.7	32.3	19.7	7.6
	40.4				
4．教育相談など専門機関に相談する	2.0	8.7	20.0	34.2	35.1
	10.7				
5．誰にも言わず、自分だけで解決しようと努力する	1.4	7.5	16.0	34.1	41.0
	8.9				

図2　学級経営や子どもの指導上問題が起こったときどうするか × 性



●最近の子どもたちの様子－教室の風景－

1）子どもの様子

それでは、教師たちの目に、子どもたちの様子はどう映っているのか。「学級の荒れ」の議論の中で、子どもたちが変わったという声が多い。自分勝手で、協調性に乏しい子どもが増えたことが荒れの底流にあるという指摘である。

表22は、教師たちが最近の子どもの特徴をどうとらえているのかを示した。「とても多く＋わりといる」の数値でみていくと、「物を粗末にする子」が第1位で71％、次いで、「家庭で基本的なことがしつけられていない子」64％、「鉛筆や箸をきちんと使えない子」57％、「姿勢や学習態度が悪い子」55％、「ストレスがたまっている子」54％、「授業中、わかっていても発言しない子」53％と続く。

さらに、3割以上の教師が指摘しているのが、「自己中心的で、まわりの人のことを考えない子」49％、「親からの愛情不足の子」41％、「進んで働いたり、手伝ったりすることをいやがる子」39％、「晴れた日でも、外で遊ばない子」34％、「疲れていて元気のない子」31％である。

教師たちは最近の子どもたちに、「基本的なしつけに欠け、やる気が乏しく、自己中心的な子どもが多い」という印象を抱いているらしい。もちろん、すべての子どもがそうだというのではなく、こうした子どもが学校や教室で増えていると感じているのであろう。また、数値としては少ないが、「先生を尊敬しない子」29％、「先生に反抗的な子」9％という割合も「学級の荒れ」の要因を分析する上でやや気になる数値である。

表23は、担任の学年によって子どもたちの姿が異なるのかを示している。このうち、「家庭で基本的なことがしつけられていない子」「姿勢や学習態度が悪い子」「自己中心的で、まわりの人のことを考えない子」「親からの愛情不足の子」「疲れていて元気のない子」「時間の観念のない子」などは各学年に共通してみられる。そして、低学年では「鉛筆や箸をきちんと使えない子」が目につき、高学年では「ストレスがたまっている子」「授業中、わかっていても発言しない子」「進んで働いたり、手伝ったりすることをいやがる子」「晴れた日でも、外で遊ばない子」「先生を尊敬しない子」が多くみられる。

そうなると、高学年の学級は、反抗心が高まっている上に、ストレスがたまっている分、学級が荒れやすいのであろうか。

表22　クラスや学校の子どもたちの様子

(%)

	とても多くいる	わりといる	少しいる	あまりいない	ぜんぜんいない
1. 物を粗末にする子	20.8	49.7 (70.5)	24.1	5.4	0.0
2. 家庭で基本的なことがしつけられていない子	18.1	45.9 (64.0)	29.8	5.8	0.4
3. 鉛筆や箸をきちんと使えない子	13.3	44.0 (57.3)	32.3	9.0	1.4
4. 姿勢や学習態度が悪い子	12.7	42.7 (55.4)	34.8	9.2	0.6
5. ストレスがたまっている子	15.4	38.5 (53.9)	35.6	9.9	0.6
6. 授業中､わかっていても発言しない子	10.4	43.0 (53.4)	37.6	8.8	0.2
7. 自己中心的で、まわりの人のことを考えない子	10.1	39.2 (49.3)	41.9	8.4	0.4
8. 親からの愛情不足の子	8.6	32.4 (41.0)	43.3	14.5	1.2
9. 進んで働いたり、手伝ったりすることをいやがる子	7.0	32.1 (39.1)	39.9	19.6	1.4
10. 晴れた日でも、外で遊ばない子	5.1	29.0 (34.1)	47.6	15.0	3.3
11. 疲れていて元気のない子	4.7	25.9 (30.6)	46.1	20.6	2.7
12. 先生を尊敬しない子	5.4	23.4 (28.8)	37.5	31.1	2.6
13. 時間の観念のない子	2.0	21.9 (23.9)	49.8	23.0	3.3
14. 先生に反抗的な子	1.2	7.6 (8.8)	33.5	41.7	16.0
15. 授業中、席を立ったり、教室を出たり入ったりする子	0.2	4.1 (4.3)	22.4	26.9	46.4
16. 授業中、マンガを読んでいる子	0.0	0.4 (0.4)	4.7	16.8	78.1

表23　クラスや学校の子どもたちの様子 × 担任学年

(%)

	低学年（1、2年生）	中学年（3、4年生）	高学年（5、6年生）
1．物を粗末にする子	63.6	59.8	72.4
2．家庭で基本的なことがしつけられていない子	55.1	56.7	59.4
3．鉛筆や箸をきちんと使えない子	67.9	46.5	53.8
4．姿勢や学習態度が悪い子	49.5	46.0	50.7
5．ストレスがたまっている子	42.1	43.3	57.5
6．授業中、わかっていても発言しない子	40.2	45.7	58.8
7．自己中心的で、まわりの人のことを考えない子	42.1	41.3	41.8
8．親からの愛情不足の子	29.9	34.6	36.8
9．進んで働いたり、手伝ったりすることをいやがる子	28.0	22.8	45.5
10．晴れた日でも、外で遊ばない子	14.0	20.5	45.5
11．疲れていて元気のない子	20.6	18.1	26.9
12．先生を尊敬しない子	18.3	13.4	31.1
13．時間の観念のない子	19.6	18.9	24.6
14．先生に反抗的な子	3.7	3.1	6.0
15．授業中、席を立ったり、教室を出たり入ったりする子	1.9	1.6	3.0
16．授業中、マンガを読んでいる子	0.0	0.0	0.7

「とても多く」＋「わりと」いる割合
最大値－最小値が10%以上差のある最大値に○　最小値に―

2）10年前の子どもと比べて

こうした傾向は現代の子どもの特性なのか、10年前の子どもたちと比較してもらった。**表24**によれば、15項目の中で、10年前と比べて向上したと思われる項目はほとんどなく、「計算力」や「自分の意見を発表する力」の2項目は現状維持程度という評価だった。そして、あとの13項目は、少しまたはかなり低下しているとみている。中でも、「かなり低下した」数値の高い項目を拾っていくと、「がまん強さ」45％、（「少し＋かなり低下した」91％）、「物を大切にする気持ち」36％（79％）である。そして、「集団としてのモラル（道徳性）」33％（81％）、「読書量」33％（79％）、「先生やおとなを尊敬する気持ち」31％（76％）、「リーダー性」22％（73％）、「けがや病気に負けない基礎体力」22％（78％）、「基本的な運動能力」20％（71％）、「文章表現力（作文力）」18％（64％）、「社会一般の知識」15％（51％）と続く。がまん強さが低下し、物を大切にする気持ちが失われ、モラルが低下しているという。

こうした子どもたちの様変わりは、多くの専門家や教師によって以前から指摘されていることだが、その他でも、「友だちを思いやる心」14％（57％）や「想像力や工夫する力」14％（54％）なども力が低下していると感じている教師が多い。

「学級の荒れ」の背景に、このような子どもたちの変容がみられるのは確かで、それだけに、荒れへの対応が簡単でないことが予想されよう。

表24　子どもの「力」は10年前くらいと比べてどう変化したか

(%)

	とても よくなった	わりと よくなった	ほとんど 変わらない	少し 低下した	かなり 低下した
1．がまん強さ	0.0	0.8	8.3	45.9	45.0
				90.9	
2．集団としてのモラル（道徳性）	0.2	1.4	17.8	47.8	32.8
				80.6	
3．読書量	0.0	2.6	18.3	46.3	32.8
				79.1	
4．物を大切にする気持ち	0.0	1.2	20.3	42.8	35.7
				78.5	
5．けがや病気に負けない基礎体力	0.0	0.4	21.4	56.4	21.8
				78.2	
6．先生やおとなを尊敬する気持ち	0.0	0.4	23.6	44.7	31.3
				76.0	
7．リーダー性	0.2	3.8	23.5	50.2	22.3
				72.5	
8．基本的な運動能力	0.0	4.0	25.1	50.9	20.0
				70.9	
9．文章表現力（作文力）	0.0	6.4	30.1	45.6	17.9
				63.5	
10．友だちを思いやる心	0.2	3.7	39.4	42.3	14.4
				56.7	
11．想像力や工夫する力	0.2	11.7	34.4	40.2	13.5
				53.7	
12．社会一般の知識	0.8	17.9	30.3	36.1	14.9
				51.0	
13．自分の意見を発表する力(発表力)	1.0	26.2	34.0	29.4	9.4
				38.8	
14．ゲームや学習を計画実践する力	1.8	15.7	36.5	36.6	9.4
				46.0	
15．計算力	2.4	20.4	46.4	25.3	5.5
				30.8	

3 学級は荒れているのか

この章では、今回のテーマである「学級の荒れ」について、

①授業や学級経営が何となくうまくいかない状態＝「学級の崩れ」

②子どもと担任の先生との気持ちが離れてしまった状態＝「学級の乱れ」

③先生の言うことを聞かず、授業が成立しない状態＝「学級の荒れ」

の３段階に分類して詳しくみていくことにしたい。

●「学級の崩れ・乱れ」の体験)))

１）担任としての体験

「学級の荒れ」で一番に気になるのは、それがどの程度の広がりを持っているかであろう。そこで、調査対象となった520名の教師に、自分が今までに受け持ったクラスで、「何となく学級経営がうまくいかなかった経験があるか（崩れ）」尋ねてみた。

表25によれば、「１度もない」が36.5％で、残りの63.5％が「何となくうまくいかなかった経験がある」と答えている。この学級の崩れの経験者の内訳は、「１度だけある」39％、「２～３回ある」22％、「４～５回以上ある」は３％にすぎない。

この「学級の崩れ」とは「何となく学級経営がうまくいかない」という「学級の荒れ」の第１段階を意味している。何となくしっくりこない・何となく子どもたちとうまが合わないといった雰囲気で、学級が沈滞している感じだが、そうした思いは多くの教師が体験しているのであろう。

そして、「何となくうまくいかない状態」か

らさらに一歩進んだ「子どもたちの気持ちが、担任から離れてしまった」すなわち「学級の乱れ」の体験の回数を尋ねてみると、**表26**のような数値が得られる。表によれば、子どもたちの気持ちが担任から離れてしまったことが「１度もない」は68％と約７割近くに上る。しかし、「１度だけある」24％、「２回以上ある」が９％と「体験のある」教師も３割に達している。したがって、多くの教師にとって、「崩れ」を体験することは多いが、「乱れ」を体験することは少数にとどまるらしい。なお、「学級の崩れ」「学級の乱れ」とも性差はほとんどみられなかった。

今回の調査対象の中には、校長・教頭の管理職、講師などが28％含まれている。そこで現在担任している72％、369名の教師に「学

表25　「学級の崩れ」（何となく学級経営がうまくいかない）

（%）

	１度もない	１度だけある	２～３回ある	４～５回ある	それ以上ある
全　体	36.5	38.6	22.3	1.8	0.8
			24.9		
男　性	35.1	36.3	25.0	2.4	1.2
			28.6		
女　性	37.0	39.8	21.1	1.5	0.6
			23.2		

表26　「学級の乱れ」（子どもの気持ちが担任から離れる）

（%）

	１度もない	１度だけある	２～３回ある	４～５回ある	それ以上ある
全　体	67.5	23.5	7.5	1.1	0.4
			9.0		
男　性	64.6	25.3	8.7	0.7	0.7
			10.1		
女　性	68.6	22.8	7.0	1.3	0.3
			8.6		

級の崩れや乱れ」をどのくらい体験しているのかを尋ねた結果が**表27**である。「何となく学級経営がうまくいかない『学級の崩れ』」を「１度もない」と答えた「担任」は39％、「担任以外」の29％と、10％ほどの大きな差が認められる。そして「２回以上ある」割合をみると、「担任」19％、「担任以外」40％で、「担任以外の教師が「学級の崩れ」を多く体験していることがわかる。

「学級の乱れ」についても同様の傾向を示しており、「２回以上ある」割合では、「担任」５％に対し「担任以外」の教師は21％と、「乱れ」の体験が４倍も上回っている。なお、「担任以外」の教師の年齢構成をみると、「51歳以上」が41％、教職経験年数では「25年以上」が49％と経験が豊富な教師たちが多い。

表27　学級の荒れ × 現在担任をしているか

（%）

		１度もない	１度だけある	２～３回ある	４～５回ある	それ以上ある
学級の崩れ	担　任	39.4	41.3	17.9	1.1	0.3
		∨		19.3		
	担任以外	29.0	30.6	34.0	4.0	2.4
				40.4		
学級の乱れ	担　任	69.8	25.1	4.5	0.6	0.0
		∨		5.1		
	担任以外	61.8	17.3	16.4	2.7	1.8
				20.9		

∨は注目すべき数値

そこで、**表28**で、教職経験年数別に「学級の崩れ」「学級の乱れ」の体験の割合をみると、教職経験の少ない「10年以下」の教師に比べ、「31年以上」の教師は、教職が「10年以下」の16％のほぼ2倍の33％に達する。そして、「乱れ」も6％と比べ、15％と3倍の高さに達する。

教職経験の長さを考慮すれば、ベテランとして子どもの指導に自信を持って望んでいるはずだが、子どもの扱いに当惑している教師が少なくない。子どもの様変わりが激しく、過去の経験を生かしにくいのであろうか。それと同時に、教える相手の年齢が低いだけに、加齢をすると、教職が難しくなる事情も考えられる。

表28　学級の荒れ × 教職経験年数

(%)

		1度もない	1度だけある	2〜3回ある	4〜5回ある	それ以上ある
学級の崩れ	10年以下	48.3	36.2	13.8	1.7	0.0
	20年以下	36.1	40.3	21.5	2.1	0.0
	30年以下	34.8	38.9	24.6	0.4	1.3
	31年以上	31.3	35.8	25.4	6.0	1.5
学級の乱れ	10年以下	69.8	24.5	5.7	0.0	0.0
	20年以下	69.5	23.1	5.2	1.5	0.7
	30年以下	67.3	22.9	8.3	1.0	0.5
	31年以上	58.2	27.3	12.7	1.8	0.0

2）「崩れ」の背景

それでは、「学級の崩れ」はどうして生じたのか。表25で「学級の崩れ」を１回でも体験した教師に、学級経営がうまくいかなかった原因を尋ねてみた。**表29**に示したように、「とても＋わりとそう」の数値をみると、「クラス内に問題のある子や秩序を乱すグループがあった」が最も多くて65％、次に「以前からいろいろと問題のある学年・クラスだった」54％と続く。「教師としての指導力が不足していた」は40％である。

「学級の荒れ」というと、「児童数の多さ」や「経験不足」「親の非協力的態度」「子どもとの相性」などが原因とされがちである。しかし、そうした数値は思ったより多くはなか

表29 「学級の崩れ」の原因

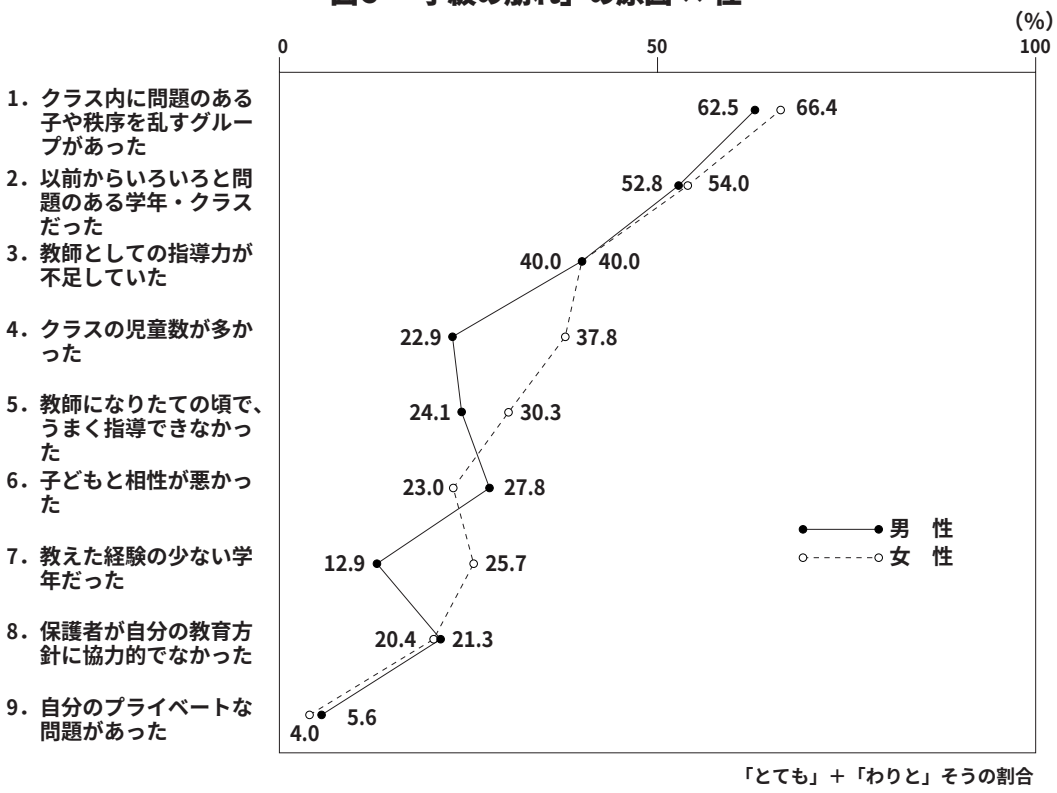
(%)

	とてもそう	わりとそう	少しそう	あまりそうでない	ぜんぜんそうでない
1．クラス内に問題のある子や秩序を乱すグループがあった	37.9	27.0	20.8	9.1	5.2
	64.9				
2．以前からいろいろと問題のある学年・クラスだった	26.5	27.2	20.7	16.2	9.4
	53.7				
3．教師としての指導力が不足していた	12.7	27.1	31.1	21.6	7.5
	39.8				
4．クラスの児童数が多かった	12.5	20.3	15.4	29.0	22.8
	32.8				
5．教師になりたての頃で、うまく指導できなかった	13.4	14.7	11.1	14.7	46.1
	28.1				
6．子どもと相性が悪かった	5.2	19.4	32.3	31.4	11.7
	24.6				
7．教えた経験の少ない学年だった	9.7	11.3	15.5	26.2	37.3
	21.0				
8．保護者が自分の教育方針に協力的でなかった	5.2	15.4	23.6	38.4	17.4
	20.6				
9．自分のプライベートな問題があった	1.3	3.3	8.5	20.3	66.6
	4.6				

った。そして、「問題のある子ども（あるいはグループ）の存在」に原因を求めるとする意見が多い。学級の中に秩序を乱す子どもがいる。それがきっかけとなって、学級内がざわつくのであろう。

なお、**図3**に「学級の崩れ」の原因と性別との関係を示した。女性教師は「クラスの児童数が多かった」「教えた経験の少ない学年だった」などに「崩れ」の原因を求める傾向がみられる。

図3 「学級の崩れ」の原因 × 性



●「学級の荒れ」の実態と原因

1）荒れている学級の様子

前節では、「学級の崩れ・乱れ」を教師自身が受け持ったクラスについてどのくらい体験しているかを考察してきた。次に、もう少し客観的に、「学級の荒れ」の実態を明らかにしていきたい。

まず、「自分の学校やまわりの学校には、『学級の崩れ・乱れ・荒れ』がどのくらいの割合であると思うか」を尋ねてみた。**表30**は、「荒れ」の３段階がどのくらいの割合であるか尋ねた結果の平均値である。表によれば、「何となく学級経営がうまくいかない『学級の崩れ』」が認められるのは約1.6割、「子どもたちの気持ちが担任から離れてしまった『学級の乱れ』」は約1.3割程度であろう。そして、「子どもたちが言うことを聞かず、学級経営や授業が成立しない『学級の荒れ』」についても約0.8割で、自分たちのまわりに起きていると感じている。したがって、教師たちが「荒れ」をまれではあるが、ある程度存在すると感じていることがわかる。

それでは、「子どもたちが言うことを聞かず、学級経営や授業が成立しない学級の荒れている」クラスの子どもたちは、どんな学校生活をしているのだろうか。

表30　学級の崩れ・乱れ・荒れているクラスはどのくらいあるか

学級の崩れ	学級の乱れ	学級の荒れ
1.6割	1.3割	0.8割

（平均）

教師たちは、学級の荒れているクラスの子どもたちの様子を**表31**のようにとらえている。「授業中、注意されてもおしゃべりをやめない」の「とても＋わりとあてはまる」割合は93％（「とてもあてはまる」56％）、次いで、「子どもたちが先生の話を聞かない」90％（62％）である。以下、「クラスや学校の決まりが守られていない」88％（53％）、「先生を批判するグループがある」78％（43％）、「授業が始まっても教科書を出さない」78％（39％）、「物を壊したり、後片づけをしない」78％（40％）、「授業中、教室を出たり入ったりしている」75％（40％）の項目で７割を超える。

教師の言うことも聞かず、注意されてもおしゃべりをやめない。中には担任を批判するグループもある。そうなれば、授業が成り立たないのは確かであろう。さらに、荒れている学級では、子ども同士の人間関係もうまくいかず「ケンカが絶えない」67％（28％）、「クラスにまとまりがなく、男女の仲が悪い」66％（28％）、「下級生や弱い者いじめがある」62％（26％）と、多くの教師は考えている。

今回の調査を実施するにあたって、教師たちから「荒れ」についての話を聞かせてもらった。そして、いくつかの荒れる学級の事例を聞いた。若い教師が子どもたちを掌握できず、立ち往生した。やむを得ず、隣の学年主任が学級指導に介入したなどは聞いていて納得ができる。

しかし、ベテランの話は深刻になる。５年生担任の男性の教師の事例だが、夏休み明けに女子をきつく叱りすぎて、女子の反発を招き、女子が教師を無視するようになった。そうなると、男子も勝手な行動をとるようになり、３学期に入り、学級が無法地帯化した。そこで、学年末に担任が他校に転出し、その後、体育が得意な40代の教師を迎えて、教室は活気を取り戻したという。理科が専門の50代の教師で、教師間の人望もあり、温厚で堅実な先生だが、現代の子どもの感覚についていけない面があったのかもしれないというのが、この事例についての評価だった。

また、別の事例で、５年生の時、何人かの男子が反発して、学級が崩れる傾向がみられた。しかし、なんとかなると、６年生も引き続き担任したところ、子どもたちの反発が一層ひどくなった。そして、６年の２学期途中から担任は休職に入った。若い女性講師の先生を、教頭が助ける形の変則的なチームティーチング編成で、学級指導にあたった。そして、３学期には見違えるような元気でまとまりのある学級となり、子どもたちは卒業していった。この場合、困ったことに、その教師は女性の学年主任なので、他の教師も手を出さず、それが対策の遅れを招いたという。いずれも、力量もあるベテラン教師の事例なので、現在の指導の難しさを改めて感じさせられた思いがする。

表31　学級の荒れているクラスの子どもたちの様子

(%)

	とても あてはまる	わりと あてはまる	少し あてはまる	あまり あてはまらない	ぜんぜん あてはまらない
1．子どもたちが先生の話を聞かない	61.9	28.5	7.5	1.5	0.6
	90.4				
2．授業中、注意されてもおしゃべりをやめない	56.4	36.3	6.3	0.6	0.4
	92.7				
3．クラスや学校の決まりが守られていない	52.7	35.2	10.6	1.3	0.2
	87.9				
4．先生を批判するグループがある	43.0	35.1	15.4	5.4	1.1
	78.1				
5．物を壊したり、後片づけをしない	40.1	37.7	17.8	3.5	0.9
	77.8				
6．授業中、教室を出たり入ったりしている	39.9	35.5	17.7	5.6	1.3
	75.4				
7．授業が始まっても教科書を出さない	38.9	39.1	17.8	3.5	0.7
	78.0				
8．教室の後ろの方で、寝ころんだり座ったりしている	28.8	31.5	22.6	12.7	4.4
	60.3				
9．子ども同士のケンカが絶えない	28.3	38.2	21.3	11.3	0.9
	66.5				
10．クラスにまとまりがなく、男女の仲が悪い	28.0	38.4	21.7	11.5	0.4
	66.4				
11．下級生や弱い者いじめがある	26.3	35.2	23.4	13.3	1.8
	61.5				
12．アメやガムをこっそり食べている	16.6	19.3	25.2	24.5	14.4
	35.9				
13．先生の悪口が黒板に書かれる	15.4	22.9	27.1	24.0	10.6
	38.3				
14．他のクラスに比べて、学力が低い	14.2	23.9	28.5	29.4	4.0
	38.1				
15．先生に対抗して、クラスが１つにまとまっている	10.7	19.3	27.1	31.1	11.8
	30.0				

2）荒れている学級の教師

このようにみてくると、学級の崩れや乱れは子どもに起因する面と教師に絡む面とが混ざり合って発生しているようにみえる。そこで、学級の荒れる教師とは何か共通の原因があるのであろうか。

表32は、「荒れてしまったクラスの先生」について、教師たちの持つイメージを示している。「とても＋わりとあてはまる」の数値に着目して項目をみていくと、「子どもの気持ちがわからない」67％が第1位を占める。次いで、「指導力がない」60％、「子どもを叱れない」59％、「決まった子に注意が集中する」52％、「授業中、子どもがしゃべっていても注意しない」50％、「子どもをあまりほめない」50％などの項目が5割を超える。「子どもの気持ちがわからない」に加え、「叱れない」「ほめない」では、教師として問題があろう。

数値からは明らかでないが、聞き取りの結果を合わせて考えると、表32の中に、「荒れ」を起こす教師として、2つのタイプが浮かんでくる。1つは「指導力がないタイプ」で、子どもを叱れず、注意できず、自習や自由時間ばかりとる教師である。優柔不断で、自信を持てない教師である。もう1つは、「指導力があり熱心だが態度が固いタイプ」で、必要以上に決まりに厳しく、よく叱り、さらに注意や賞賛が特定の子どもに集中し、子どもたちから不公平感をもたれ、教師への批判や反発を招く教師である。したがって、子どもの気持ちを理解できない教師と、子どもの気持ちを理解しようとしない教師で、いずれにせよ､子どもとの心の通い合いが大事になる。

「学級の荒れ」現象は、必ずしも新しい現象ではなく、昔の学校にも認められる。ただそれは、「指導力のない教師」あるいは「指導に自信を持てない教師」に対しての反発であった。しかし、近年、強く指導する固い教師に対して、子どもたちが強く反発しているのが目につく。教師の一方的な押しつけに子どもがしたがう形の学級で、現在の子どもを納得させることはできないのであろう。

表32　学級の荒れているクラスの担任の先生

(%)

	とても あてはまる	わりと あてはまる	少し あてはまる	あまり あてはまらない	ぜんぜん あてはまらない
1．子どもの気持ちがわからない	34.9	32.1	21.8	9.1	2.1
	67.0				
2．指導力がない	36.0	23.9	21.7	14.1	4.3
	59.9				
3．子どもを叱れない	29.1	29.5	17.6	17.4	6.4
	58.6				
4．決まった子に注意が集中する	17.4	35.0	26.5	17.2	3.9
	52.4				
5．授業中、子どもがしゃべっていても注意しない	15.9	34.3	24.8	17.2	7.8
	50.2				
6．子どもをあまりほめない	21.4	28.5	25.9	18.4	5.8
	49.9				
7．問題が起こると、子どもの責任にする	26.6	23.1	21.9	20.8	7.6
	49.7				
8．ひいきしたり、不公平な扱いをする	19.5	23.2	24.8	24.8	7.7
	42.7				
9．社会性がない	16.2	23.5	23.7	28.3	8.3
	39.7				
10．自分勝手	16.6	21.6	21.3	28.6	11.9
	38.2				
11．女の子だけ、または男の子だけを強く叱る	12.9	24.2	26.2	29.2	7.5
	37.1				
12．決まりに厳しすぎる	8.4	23.1	27.8	34.5	6.2
	31.5				
13．まじめで熱心すぎる	10.4	21.7	28.4	31.4	8.1
	32.1				
14．何にでもいい加減	10.9	18.8	21.2	35.2	13.9
	29.7				
15．授業以外の仕事が多く、自習が多い	7.2	17.0	23.6	37.3	14.9
	24.2				
16．忘れ物をすると厳しく叱る	3.2	20.4	23.2	44.8	8.4
	23.6				
17．自由時間ばかりとる	4.1	16.8	23.3	42.6	13.2
	20.9				
18．宿題をたくさん出す	2.6	11.9	19.9	53.3	12.3
	14.5				
19．運動が苦手	3.0	10.5	21.2	48.6	16.7
	13.5				

3）「荒れ」の背景

ここまで、「学級の荒れ」が、子どもたちの様変わりを底流に、これに教師の指導力不足が加わって発生したと指摘してきた。しかし、実際には他の要因とも複雑に絡み合っているのが現状であろう。そこで、教師たちが担任の指導力以外に「荒れ」の原因をどのように考えているのか尋ねてみた。**表33**が示すように、「学級の荒れ」の背景として、「基本的生活習慣ができていない子が増えた」について、「とてもあてはまる」40％で、「わりと」を合わせて８割に迫る。以下「とても＋わりとあてはまる」数値で追っていくと、「子どもたちがわがままになっている」74％、「子どもたちが集団内での行動の仕方を知らない」73

表33　「学級の荒れ」が起こる原因

(%)

	とても あてはまる	わりと あてはまる	少し あてはまる	あまり あてはまらない	ぜんぜん あてはまらない
1．基本的生活習慣ができていない子が増えた	40.0	38.0	17.8	3.8	0.4
	78.0				
2．マスコミが学校批判をあおっている	34.3	29.3	25.1	10.3	1.0
	63.6				
3．子どもたちがわがままになっている	31.8	41.9	19.8	5.3	1.2
	73.7				
4．子どもたちが集団内での行動の仕方を知らない	28.2	44.9	19.7	6.4	0.8
	73.1				
5．担任の指導力不足、学級経営の失敗	26.1	36.0	28.1	8.2	1.6
	62.1				
6．保護者が先生を批判したり、学校に非協力的である	25.8	40.4	24.7	8.5	0.6
	66.2				
7．先生をバカにする子どもが増えた	15.6	32.9	33.7	15.8	2.0
	48.5				
8．児童数が多く、全員に目をかけることが困難である	16.6	21.3	25.0	25.9	11.2
	37.9				
9．塾通いする子どもが多く、学校の授業に気を抜いている	12.9	28.8	26.5	25.3	6.5
	41.7				
10．先生と子どもたちの相性が悪かった	10.9	24.8	38.3	20.6	5.4
	35.7				
11．先生に情熱がなくなった	6.0	18.1	28.4	39.2	8.3
	24.1				
12．受け持った学年の経験が不足している	4.2	7.8	27.9	42.9	17.2
	12.0				

%、「保護者が先生を批判したり、学校に非協力的である」66%、「マスコミが学校批判をあおっている」64%、「担任の指導力不足、学級経営の失敗」62%の項目が上位を占める。

担任の指導力不足も確かだが、子どもの生活習慣が乱れ、わがままな子どもが増えた。それに、マスコミ・保護者の学校批判も加わって、学級経営を艱難にしているという指摘である。

なお、「荒れ」の原因について、性別・担任の有無とのクロス集計を示したのが**表34**である。男性教師は「担任の指導力不足、学級経営の失敗」「先生に情熱がなくなった」と担任に問題があると感じている。それに対し、女性教師は「児童数が多く、全員に目をかけることが困難である」「塾通いする子どもが

表34 「学級の荒れ」が起こる原因 × 性・現在担任をしているか

(%)

	性別			担任の有無		
	男性		女性	担任		担任以外
1. 基本的生活習慣ができていない子が増えた	72.9	<	80.6	77.4		78.6
2. マスコミが学校批判をあおっている	61.6		64.2	61.6	<	68.3
3. 子どもたちがわがままになっている	70.5	<	75.7	72.5		75.5
4. 子どもたちが集団内での行動の仕方を知らない	76.5		71.8	71.8		75.4
5. 担任の指導力不足、学級経営の失敗	72.0	>>	57.3	56.9	<<	73.4
6. 保護者が先生を批判したり、学校に非協力的である	66.9		65.7	65.8		67.9
7. 先生をバカにする子どもが増えた	52.4	>	46.5	48.2		47.5
8. 児童数が多く、全員に目をかけることが困難である	28.3	<<	42.6	40.0	>	32.9
9. 塾通いする子どもが多く、学校の授業に気を抜いている	35.1	<	44.6	44.4	>>	32.6
10. 先生と子どもたちの相性が悪かった	35.2		36.0	36.0		34.5
11. 先生に情熱がなくなった	34.3	>>	18.8	20.7	<	29.3
12. 受け持った学年の経験が不足している	13.9		10.8	9.9	<	17.1

「とても」＋「わりと」あてはまる割合
<は5%以上、<<は10%以上の差

多く、学校の授業に気を抜いている」と教育制度や社会的背景を問題にする割合が高い。

もう少し、「荒れ」の原因を探ってみよう。**表35**は「学級の乱れ」を１回でも体験した教師と１度も体験のない教師とで、「荒れ」の原因についてのとらえ方が異なるのかを確かめた結果である。「学級の乱れ」を体験している教師は、「子どもたちがわがままになっている」「先生をバカにする子どもが増えた」「児童数が多く、全員に目をかけることが困難である」が原因であると指摘している。次いで、「基本的生活習慣ができていない子が増えた」「マスコミが学校批判をあおっている」「子どもたちが集団内での行動の仕方を知らない」「塾通いする子どもが多く、学校の授業に気を抜いている」「先生と子どもたちの相性が悪かった」など、子どもの変容が「荒れ」の原因ととらえている割合が高い。

教職経験年数別では、経験豊富な教師が、基本的生活習慣やしつけ、子どものわがまま、教育制度上の問題などを指摘する傾向がみられる（**表36**）。

表35 「学級の荒れ」が起こる原因 ×「学級の乱れ」の体験

（%）

	１度もない		１回以上ある
1．基本的生活習慣ができていない子が増えた	76.3	<	83.9
2．マスコミが学校批判をあおっている	61.2	<	67.1
3．子どもたちがわがままになっている	70.7	<<	84.0
4．子どもたちが集団内での行動の仕方を知らない	71.7	<	77.1
5．担任の指導力不足、学級経営の失敗	62.0		59.2
6．保護者が先生を批判したり、学校に非協力的である	63.9	<	69.2
7．先生をバカにする子どもが増えた	45.6	<<	62.5
8．児童数が多く、全員に目をかけることが困難である	33.4	<<	43.4
9．塾通いする子どもが多く、学校の授業に気を抜いている	39.6	<	45.8
10．先生と子どもたちの相性が悪かった	33.7	<	42.4
11．先生に情熱がなくなった	23.4		24.6
12．受け持った学年の経験が不足している	11.0		11.9

「とても」＋「わりと」あてはまる割合
＜は５％以上、＜＜は10％以上の差

4）「荒れ」を解消するための対応

このように小学校高学年を中心とした「学級の荒れ」の現象を考えていくと、これは、ある意味で「学級王国」の解体現象と考えることができる。子どもが多様化しているだけに、かつてのように１人の先生が40人近い児童の学習を指導することは不可能なのかもしれない。

それでは「荒れ」を解消していくために、どのような対策が望まれるか。**表37**に示したように、学級サイズの縮小を望む声が多い。次いで、時間の合理化や学年としてのまとまりや専科を増やすことへの期待も大きい。その他、「学級の枠をゆるめる」「学年間の積極的な交流を図る」「教科担任制やＴＴ（チームティーチング）の導入」「父母やボランティアの協力」といった学校や学級に柔軟さを求める反応が認められる。

確かに、学級の枠をゆるめることも大事であろうし、学級も含めて、学校のあり方を再検討することも重要であろう。ただ、「荒れ」

表36 「学級の荒れ」が起こる原因 × 教職経験年数

(%)

	10年以下	20年以下	30年以下	31年以上
1．基本的生活習慣ができていない子が増えた	76.2	71.1	82.7	79.4
2．マスコミが学校批判をあおっている	67.2	53.9	66.8	69.1
3．子どもたちがわがままになっている	69.8	62.2	81.1	77.6
4．子どもたちが集団内での行動の仕方を知らない	76.2	66.2	77.5	73.1
5．担任の指導力不足、学級経営の失敗	54.0	65.2	61.4	66.7
6．保護者が先生を批判したり、学校に非協力的である	71.9	62.7	67.1	67.2
7．先生をバカにする子どもが増えた	44.4	44.8	53.5	43.3
8．児童数が多く、全員に目をかけることが困難である	36.5	35.2	38.2	41.2
9．塾通いする子どもが多く、学校の授業に気を抜いている	36.5	35.0	46.9	41.8
10．先生と子どもたちの相性が悪かった	46.0	34.3	33.5	38.2
11．先生に情熱がなくなった	17.2	25.4	24.9	25.4
12．受け持った学年の経験が不足している	11.3	9.9	14.2	10.4

「とても」＋「わりと」あてはまる割合

の基本は、教師と子どもとの人間関係の亀裂で、子どもたちが教師の指導に信頼をおけなくなると、「崩れ」が発生する。それだけに、子どもの心をとらえるのが苦手な教師がＴＴを組んでも問題は解決しないのではないか。

子どもに意欲をもたせることができ、子どもから信頼される教師になるにはどうしたらよいのか。これまでの教師論と異なる発想が必要なように思われる。

表37 「学級の荒れ」を解決していくための対応

(%)

	とても有効	わりと有効	少し有効	あまり有効でない	ぜんぜん有効でない
1．クラスの児童数を20～30人前後にする	44.3	30.5	17.9	5.7	1.6
	74.8			7.3	
2．研究会や会議の時間を減らして、子どもの指導や補習時間にあてる	33.7	31.3	21.9	11.1	2.0
	65.0			13.1	
3．教師の学年ごとのまとまりを強める	33.0	34.9	25.0	5.1	2.0
	67.9			7.1	
4．専科の先生の数を増やし、担任の負担を軽くする	28.8	27.1	23.7	16.1	4.3
	55.9			20.4	
5．ＴＴ（チームティーチング）の制度や副担任の制度などをもっと取り入れる	27.8	33.1	23.6	11.2	4.3
	60.9			15.5	
6．学年間、クラス間の交流を積極的に行う	18.9	38.0	29.9	11.2	2.0
	56.9			13.2	
7．校内研修を活発にする	8.9	17.9	29.8	29.0	14.4
	26.8			43.4	
8．保護者や地域の人に、教室内での学習の補助や協力を頼む	6.9	21.1	29.5	29.9	12.6
	28.0			42.5	
9．授業参観や懇談会、個人面談、家庭訪問などをもっと頻繁に行う	5.9	24.1	40.5	25.0	4.5
	30.0			29.5	
10．１年ごとに担任を替える	5.4	20.9	22.7	38.5	12.5
	26.3			51.0	
11．学校行事をさかんにして、学校を活気づける	4.5	18.7	38.8	29.5	8.5
	23.2			38.0	
12．小中学校でも、退学や停学制度を設ける	4.1	6.1	10.6	31.3	47.9
	10.2			79.2	
13．学級の班学習を活発にする	3.6	23.4	40.3	24.8	7.9
	27.0			32.7	

4 教師の自由記述から

「学級の荒れ」はさまざまな問題を含んでおり、量的な処理になじまない面を持っていよう。そこで、教師向け調査では自由記述のスペースをあけておいた。こうした場合、スペースがあっても、何も書かれていないことがある。しかし、「学級の荒れ」については、自由記述に記載のあるものが89％に達した。多くの教師が、荒れについて、書かずにいられない気持ちになっているのであろう。一枚一枚、先生方の記述内容を読ませていただいた。その中から、主な内容を引用させてもらおう。なお、アンケートは匿名なので、お書きいただいた先生のお名前はわからない。そこで、性別／職務／力を入れている教科・領域／学歴／教職経験年数などを参考までにつけることにした。

● 具体的な事例から)))

520通のアンケート用紙の中には、「荒れ」の事例についてふれているものがあった。１.の教師のようにまわりに「荒れ」がないことも少なくないと思う。しかし、２.や３.の教師のように「荒れ」で苦労している先生も見かける。そうした中で、４.の教師のように、理由のわからない「荒れ」があることも考えさせるものを含んでいる。

１．男性／学年主任／国語／大学院卒／16～20年

校内に荒れている学級はなく、隣接する学校にもそうした姿がみうけられない。マスコミが言いすぎてはいないか。

２．男性／学級担任／体育／16～20年

私は２年連続して「学級の荒れ」を起こし

た学級を担任しました。前年の担任は子育てをしたことのない年配の先生。今年は教師になって間もない先生で、こうしたことを考えると、教師としてたくさんの人間的な経験が大事だと思うようになりました。

ただ、教頭や校長がクラスに入り指導したのですが、本校の場合、子どもたちが反発して事態がかえって悪化しました。退職した校長のようなカウンセラーでなく、養護の先生や専門のカウンセラーなどの外部からの助言がとても救いになりました。

3．女性／学年主任／算数／国公立４年制大学卒／31年以上

本校で学級崩壊があった。教師同士の連絡が悪く、状況がつかめないままに教室が悪化していった。校長も態度をはっきりさせず、教員全体で話し合うこともなかった。その先生が他校へ移って、問題が収まったが、今でも後味が悪い。

4．女性／学級担任／生活科／教育系大学卒／11～15年

身近に学級の荒れがありましたが、その先生は学級経営がうまく、その前の担任の時は親の信頼もあつく、安心してみていられる学級でした。今、その先生の学級が荒れ、授業ができなくなっています。それだけに、学級の荒れに無関係といえない気持ちがします。

●「荒れ」の起きる背景

学級が荒れる背景として、家庭のしつけが乱れ、学校として対応に苦慮しているというような指摘が多いのではと思っていた。確かに、１）の「子どもが問題」や２）「家庭が問題」のような指摘が認められた。それと同時に、３）の文部省や教育委員会のあり方に注文をつける文章もあった。いずれとも、納得のいく指摘である。それとともに、４）のように学校の状況に危機感を抱いている指摘もみられた。「荒れ」を契機に、学校の理想的な姿を考えつづけたのであろう。

しかし、記述をみていて心を打ったのは、先生方が、「荒れ」の原因を、５）のように、教師自身に求めようとする態度だった。言いたいことはいろいろあるが、それよりも、自分自身を振り返って考えようとする態度である。

筆者はマクロにとらえた場合、「現在の荒れ」の基本的な部分は現代の子どもたちの育ちが問題で、教師はそうした余波を受けて、対応を迫られている被害者のようにとらえている。教師たちもそう思っているのであろうが、自分自身の問題としてとらえているあたりによい意味での教師らしさを感じた。こうした教師が多いのなら、「学級の荒れ」はなくなっていくのではないか。

１）子どもが問題

5．女性／教務主任／国語／教育系大学卒／21～25年

子ども自身が耐性に欠け、人間関係の調整力が低下している。

6．女性／学年主任／算数／教育系大学卒／31年以上

基本的な生活習慣ができていない上に、がまんする力に欠けている子どもが増えた。

7．女性／学級担任／国語／教育系大学卒／６～10年

特に原因がなくても、イライラする子やちょっとしたことでキレる子が増えた。それに、ただざわついている子どもも多い。

2）家庭が問題

8．女性／学年主任／国語／教育系大学卒／26～30年
親も子どもも身勝手です。

9．男性／学年主任／算数／教育系大学卒／16～20年
小学校入学までの家庭のしつけができていないこと。悪いことは悪いとしっかり教えてほしい。

10．男性／学級担任／理科／私立４年制大学卒／21～25年
家庭の教育力が低下し、何でも学校任せにしている。子どもたちの基本的な生活習慣ができていないので、あいさつや返事、時間を守るなどのできない子が多い。

11．女性／学級担任／音楽／教育系大学卒／26～30年
40人中16人の子が両親の揃っていないクラスを担任したことがある。それに、その学校は子ども以上に教師間のいじめがひどかった。そうした場合、学級の荒れもしかたがない状況だった。

3）文部省や教育委員会が問題

12．女性／学年主任／国語／教育系大学卒／31年以上
指導要領の教える内容が多いため、みんながわかるまで待っていられない。そのため、授業がわからず、あきらめている子どもが多い。

13．女性／学年主任／算数／短期大学卒／26～30年
担任からすべての自由が奪われている感じがします。親はすぐに非難しますし、校長は市教委に何も言えません。県からはこうしろと指示があるだけです。

14．女性／学年主任／国語／教育系大学卒／31年以上
指導要領に拘束性を持たせるなど、学校や教師の自由を奪い、現場の声に耳を傾けないあり方が個性的な学校や学級づくりを困難にしている。

4）学校も問題

15．女性／学年主任／図書／私立４年制大学卒／26～30年
社会や家庭の様子がまったく変わってしまい、子どもの生活も昔と変わっている。そうした変化に学校がついていけない。

16．女性／学級担任／国語／教育系大学卒／21～25年
学校は一斉授業で持っている。これに規則が加わり、子どもたちの個性を育てられないでいる。

5）教師も問題

17．女性／学年主任／国語／教育系大学卒／16～20年
いろいろの原因があると思いますが、基本は、子どもとの関係がうまくつくれないときに学級の荒れが生まれるのだと思います。

18．女性／学年主任／なし／教育系大学卒／31年以上
教員が自分たちの価値観をすてられず、いつでも、教える対象として子どもをみてしまう。いろいろと事情の違う子どもたちに適切な指導ができないでいる。

19．女性／学年主任／国語／私立４年制大学卒／26～30年
学校が忙しすぎる。子どもに目を向けて、子どもとともに、じっくり生活する時間的、精神的ゆとりがない。

20. 女性／講師／体育／私立４年制大学卒／６～10年
教師の指導力不足がまず第一。大学を卒業してから先生とちやほやされ、人に頭を下げたことのない人が多い。だから、子どもの痛みがわからないと思う。

21. 女性／学級担任／国語／私立４年制大学卒／６～10年
教師の思いと子どもの思いがかみあわず、接点を見いだせない。しかし、教師はおとな、やはり、子どもに寄り添って、子どもの思いを常に聞く必要がある。

22. 女性／学年主任／国語／教育系大学卒／31年以上
子どもが日に日に変化し、その動きが大きいので、教師がよほど努力しないと子どもの変化についていけなくなる。

23. 女性／学年主任／書写／教育系大学卒／21～25年
教員が学務事務に追われ、子どもと向き合っていない。もっと子どものために時間を使うことが大事だ。

●「荒れ」が起きたらどうするか)))

「学級の荒れ」が起こったとき、どうするかについて、同僚の先生の協力を得るなどの声が多いのではと思っていた。しかし、１）の「教師自身の努力」をあげている人が多いのが印象的だった。もちろん、教師が抱え込むのでなく、できることをしようということで、それだけに、２）「子どもの話を聞く」をあげている教師も少なくない。これに３）「同僚などに相談」や４）の「親の協力を得る」も加わる。これを、５）総合的に組み合わせれば、「荒れ」は収まるという指摘である。

確かに小学校の場合、担任の持つ意味が大きいから、担任がしっかりしていれば、学級の「崩れ」が「荒れ」に進むことは少ないと思う。それだけに、多くの教師が「まず担任の努力」をあげているのは、現実的な対応のように思われる。

１）まず、教師自身の努力

24. 男性／学年主任／理科／私立４年制大学卒／21～25年
荒れるにはそれなりの理由があるはずだから、その原因を冷静に分析する。そしてまず、子どもたち個々のことを知る努力を重ねる。

25. 男性／学級担任／障害児教育／私立４年制大学卒／16～20年
学級が荒れているという事実を自分自身で受け入れ、自分が何をできるかを考える。その後で、他の先生に協力を求める。

26. 女性／学級担任／特別活動／教育系大学卒／11～15年
子どもにうそをつかない。おとなの都合を押しつけない。子どもの声に耳と心を傾ける。

27. 男性／学年主任／生活科／教育系大学卒／31年以上
子どもの不満を正直に話してもらい、教師が直せるものは直していく。時には子どもに謝ることも必要だろう。

28. 男性／学年主任／特別活動／私立４年制大学卒／16～20年
個人として原因が何かを分析する。そして子どもと徹底的に話し合い、子どもとの溝をうめる。その際、教師として、ゆずれないことはゆずれないとはっきりと言うことが大事。

29. 女性／学級担任／国語／短期大学卒／26～30年
　1時間1時間ごとの記録をきちんととり、問題点を洗い出す。まわりの先生の協力を得るようにしたい。

2）子どもの話を聞く

30. 男性／教務主任／特別活動／国公立4年制大学卒／16～20年
　子どもたちの気持ちを聞くとともに、保護者にも協力を求める。そして、子どもとともにやりなおし、修正をしていきたい。

31. 女性／学級担任／国語／教育系大学卒／16～20年
　子どもたちに「本当に自分たちが望んでいることが何か」を討論させ、一緒に討論に加わる。それとは別に、毎日、おもしろい本を読んで聞かせる。

32. 女性／専科／図工／教育系大学卒／26～30年
　クラス会を開いて、一人一人の考えを何回も聞く。子どもに不信感を与えることがあったら、それを素直に謝ることも大事だと思う。

3）同僚などに相談

33. 女性／学級担任／国語／私立4年制大学卒／11～15年
　問題を1人で抱え込まず、同学年の先生方、管理職にもオープンにし、率直な意見を求めたい。

34. 女性／学級担任／生活科／国公立4年制大学卒／26～30年
　自分の授業を先生方に見てもらい、荒れの原因と思われるものを指摘してもらう。

35. 女性／学級担任／理科／教育系大学卒／26～30年
　まず、校内の先生に事情を話し、理解してもらい、協力してもらう。それと同時に、保護者会を開き、事情を説明し、ともに考え、解決策を練る。

4）親の協力を得る

36. 女性／専科／図工／教育系大学卒／31年以上
　まず、親を呼んで、クラスの状況を報告し協力を求める。その後、学級の時間を設定して、親も交えて、学級のあり方を子どもを中心に話し合う。

5）総合的な対応

37. 男性／教頭／体育／短期大学卒／26～30年
　まず、自分の学級経営に対して分析をする。そして、同僚の先生や親に協力してほしいことを明確にし、学級を開く努力をする。

●「荒れ」を起こさないために)))

「荒れ」になってからでは遅いので、学級を「崩れ」にとどめることが重要であろう。そこで「荒れを起こさないために」を尋ねると、1）「教師の努力」をあげる教師が多かった。確かに、子どもの心をつかめるように努力したり、話しかけなどを行っていれば、「崩れ」も生じないのではないか。その他、2）の「子どもへの働きかけ」を行うとともに、時には子どもの心をつかむために、3）の「実践的な取り組み」をすることも大事であろう。もちろん、4）の「親への働きかけ」も有効であろう。

　自由記述を読んでいて、「荒れ」には多くの背景があるにせよ、教師がしっかりとして

いれば、学級の「崩れ」が「荒れ」に進むのを防げると思うようになった。そのためには、教師が思いきって力量を発揮できるように、個々の教師の自主性を尊重する雰囲気が学校内にかもしだされることが大事になろう。もちろん、そうした反面、「荒れ」が起きそうなら、それを学校全体で協力して、「荒れ」に進ませないチームワークが望まれよう。いずれにせよ、子どもや親を巻き込んで、楽しい学級づくりをすることが「荒れ」を生まない特効薬であろう。

1）教師の努力

38. 女性／専科／生活科／短期大学卒／31年以上

日ごろから、信頼関係ができるようなかかわりを持つようにする。そのために、積極的にカウンセリング講座に参加するようにしている。

39. 女性／専科／音楽／私立４年制大学卒／21～25年

子どもが話しやすいような雰囲気をつくるようにする。そして、子どもの話を聞く。子どもの様子を見守る。

40. 女性／学級担任／体育／教育系大学卒／16～20年

「もめる」や「叱る」などについて自分の考えていることを素直に伝える。何げない子どもとの会話が大事だ。

41. 男性／教頭／理科／教育系大学卒／26～30年

子どもの考えがわかるように、自分自身の感性を育てておく。

42. 女性／学年主任／国語／26～30年

楽しい授業ができるように、いろいろな教材を積極的に探すとともに、学外の研修会に顔を出して、視野を広げておく。

2）子どもへの働きかけ

43. 男性／教頭／道徳／教育系大学卒／46～50年

子どもとの雑談、遊び、そして、保護者との話し合いによって情報キャッチに心がける。

44. 女性／学年主任／国語／教育系大学卒／26～30年

①「おはよう」などのあいさつをすすめる、②楽しい授業、③自分のよさを確認する学習。

3）実践的な取り組み

45. 女性／学級担任／社会科／教育系大学卒／６～10年

集団生活を始めるためのルールを４月はじめに子どもと話し合ってきちんと作っておくこと。お互いに気持ちよく生活していくためのルールづくりであることを理解させる。

46. 女性／学級担任／国際理解／教育系大学卒／11～15年

４月はじめが大事なので、２、３日を使って、学級の主体は子どもであることと、どの子も大事なことなど、教師としての気持ちをはっきりと伝える。

47. 女性／学年主任／体育／教育系大学卒／21～25年

マラソンやなわとびのような学級全体で取り組める課題をきめ、皆ではげましあっていける雰囲気をつくる。

48. 男性／学級担任／体育／教育系大学卒／21～26年

子どもたちと交換日記を始める。子どもに使い方の全部を任せる時間を設定するのも有効であろう。

49. 男性／学級担任／社会／国公立４年制大学卒／21～25年

一日に１、２回、授業中に無理にでも少し時間を取って、子どもたちと話し合う時間を作る。

４）親への働きかけ

50. 男性／教頭／体育／短期大学卒／31年以上

教師がどう考えているのかを保護者に知らせておく。かすり傷くらいのことでもこまめに連絡しておけば、親との関係がスムーズになる。

まとめに代えて

「荒れ」を克服するために

実情をつかんで、対応を

モノグラフ・シリーズでは、これまで中・高校を中心に、「いじめ」「援助交際」や「キレる」などのテーマを扱ってきた。こうしたテーマを扱うとき、それらが社会問題化しているから分析の対象としようとしたのではない。正直にいって、新しく登場した「いじめ」や「キレる」をどうとらえたらよいかわからない。もちろん、対応もはっきりとしない。そこで、調査を通して実態をつかみ、問題に対する理解を深めている。

「キレる」などはその典型だが、分析を終えると、「ムカつく」と「キレる」との違いがわかると同時に、「キレる」がそれほど量的には多くはなく、「キレる子」はそれなりの背景や特性を持っていることが明らかになった。したがって、「普通の子」がキレることはきわめて少ない。「キレる子」もそれなりの対応をすれば、キレの回数を減らすことが可能だ。そうした状況がわかると、「キレる」を理解できるようになり、「キレる」をそれほど不安になる気持ちが薄れた。

「学級の荒れ」についても、「学級崩壊」というのは誇張しすぎると思うが、授業が成り立たない状況はそれなりに広まっているのではないかと思うものの、今まで実態をつかめなかった。それだけに、期待を持って、データの読み取りにあたった。

「学級の荒れ」の背景

調査結果については、本文に示した通りだが、確かに「学級の崩れ」は広範囲で認められる。それに対し、「学級の荒れ」は例外的な傾向のように思われる。そうはいっても、「乱れ」に油断していると、「乱れ」から「荒れ」に進む可能性は否定できない。しかも、「荒れ」になってからでは、対応が難しい。

いじめや不登校と同じように、「学級の荒れ」を３段階に分けた場合、少なくとも第２段階の「乱れ」の状況にとどめることが重要であろう。

それでは、学級の「崩れ」や「乱れ」はどうして増加しているのか。「荒れ」をどの範囲の視野でとらえるのかによって考察が異なってくるが、とりあえず、「学級の荒れ」をもた

らした背景を「集団内での行動に慣れていない子どもたちの増加」が土台にあり、それに「子どもたちの変化に対応できない教師の姿勢」が加わると説明することができよう。

このうち、子どもの変容は子どもたちの成長のスタイルと関連してくる。改めてふれるまでもなく、現代の子どもは群れ遊びの体験を持つことなくして育っている。学校にいるときはともあれ、放課後は基本的に１人でテレビを見たり、マンガを読んだりして、時間を過ごしている。友だちとつきあうことなく、子ども部屋の中で、マイペースな時間の過ごし方をしている子どもたちである。

かつての子どもは群れの中でケンカをしたり、いじめられたり・いじめたりしながら育ってきた。それに、異年齢の子どもが群れているので、上の者の指示にしたがったり、下の子の指示をしたりする体験も積んでいる。それだけに集団の中での行動の仕方を身につけていた。そうした子どもたちなら、多少は退屈でも、静かに授業を聞くことはできた。

もちろん、そうした群れ体験のなさに加え、子どもたちは基本的に何でも欲しいものが手に入る環境の中で生活しているので、がまんをしたことがない。耐性に乏しい子どもたちである。それだけに、これまでと比べれば、眠りたいときに眠り、しゃべりたくなったら私語をかわす子どもが多くなろう。

しかし、ここでは、集団生活が苦手な子どもがどうして増加したのかを考えることにそれほど意味があるとは思えない。現代の子どもの成長を分析するのが目的ではないからである。そうしたマクロな問題は別の機会に考えることとして、ここで留意しておきたいのは、これから先、これまで以上に集団生活に溶け込めず、身勝手な子どもが増えることだけは確かという事実であろう。

そして、子どもたちはそうした変容をとげているのに、教室での授業は昔と同じようなスタイルをとり続けている。学級に40人近い子どもがいて、黒板を背にした教師が教科書片手に教材を伝達していく。テレビやテレビゲームなどのない時代と同じ授業の形である。そうだとしたら、現代の生活に慣れた子どもたちが授業に耐えられず、「崩れ」を示すのも無理からぬ気がしてくる。

私語を交わす子どもの肩を持つつもりはないが、学校があまりに堅苦しく、子どもたちにとって居心地のよい場になっていないことが「学級の荒れ」の底流にみられるように思われる。

教室を「荒れ」から防ぐために

「教室の荒れ」を考えるとき、理想の教室をどうとらえるかが重要になる。教室の理想の姿は子どもたちが静粛に先生の話を聞く姿なのか。それとも、教室内が多少ざわついても、子どもたちが意欲的に学習に取り組んでいる形なのか。

子どもたちが静まりかえって、教師の一方的な話を聞いているのが「正常な教室」と考え、そうした姿を望む態度は再考の余地があろう。子どもたちは話を聞いているだけで、形式的な授業は成立していても、授業の内実は乏しい。子どもたちが自主的に動き回り活動しているのなら、静かでなくとも、教室の

中は、それでいいのではないか。

そうした前提をふまえて、「崩れ」を「荒れ」から防ぐためにどうしたらよいのか。まとめに代えて、４つの提案を行っておこう。

①　子どもが自主性を発揮できる授業を心がけよう

いすに座ったまま、何時間も先生の話を聞いて過ごすのに向いた子どもは少数であろう。動き回りたいのは子どもらしさであろう。それだけに、子どもたちが自発的に学習できる授業を試みよう。一斉授業の形をできるだけ減らして、学級を小集団に分けて、学習を進める。あるいは、個別の課題を与えて、個人的な学習を進める。そして、全体で討論する時間をとるなど、多様な方法を駆使して、子どもを学習に巻き込むような授業のあり方を検討したらどうか。

②　「教室の決まり」を決めよう

学級の崩れは、授業を聞くルールが崩れたことから生じている。授業中に話していいのはどういうときなのか。あるいは、いすを離れるときのルールをどうするのか。その他も含めて、授業を聞くルールを学級ごとに決めたらどうか。子どもたちに話し合わせ、話を聞くルールを決めさせよう。もちろん、子どもたちが話し合って内容を決めるのであるから、守ることが大事だ。決めたことが守られない場合の罰則も、あらかじめ決めておこう。

「授業中に２回以上大きな声をたてた子どもは、廊下に出る」「廊下に出ることが、２回以上はレッドカードで、親に連絡する」とか「迷惑と感じた子どもは、拳を握って手を挙げる。手が挙がったら授業を中止して、事情を聞く」など、いろいろなルールが考えられていいように思う。

こうした形で授業を聞くときのルールを子ども自身が決め、教室内に「教室の決まり」として張り出し、それを守る慣行を作ろう。もちろん、１度決めたら、ずっと変えないというのでなく、３か月ごとにルールの見直しを行うことも大事になる。

③　教室の境を弱めよう

担任は学級のすべてに責任を持つ。それはいい意味での学級担任制のあり方で、そうした学級の姿を大事にしたいと思う。そうした反面、授業が危うくなりそうなら、少なくとも同じ学年の教師は苦労している教師の応援をしよう。

各学級の個性を尊重しながら、担任同士が互いに協力するルールを作る。教室の境をゆるくして、学校内に互いに自由に話せる雰囲気をかもしたいと思う。

④　楽しい学校を心がけよう

こうした試みを行っても、多くの子どもにとって、授業は心が暗くなる時間帯であろう。考え方にもよるが、授業は楽しくないものかもしれない。それだけに、授業以外の場面で楽しさを追求しよう。遠足や運動会、修学旅行などにあたって、子どもの自主性を最大に尊重して、子どもたちが学校や学級に愛着を持てるような学校づくりを試みてほしいと思った。

わいわい・ガヤガヤ
―子どもの広場―

東京成徳大学教授　深谷和子
筑波大学大学院生　下山晃司
東京成徳大学大学院生　志村聡子
東京学芸大学大学院生　田中ゆみ
東京学芸大学学生　出水衣絵
東京学芸大学学生　北原令子
東京学芸大学学生　持田恭子

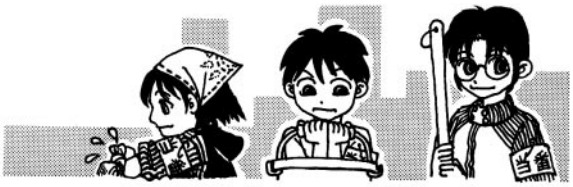
わいわい・ガヤガヤ
―子どもの広場―

子どもたちに聞いてみたい。
君たちの中にある時間の流れ、君たちの心の風景、君たちの夢の色。
そして暮らしの四季。

日頃のアンケート調査では拾い上げられない、
子どもたちの心の世界をのぞいてみました。
小学校４・５・６年生の子どもたち、300人との交信をお届けします。

（★印は子どもの声、＜　＞内はコメントです）

1 学校って、どんなところ？



★いやなところ（小４男子）
＜のっけから、パンチ！＞

★あまりおもしろくないところ（小６男子）
★あまり好きじゃないところ（小６男子）
＜あまりなんて言わず、もっとハッキリ言っていいのに＞

★いじわるな人がいっぱいいるところ、とても残酷で最悪なところ。僕をいつもしつこくからかってくる（小６男子）
＜負けないでね＞

★みんなと同じようにするところ(小５女子)
＜辛辣！＞

★ウサギ飼ってるところ（小４女子）
＜それだけの意味しかないんだ！＞

★勉強するところ（小６女子）
★勉強したり、友だちとのきずなを深める（小６男子）
★友だちと会って、勉強して、遊んで、皆と生活して……やっぱり勉強するところかもしれない（小６女子）
＜結論は勉強するところなのね＞

★おもしろいような、つまらないようなところ（小５女子）
＜複雑ね＞

★やさしい人もいれば、気が強い人もいるところ（小４女子）
★いじめられもしたけれど、おもしろいところ（小６女子）
＜いろいろあるね＞

★友だちがいて、好きな子がいたりして、おもしろいところ（小６女子）
＜みんなが、そう思っててくれたらいいんだけど＞

★古くてもぜんぜん壊れない（小５男子）
＜学校を変えなきゃって、おとなはみんな思っているんだけど、でもなかなか…＞

2 今あなたのいちばんの心配事は？

★ふとりすぎかな（小４女子）
★背が小さいこと（小４男子）
★頭が悪い、かっこ悪い（小５男子）
★視力が悪いこと（小４男子）
★つめを噛むのがやめられない。おとなになって、みんなみたいになれるのかなぁと思ってる（小５女子）
★顔に痣があってレーザーで消す治療をしているが、うまく消えるか心配（小４女子）
＜小さなことよ。いいところたくさんのあなたじゃないの＞

★ゲームのやりすぎ（小６男子）
★自転車は買えるのか（小６男子）
★自分のお菓子が食べられていないか（小６男子）
＜どこにかくしてあるの？＞

★ウソをときどき言うこと（小４男子）
★内緒で買ったものがバレないか（小６男子） ＜ドキドキだね＞

★ローマ字をまだ全部書けないのが心配（小５女子）
★明日のテスト（小６女子）
＜ドンマイ、なるようになるさ＞

★メダカの水槽にタニシ発生（小６男子）
★学校の後期の計画委員がぼくらにできるかということ（小６男子）

★給食で嫌いなものを食べれるかな（小４女子）
＜残しちゃいけないの？＞

★明日はみんなと仲良くできるかなぁ（小６女子）
★クラスのみんなに嫌われているかもしれない（小６女子）
★みんなにいじめられることや、勉強やスポーツができないこと（小６男子）
★クラブや委員会で自分だけ遅れていくのが心配。みんなと気軽にしゃべれない（小５女子）
★毎年いちばんの友だちがどこかに行ってしまうこと（小４女子）
★中学に行くとき、親友と別れてしまうと思うと心配（小６女子）
＜学校にはストレスがいっぱい！　でも負けないでね＞

★まだ、この小学校に（転校してきて）なれていないこと（小４女子）
＜今は、友だちいっぱいできたでしょ＞

★ペットが死なないか心配（多数）
★ペットが車にひかれて死んでしまうんじゃないか（小６男子）
＜ペットは、昔から人のベストフレンド＞

★今日、野球に行けなくなること（ヤクルト－阪神戦）（小６男子）
★習い事の剣道の練習がたいへんなので、ついていけるか（小６男子）
＜剣道の防具が汗くさいから、それでいやになる子も多いんだって？＞

★本当に受験できるか（小５女子）
★志望校に合格するでしょうか（小６女子）
＜みんなと一緒に行ける中学校も、なかなかだと思うけど＞

★アトピーのアレルギーが増えないかなぁ（小４女子）
★喘息の発作（小４男子）
★喘息は治るのだろうか（小４女子）
＜おとなになるまでに、治るよ、きっと！＞

★お父さんとお母さんはいつ死んでしまうのか（小６女子）
＜ドキッ！＞

★お母さんが死ぬこと（小５男子）
★お母さんの心臓病（小６女子）
★お母さんが、いつも仕事から帰ると疲れた顔をしていること（小４女子）
★お父さんがタバコをすってるので、ガンにならないか心配（小６女子）
＜お母さんの方が、子どもに心配してもらえるんだね＞

★弟のわがままがなおるか（小４男子）
★妹の点数が悪いこと、弟がいじめられていること（小５女子）
＜やさしいお姉さんね＞

★弟の病気（小６男子）
★家族が病気にならないか（小４女子）
★家族が事故をしないか（小６男子）
★家族がボケないか（小６女子）
＜大丈夫、大丈夫！＞

★家のお金どのくらいあるのか（小４男子）
＜1999年の日本の世帯平均貯蓄は1366万円ですって。安心してね＞

★カラスに襲われる（小６男子）
★変な人と会わないか（小４男子）
★自分が殺されてしまうんじゃないか（小６男子）
★自分が長生きできるか（小５男子）
★自分が死んでしまうこと（小６男子）
＜人生にはコワイことがいっぱいだね＞

★自分の人生（小４男子）
★この後、人生がどうなるか（小６男子）
★いい職業が見つかるか（小４男子）
★将来野球選手になれるか心配（小５男子）
★うまく結婚して、無事に子どもを産めるだろうか（小６女子）
★地球温暖化（小６男子）
＜「人間万事塞翁が馬」っていうことわざ、そのうち習うと思うよ＞

★ノストラダムスの大予言（小５男子）
＜おとなは、だれも本気にしてませんでしたよ＞

★このアンケートを書いたことが、人にバレないか（小４男子）
＜無記名なんだけど＞

★教えられません（小６男子）
＜プライバシーの侵害？＞

3 あなたがいちばん幸せだなあと思うのは、どんな時？

★外で遊べるとき（小５男子）
★１日中遊べるとき（小５女子）
★友だちと遊んでいるとき（小６男子）
★○○君という大親友の人と遊んでいるとき（小６男子）
＜君たちを、もっともっと遊ばせてあげたいね＞

★日曜日の休み（小６男子）
★家にいるとき（小４男子）
★柔道をやっているとき（小５男子）
★釣りをしているとき（小５男子）
★好きなことをしているとき（小４男子）
＜おとなも同じだ＞

★習い事がなくて、家で楽にしていられるとき（小４男子）
＜すること、いっぱいだもんね＞

★疲れているときに、夜早く寝れるとき（小４女子）
＜これって、ほんとに幸せ＞

★寝る前の布団に入っているとき（小６女子）
★布団に入る２秒前（小６男子）
★お風呂に入っているとき（小４女子）
★寝ているとき（小６男子）
★勉強が終わって、ほっとしたとき（小６女子）
＜「癒しのグッズ」が売れているのがわかるね＞

★何か食べているとき（小６男子）
★お腹がいっぱいになったとき（小６女子）
★朝ご飯がコーンフレークだったとき（小４男子）
★ラーメンを食べているとき（小４男子）
★和幸のとんかつが食べられたとき(小６女子)
＜お母さん、とんかつ揚げるぐらい、料理人に負けないで！＞

★できないことが、できたとき（小６女子）
★自分の思い通りになったとき（小６女子）
★習字がうまく書けたとき（小６女子）
★恐竜、ゴジラ、ガメラのことを、今までよりよく覚えたとき（小６男子）
★ゲームをクリアしたとき（小６男子）
★プラモデルが完成したとき（小６男子）
★ホームランを打ったとき（小４男子）
＜向上したい心は、だれにもあるね＞

★応援している球団が勝ったとき（小４男子）
＜どこ？　巨人？＞

★志望校に合格して喜ばれたとき（小６女子）
＜その日がくるといいね＞

★母や父や姉と遊んだりしているとき（小６女子）
★家族全員で１日過ごしているとき(小６女子)
★家族みんなで出かけるとき（小４女子）
★お母さんやおばあちゃんに、お小遣いをもらったとき（小６男子）
★家族がやさしいとき（小４女子）
★お母さんがやさしくしてくれたとき（小４女子）
＜家族っていいね、大事ね＞

★お姉ちゃんとケンカするとき（小４女子）
＜遠慮しないで戦える相手のいる幸せ＞

★学校に来ているとき（小５男子）
＜みんながそうなら、不登校問題なんて起きないのに＞

★別荘に行っているとき（小６女子）
＜いいなぁ！＞

★１人で電車に乗るとき（小６男子）
＜おとなになった気分がするもんね＞

★新しい友だちができたとき（小５女子）
＜心があったかくなるね＞

★大好きだよって言われたとき（小４女子）

★好きな人と２人きりでいるとき（小４女子）
＜女の子はおマセさんだっていうけど、ほんとだ＞

★誕生日（小４女子）
＜プレゼントもらった？＞

★クラスのみんながほめてくれたとき（小５女子）
＜認められるって本当にうれしいね。自分を好きになれるときかも＞

★だれかが喜んでくれるとき（小６女子）
＜グレードが高い幸せね＞

★生きているとき（小４女子）
＜こんなこと考えられる君はすごいなぁ＞

4 今、いちばん会ってみたい有名人はだれ？

★松井稼頭央（西武ライオンズ　ショート）（男子多数）
★長嶋茂雄（男子多数）
★松井秀喜（男子多数）
★松坂大輔（男子多数）
★高橋由伸（男子多数）
＜どうして男の子って、こんなに気が合っちゃうのか＞

★巨人の選手全員（小５男子）
★イチロー（小４男子）
＜Ｊリーグ熱はどこへ行ったのか＞

★ジャイアント馬場（小５男子）
＜もともとは、野球選手だったって知ってる？＞

★志村けん（小６男子）
★加藤茶（小６男子）
★ナインティナイン（小６男子）
★所ジョージ（小６男子）
★キャイーン（小４男子）
★タモリ（小４女子）
＜お笑い系も男の子の人気ね＞

★宇多田ヒカル（多数）
★ドラゴン・アッシュ（小５男子）
＜人気急上昇中ね＞

★ラルク・アン・シエル（多数）
★グレイのジロー､ラルクのハイド（小６女子）
＜ビジュアル系ってやつね＞

★KinKi　Kids（多数）
★Ｖ６（多数）
★ジャニーズJr.のみんな（多数）
★堂本剛（小６女子）
★ＳＭＡＰ
★木村拓哉（小６男子）
＜ジャニーズ系ね＞

★ＳＰＥＥＤ（多数）
★安室奈美恵（多数）
★ＤＡ ＰＵＭＰ（小６女子）
＜相変わらず強い沖縄勢＞

★ＰＵＦＦＹ（女子多数）
★ＥＬＴの持田香織
★Misia（小５女子）
★遠藤久美子（小５女子）
★鈴木紗理奈（小４女子）
★光浦靖子（小４女子）
★雛形あきこ（小４女子）
★千秋（小４女子）
★ビビアン・スー（小５女子）
＜あなたの親はどのくらい知ってる？＞

★広末涼子（小６女子）
★松嶋菜々子（女子多数）
＜だれにでもわかりやすいね＞

★天皇陛下（小６女子）
★クリントン大統領（小４男子）
＜偉い人がお好き？＞

★野村沙知代（小５女子）
＜あの強さにこっそり憧れてるおとなもいるんだって、週刊誌の分析によれば＞

★鈴木その子（多数）
＜話題の人ね、白塗りの。何でそんなに人気なの？＞

★ドラえもんの声をやっている人、ちびまる子ちゃんの声をやっている人（小５女子）
＜大山のぶ代さんと、TARAKOさんよ＞

★ガチャピン（小５女子）
＜ムックにも会いたいね＞

★鈴木あみ（多数）
＜今ＣＭにいっぱい！＞

★天童よしみ（小５女子）
★中村玉緒（多数）
＜キーホルダーでおなじみ＞

★西田敏行、武田鉄矢（小５男子）
★田村正和（小５男子）
★グッチ裕三（小５男子）
＜渋いね＞

★宮崎駿（小４女子）
★手塚治虫（小６女子）
＜なんったって、すごいアニメだもんね＞

★フルハウスの家族（小４女子）
★ゴルゴ13（小６男子）
＜ボクも会いたい！＞

★織田信長（小５女子）
★上杉謙信（小５男子）
★坂本竜馬（小６男子）
★昭和天皇（小６男子）
＜歴史は君たちの中で生きてるのね＞

★エジソン（小５女子）
★コロンブス、ノーベル、ナイチンゲール、ライト兄弟、ファーブル（小４男子）
★夏目漱石、野口英世（小４男子）
＜伝記もしっかり読んでるみたい＞

★ブラッド・ピット、アーノルド・シュワルツェネッガー、ダスティン・ホフマン、ハリソン・フォード、ドリュー・バリモア、デミ・ムーア、ブルース・ウィリス、ベン・アフレック（小６女子）
＜将来はハリウッドスターかな？＞

★Mr.ビーン（小６女子）
＜ローワン･アトキンソンさんていうのよ、知ってる？＞

★なすび（小６女子）
＜懸賞で、なすびに会える権利を当てちゃお＞

★会いたくない（小５男子）
★とくにいない（小６男子）
＜有名人に会ってどうするって？＞

★有名人ならだれでもいいから会ってみたい（小４女子）
＜野次馬さんね＞

5 あなたが今までいちばん大きなウソをついたのはどんな時、だれに、どうして？

★お母さんのいないときに、友だち３人とプリンを作ったこと。でも、ばれてしまった。お母さんはすごい（小６男子）
＜さっすがだなあ、お母さん！　台所にプリンのいい香りが残っていたのかもね！＞

★友だちに殴られたあと、お母さんに「きょうみんなと仲良くした」とウソついた。どうしてかはよくわからない（小６女子）
★友だちとケンカして負けたんだけど、親には「勝った」と言った（小６男子）
★リレーの選手になれなかったのが悔しくて「まじめにやんなかった」と言った。お父さんとお母さんと友だちに…（小６女子）
＜人にはミエってものがあるからね。でもがんばったんだから、それでいいじゃない＞

★妹に、自分は自殺すると言った（小５女子）
★弟に、空を飛んだと言った（小４男子）
★妹が「これほしい、あれほしい」といろいろ言うので、「あれなくなっちゃった」とウソをついた（小４女子）

★自分が悪いことやったのに、弟のせいにした（小５男子）
★お菓子を食べたのに食べてないと言った。お姉ちゃんに怒られるから（小４男子）
＜ここだけの話、妹や弟ってだましやすいのかもね＞

★友だちに、ゴリラが立っているところを見たと言った（小４男子）
★友だちに「ぼくはグレイと友だちなんだ」とウソをついた
★話をしているとき、友だちに話が合うように、ウソをついた（小４女子）
★心霊写真に○○が見えると言われ、見えないのに見えると言った。友だちに馬鹿にされると思ったから（小４女子）
＜実はだれにも見えてなかったりして＞

★友だちに、遊べるのに遊べないと言ってしまった。疲れてたから（小５男子）
★体重を４Kgウソをついた。男友だちに。自分がやせているようにしたかったから（小６男子）
＜おとなはみんなやせたがってるけど、小学生でもそうなの？＞

わいわい・ガヤガヤ
―子どもの広場―

★お使いに行って、おつりをごまかした（小６女子）

★だれかのものを盗んじゃった。言いたくなくて、ウソついちゃった。でもその後あやまった（小６女子）

＜人生には「魔が差す」ということがあるからね。でも、もう二度としないようにしようね＞

★親のお金をとったのに、とってないと言った（小５男子）

★校庭にあった車のガラスを割ったことを、校長先生にウソをついた（小６男子）

＜ついてもいいウソと、いけないウソがあるとしたら、これは、ついちゃいけないウソだね。でもきっとバレたと思うけど＞

★学校でマッチをトイレでつけているということで､だれがやったのか知っていたけど、先生や友だちには言わなかった｡なぜなら、そのなかには僕のいちばんの友だちがいたから（小６男子）

＜友だち思いなんだね、火遊びは危険だけど＞

★親が友だちから結婚記念日にもらったネックレスをつけていて、なくしてしまい、ウソを連発したけど、結局バレてしまった！

＜バレて、気が楽になったでしょ＞

★友だちと金の貸し借りをしたとき、してないと言った。お父さんに殴られるから（小４男子）

＜友情は大事だもんね。理由もきかずに殴るお父さんの方が悪いよね＞

★幼稚園でお弁当を残したこと。親がこわかったから（小４男子）

＜小さなことだけど、まだ覚えてるのね＞

★帰るとき遅れて、（お母さんに）友だちのせいにした（小５男子）

★お母さんに公園に行くとかいって、友だちと買い物に行った。言うと、絶対行かしてくれないから黙って行った（小４女子）

★習い事に行きたくない気分のとき、お母さんに「おなかが痛い」と言った（小４女子）

★買わなくていい物を少し買って、買わないふりをした、母に。ほしかったから（小６男子）

★朝、お母さんに歯磨きをしてないのにしたと言った。面倒だったから（小５女子）

★まずい薬がいやで、飲んでないのに親にもう飲んだと言った（小４男子）

＜おとなでもまずい薬は飲みたくないもん。でもカゼなかなか治らなかったんじゃない？＞

★犬に噛まれたとき。お母さんには言いたくないので（小６男子）

＜ちゃんと手当てしてもらわないと、傷がひどくなったら大変よ＞

★友だちの家で「お泊まり会」をしたとき、「早く寝なさいよ」とお母さんに言われたのに朝まで起きていた。なぜかというとみんな起きていたし、眠くなかったから（小６女子）

＜友だちみんなと寝るときって、なぜかちっとも眠くならないね＞

★エイプリルフールにお兄ちゃんに｡だって、ウソついてもいい日だから（小４男子）

★エイプリルフールに、お母さんやお母さんの友だちに、弟が電車のホームに落ちて、駅の人にひろってもらったと言った（小５女子）

＜ちょっと、キツかったかもね。でも、君のお母さんの驚いた顔、見てみたかったなあ＞

★ないしょ（ヒ・ミ・ツ）（小６男子）
＜「ないしょ」って言われると、すごーく気になるよ＞

★なーい（小６女子）

★大きなうそをついたことはありません（小６女子）
＜これが、いちばんの大ウソ大賞かもね＞

6 今あなたが、集めている物があったら教えて

★プリクラ（多数）
★ゲームのソフト（多数）
★ポケモンの中でいちばん強いニョロゾグッズ。たとえばニョロゾ時計、ニョロゾぬいぐるみ、ニョロゾナプキン、ニョロゾ自由帳、ニョロゾプラコロ、ニョロゾ牛乳キャップ（小５男子）
★Hamhamchanなど、ハムスターグッズ（小４）
★ペタペタペッピーのグッズ（小４女子）
★プラモデル（ガンダムシリーズ）（小６男子）
★ビーダマン（小６男子）
★遊戯王のカード（小６男子）
★ＣＤ、キーホルダー（小６女子）
★レターセット（小６女子）
★動物のぬいぐるみ（小４女子）
＜売ってるもんばっかりだね。昔の子どもは、きれいな石とか、牛乳ビンのフタとか…でも今の牛乳は紙パックで、フタなんてないか。まわりに石も落ちてないしね＞

★シール集め（多数）
★カード集め（小６男子）
＜今はこういうものが集めやすいんだね＞

★紙せっけん（小６女子）
★きれいな石、貝殻（小４男子）
★お菓子についてくる動物の写真（小６女子）
★おまけのおもちゃ（小４女子）

★100円のガチャガチャ（ガンダム）（小６男子）
＜君たちのお父さんやお母さんも集めていた！＞

★お金（小６男子）
＜おとなも集めたいんだけど、なかなか集まらない＞

★テスト（小６女子）
＜お姉さんは、捨てたいような点のテストばっかりだったけど＞

★マンガ本（小６女子）
★雑誌（プチ）（小６女子）
★車の本（小５男子）
★宮澤賢治の本（小６女子）
★気象予報士の本（小５女子）
＜気象予報士は今、人気だね＞

★友だち（小４女子）
＜いい友だち集めてね、数ばかり多くてもしょうがないけど＞

★アメリカのお金、台湾のお金、韓国のお金（小４女子）
★ロシアのお金（小４男子）
★外国のお金（小６男子）
＜国際化が進んでるって、こういうことなんだね＞

募集！

**「わいわい・ガヤガヤ－子どもの広場－」の調査に
ご参加くださるクラスを募集しています。**

1．クラス単位でお申し込みください。記入用紙（Ｂ４・２枚程度）はお送りいたします。

2．書いたお子さんが特定できるような、プライバシーにふれる内容は拾いませんので、ご安心ください。

3．10クラス程度を募集します。はじめにまとめて学校名を下記のように入れさせていただきますが、ご都合で伏せていただいても結構です。
●●小学校、●●小学校、●●小学校……の４年、５年、６年の皆さん

4．ご応募が多いときは、ご希望に添えない場合もありますことをお含みください。

7 あなたの宝物はなに？

★ゲームのソフト（多数）
★プリクラ（多数）
＜お小遣い、もっとほしいでしょ＞

★テレビゲーム本体（小６男子）
★レアなカード（小６男子）
★ＳＰＥＥＤのポスター（小６女子）
★キティちゃんのグッズ（小６女子）
★ＣＤ、シール、まんが、ほし砂、家族などたくさんある（小６女子）
＜最後に、家族が入ってうれしい！　大事にしてね＞

★バット（小４男子）
★バイオリン（小４女子）
★バスケットボール（小４男子）
★フクロウの人形（小４女子）
★エアーガン（小６男子）
＜こういうもの、もっといろいろ出てくるかと思ったけど＞

★自分のものすべて（小６男子）
★自分の布団（小６男子）
★赤い毛布（小６男子）
＜見たことがないなぁ、魔法の毛布かな？＞

★小さい頃の思い出です（小６女子）
＜うれしいお答えね＞

★涙ビンとか、おばあちゃんにもらった鏡（小６女子）
★友だちや家族からもらったもの（小６女子）
★おじいちゃんからもらったすごく歴史のある医学書（小６男子）
★友だちからの手紙（小６女子）
＜いつまでも大事にしてね＞

★アクセサリー（小６女子）
★18金のウサギのネックレス（小６女子）
★母にもらった指輪（高校生になったらつけていいって）（小６女子）

＜いいお母さんね。でも高校生じゃちょっと早いかな＞

★家族（多数）
★友だち（多数）
★ペット（多数）
＜私も、生きているものを愛したい！＞

★ラブラブな人（小６女子）
＜だれ、だれ、教えてよ？＞

★貯金通帳（小５男子）
＜なんてったって、生きていくにはこれだよね。でももっと君のトシ相応の宝物はないの？　ま、トシなんて関係ないか＞

---

8 お父さんと、お母さんを喜ばせようとしたら、あなたは何をすればいい？

★勉強をしっかりする（小６男子）
★勉……強！（小６男子）
★勉強をたくさんして、志望校に入る（小６男子）
★テストで100点をとる（小４女子）
★賞状をもらう（小６男子）
＜親を喜ばせるには勉強がいちばん？
…そうかもしれないけど、なんか悲しいね、この答え＞

★花やプレゼントを買ってあげる（多数）
★花を買ってあげたり、ほしい物を買ってあげたりする（小６女子）
★好きなものを買ってあげる（小４女子）
＜モノさえ買ってあげればいいの？　って言ったら、イジワルかな＞

★親の誕生日に贈り物をする（小６男子）
★誕生日を忘れないで、プレゼントを買う（小６女子）
★結婚記念日に何かをする（小４男子）
＜喜びの日を覚えていてもらってうれしい！自分たちも忘れそうなのに＞

★私が手作りでおもしろいものをあげる（小６女子）
★ほしがっていたものを、秘密で買ってあげる（小４女子）
★サービスをしたり、やさしくする（小６女子）
＜気持ちがいちばん！＞

★食事に招待する（小６男子）
★旅行につれていってあげる（小４男子）
＜そんなに貯金もってるの？　ハシタ金じゃないのよ＞

★話しかける（お父さんに）。お手伝いをする（お母さんに）（小４女子）
★お母さんには手伝い、お父さんには何かプレゼントする（小６男子）
★お母さんはお手伝い、お父さんとは一緒に話をする（小６女子）
★お父さんの話を聞く（小５女子）
＜お父さんって、家でそんなに「孤独」してるんだ＞

★ダジャレを言うこと（小６男子）
★今日のことをいろいろ話すこと（小４女子）
★親に手紙を書く
★一緒に遊んだりする（小４女子）
★どっか遊びに行こうと言ってあげる（小６男子）
＜もう子どもから、いたわられてるんだね。

★素直になって、いろいろ手伝いして、自分から勉強する（小６女子）
＜親はだれでも､こういう子を育てたい！＞

★肩をたたく（小５男子）
★マッサージ（小５女子）
★お手伝い、肩もみ、そしていちばんは、自由にしてあげる（小４女子）
＜親に「自由」がないってこと、わかってくれてるんだ＞

★自分で考えて行動すればよい（小６男子）
★自分自身のことを自分でちゃんとできるように努力する（小５女子）
＜自立と巣立ちの日は近いのね＞

★ケガをしない（小６女子）
★健康に気をつける（小６女子）
★兄弟ゲンカをしない（小４男子）
★人に迷惑をかけない（小５男子）
★いい子にすること（小６女子）
★おとなしくする（小６女子）
★親に心配をかけない（小６女子）
★素直に親の言うことを聞く（小６女子）
＜無事がいちばん！＞

★お金持ちになる（小４男子）
＜お金より、心よ＞

★今までのことを親に感謝する（小６男子）
★楽させてあげる（小４女子）
★両親の願いをかなえればいいと思います（小５男子）
★親孝行（小５男子）
＜「親孝行」って言葉、知ってるんだ＞

★人を助ける（小６男子）
＜ジコチュウばっかりじゃないんだ！　21世紀も希望が持てるね！＞

★柔道の試合に勝つ（小６女子）
＜ヤワラちゃんは､女の子を勇気づけたね＞

★私が幸せになる（小６女子）
★早く孫を産む（小６女子）
＜お姉さんと同じだ！　まだまだ早いと思ってると産めなくなっちゃうかも＞

★やることをきちんとやって、一生懸命やること（小６女子）
＜人生は、これにつきるね＞

★どうしたら喜ぶのかなぁ、わかりません（小６女子）
★？（小４女子）
＜わからないって？　そんな…＞

この「わいわい・ガヤガヤー子どもの広場ー」は、1999年６月、首都圏の小学４・５・６年生300人を対象に行われたオープンアンサー形式の調査の結果に、深谷研究室のゼミ生（現役・ＯＢ・ＯＧ）がコメントを加えて構成しました。

アンケートのお願い

今、小学校においては、子どもたちの成長の変化から、クラス運営がうまくいかない、あるいはかつてのような授業ができないなど、先生方の悩みはまことに大きいものと聞いております。このアンケートは、小学校の先生方が日頃子どもたちに接し、授業をなさる中で、どのような悩みを感じていらっしゃるのかをお尋ねするために作成いたしました。

なお、このアンケートでは、「学級崩壊」という言葉を避けて、学級の崩れを次のような段階に分けて考えようとしています。

①「何となく学級経営がうまくいかない」=『学級の崩れ』
②「子どもの気持ちが担任から離れる」=『学級の乱れ』
③「子どもが反発し、授業が成り立たない」=『学級の荒れ』

それをお含みの上、お答えください。また、『学級の荒れ』の実態については自由記述欄も多く取り入れました。先生方の率直なご意見をお聞かせいただければ幸いです。ここで得られたデータは、今後の小学校教育のあり方を考える上で貴重な資料とさせていただきます。

分析結果は、調査レポート『モノグラフ・小学生ナウ』vol.19-２（ベネッセ教育研究所11月刊行予定）に掲載いたします。集計結果は統計的に処理いたしますので、先生方にご迷惑をおかけすることは決してございません。

調査対象者は、教員名簿よりランダムに抽出させていただきました。ご多用中大変恐縮ですが、ぜひご協力くださいますようお願い申し上げます。

ご回答いただいたアンケートは、同封の封筒で、無記名にて、切手を貼らずに、２月末日までにご返送いただければ幸いです。なお、ご協力いただいた方には、些少ながら、図書券と本アンケートの集計結果を送らせていただきますので、別紙にご住所、お名前、勤務先をご記入の上、FAXまたは郵送でベネッセ教育研究所までお送りください。

どうぞよろしくお願い申し上げます。

1999年２月

尚美学園短期大学教授
深 谷 昌 志
（子どもの行動学研究会代表）

● 資料1　調査票見本

1　**まず、あなたご自身のことをお尋ねします。**

(1) 性別　（1．男性　　2．女性）

(2) 現在受け持っている学年

1年生　2年生　3年生　4年生　5年生　6年生　専科・その他
1 ——— 2 ——— 3 ——— 4 ——— 5 ——— 6 ——— 7

2　**次に、あなたの学級経営などについてお聞かせください。**

(1) あなたがこれまでに受け持ってきた学年は、主にどれですか。

低学年　中学年　高学年　専科・その他
1 ——— 2 ——— 3 ——— 4

(2) あなたが一番受け持ちたい学年は何年生ですか。

1年生　2年生　3年生　4年生　5年生　6年生
1 ——— 2 ——— 3 ——— 4 ——— 5 ——— 6

(3) あなたが一番受け持ちたくない学年は何年生ですか。

1年生　2年生　3年生　4年生　5年生　6年生
1 ——— 2 ——— 3 ——— 4 ——— 5 ——— 6

(4) 全体的にみて、現在あなたのクラスの授業や学級経営はうまくいっていますか。

とてもうまくいっている　わりとうまくいっている　まあまあうまくいっている　あまりうまくいっていない　ぜんぜんうまくいっていない
1 ——— 2 ——— 3 ——— 4 ——— 5

(5) あなたは、教師になってよかったと思いますか。

とてもよかった　わりとよかった　まあまあよかった　あまりよくなかった　ぜんぜんよくなかった
1 ——— 2 ——— 3 ——— 4 ——— 5

(6) では今までに、教師を辞めようと思ったことがありますか。

今辞めたいと思っている　今までに何度もある　4～5回ある　2～3回ある　1度だけある　1度もない
1 ——— 2 ——— 3 ——— 4 ——— 5 ——— 6

3　**最近のあなたのクラスや学校の子どもたちには、次のような子どもが多いと思いますか。**

		とても多くいる	わりといる	少しいる	あまりいない	ぜんぜんいない
1.	鉛筆や箸をきちんと使えない子……	1	2	3	4	5
2.	物を粗末にする子……	1	2	3	4	5
3.	姿勢や学習態度が悪い子……	1	2	3	4	5
4.	授業中、わかっていても発言しない子…	1	2	3	4	5
5.	先生を尊敬しない子……	1	2	3	4	5
6.	ストレスがたまっている子……	1	2	3	4	5
7.	疲れていて元気のない子……	1	2	3	4	5
8.	晴れた日でも、外で遊ばない子……	1	2	3	4	5
9.	家庭で基本的なことがしつけられていない子……	1	2	3	4	5
10.	親からの愛情不足の子……	1	2	3	4	5
11.	自己中心的で、まわりの人のことを考えない子……	1	2	3	4	5
12.	進んで働いたり、手伝ったりすることをいやがる子……	1	2	3	4	5
13.	先生に反抗的な子……	1	2	3	4	5
14.	時間の観念のない子……	1	2	3	4	5
15.	授業中、マンガを読んでいる子……	1	2	3	4	5
16.	授業中、席を立ったり、教室を出たり入ったりする子……	1	2	3	4	5

4　**あなたは、これまで受け持った学年やクラスで、『学級の荒れ』というほどでなくても、最後まで「何となく学級経営がうまくいかなかった」クラス（『学級の崩れ』）がありましたか。**

1度もない	1度だけある	2〜3回ある	4〜5回ある	それ以上ある
1	2	3	4	5

● 資料1　調査票見本

5　**〔1度でもうまくいかなかったクラスの経験（『学級の崩れ』）をお持ちの方にお尋ねします。〕**
うまくいかなかった原因は主に何だったと思いますか。

	とてもそう	わりとそう	少しそう	あまりそうでない	ぜんぜんそうでない
1. クラスの児童数が多かった……	1	2	3	4	5
2. 教えた経験の少ない学年だった……	1	2	3	4	5
3. 教師になりたての頃で、うまく指導できなかった……	1	2	3	4	5
4. 教師としての指導力が不足していた……	1	2	3	4	5
5. 子どもと相性が悪かった……	1	2	3	4	5
6. 以前からいろいろと問題のある学年・クラスだった……	1	2	3	4	5
7. 保護者が自分の教育方針に協力的でなかった……	1	2	3	4	5
8. クラス内に問題のある子や秩序を乱すグループがあった……	1	2	3	4	5
9. 自分のプライベートな問題があった……	1	2	3	4	5

6　**『学級の荒れ』とまではいかないまでも、前問の「うまくいかなかった」状態よりさらに進んで、「子どもたちの気持ちが担任から離れてしまった」クラス（『学級の乱れ』）の状況についてお尋ねします。**

（1）あなたがこれまでに受け持ったクラスで、「子どもたちの気持ちが担任から離れてしまった」クラス（『学級の乱れ』）がありましたか。

1度もない	1度だけある	2～3回ある	4～5回ある	それ以上ある
1	2	3	4	5

（2）個人的な印象で結構ですが、「何となく学級経営がうまくいかない」（『学級の崩れ』）や「子どもたちの気持ちが担任から離れてしまった」（『学級の乱れ』）など、学級経営がうまくいっていないのは、あなたのまわりの学校にどれくらいあるとお感じですか。

1）　学級の崩れ　（　　）割くらい

2）　学級の乱れ　（　　）割くらい

7　次に、『学級の崩れ』や『学級の乱れ』より進んだ『学級の荒れ』についてお尋ねします。

（1）あなたのまわりの学校で、『学級の荒れ』で授業のできないクラスはどれくらいあるとお感じですか。

（　　）割くらい

（2）いろいろなケースがあると思いますが、『学級の荒れ』ているクラスの子どもたちの様子はどのようでしたか。

		とても あてはまる	わりと あてはまる	少し あてはまる	あまり あてはまらない	ぜんぜん あてはまらない
1.	授業が始まっても教科書を出さない……	1	2	3	4	5
2.	授業中、教室を出たり入ったりしている……	1	2	3	4	5
3.	授業中、注意されてもおしゃべりをやめない……	1	2	3	4	5
4.	教室の後ろの方で、寝ころんだり座ったりしている……	1	2	3	4	5
5.	アメやガムをこっそり食べている……	1	2	3	4	5
6.	子ども同士のケンカが絶えない……	1	2	3	4	5
7.	下級生や弱い者いじめがある……	1	2	3	4	5
8.	他のクラスに比べて、学力が低い……	1	2	3	4	5
9.	物を壊したり、後片づけをしない……	1	2	3	4	5
10.	クラスにまとまりがなく、男女の仲が悪い……	1	2	3	4	5
11.	子どもたちが先生の話を聞かない……	1	2	3	4	5
12.	クラスや学校の決まりが守られていない……	1	2	3	4	5
13.	先生を批判するグループがある……	1	2	3	4	5
14.	先生に対抗して、クラスが１つにまとまっている……	1	2	3	4	5
15.	先生の悪口が黒板に書かれる……	1	2	3	4	5

● 資料1　調査票見本

8　**では、『学級の荒れ』ているクラスの担任は、あなたからみてどんな先生ですか。**

		とても あてはまる	わりと あてはまる	少し あてはまる	あまり あてはまらない	ぜんぜん あてはまらない
1.	宿題をたくさん出す	1	2	3	4	5
2.	自由時間ばかりとる	1	2	3	4	5
3.	授業中、子どもがしゃべっていても注意しない	1	2	3	4	5
4.	忘れ物をすると厳しく叱る	1	2	3	4	5
5.	授業以外の仕事が多く、自習が多い	1	2	3	4	5
6.	運動が苦手	1	2	3	4	5
7.	まじめで熱心すぎる	1	2	3	4	5
8.	何にでもいい加減	1	2	3	4	5
9.	決まりに厳しすぎる	1	2	3	4	5
10.	子どもを叱れない	1	2	3	4	5
11.	指導力がない	1	2	3	4	5
12.	子どもの気持ちがわからない	1	2	3	4	5
13.	社会性がない	1	2	3	4	5
14.	自分勝手	1	2	3	4	5
15.	問題が起こると、子どもの責任にする	1	2	3	4	5
16.	ひいきしたり、不公平な扱いをする	1	2	3	4	5
17.	女の子だけ、または男の子だけを強く叱る	1	2	3	4	5
18.	決まった子に注意が集中する	1	2	3	4	5
19.	子どもをあまりほめない	1	2	3	4	5

9　**『学級の荒れ』が起こる原因として、どういうことが考えられますか。**

		とても あてはまる	わりと あてはまる	少し あてはまる	あまり あてはまらない	ぜんぜん あてはまらない
1.	先生と子どもたちの相性が悪かった……	1	2	3	4	5
2.	子どもたちがわがままになっている……	1	2	3	4	5
3.	子どもたちが集団内での行動の仕方を知らない……	1	2	3	4	5
4.	担任の指導力不足、学級経営の失敗……	1	2	3	4	5
5.	先生をバカにする子どもが増えた……	1	2	3	4	5
6.	先生に情熱がなくなった……	1	2	3	4	5
7.	受け持った学年の経験が不足している……	1	2	3	4	5
8.	児童数が多く、全員に目をかけることが困難である……	1	2	3	4	5
9.	塾通いする子どもが多く、学校の授業に気を抜いている……	1	2	3	4	5
10.	基本的生活習慣ができていない子が増えた……	1	2	3	4	5
11.	保護者が先生を批判したり、学校に非協力的である……	1	2	3	4	5
12.	マスコミが学校批判をあおっている……	1	2	3	4	5

13. あなたは『学級の荒れ』が起こる原因をどう考えていますか。ご意見をお聞かせください。

● 資料１　調査票見本

10　**『学級の荒れ』を解決していくには、次の対応はどのくらい有効だとお考えですか。**

	とても有効	わりと有効	少し有効	あまり有効でない	ぜんぜん有効でない
1. クラスの児童数を20～30人前後にする…	1	2	3	4	5
2. １年ごとに担任を替える……	1	2	3	4	5
3. 専科の先生の数を増やし、担任の負担を軽くする……	1	2	3	4	5
4. TT（チームティーチング）の制度や副担任の制度などをもっと取り入れる……	1	2	3	4	5
5. 教師の学年ごとのまとまりを強める……	1	2	3	4	5
6. 保護者や地域の人に、教室内での学習の補助や協力を頼む……	1	2	3	4	5
7. 校内研修を活発にする……	1	2	3	4	5
8. 小中学校でも、退学や停学制度を設ける……	1	2	3	4	5
9. 研究会や会議の時間を減らして、子どもの指導や補習時間にあてる……	1	2	3	4	5
10. 授業参観や懇談会、個人面談、家庭訪問などをもっと頻繁に行う……	1	2	3	4	5
11. 学級の班学習を活発にする……	1	2	3	4	5
12. 学校行事をさかんにして、学校を活気づける……	1	2	3	4	5
13. 学年間､クラス間の交流を積極的に行う…	1	2	3	4	5

11　**あなたのクラスが『学級が荒れた』状況になったとしたら、あなたはどのような方法や行動をとりますか。お考えをお聞かせください。**

12　**あなたは学級経営や子どもの指導上で問題が起こったとき、どう対応していますか。**

	いつもしている	わりとしている	ときどきしている	あまりしない	ぜんぜんしない
1. 同学年の同僚に相談する……	1	2	3	4	5
2. 校長や教頭に相談する……	1	2	3	4	5
3. 教師の友人（同じ学校でない）に相談する……	1	2	3	4	5
4. 誰にも言わず、自分だけで解決しようと努力する……	1	2	3	4	5
5. 教育相談など専門機関に相談する……	1	2	3	4	5

13　**それでは、『学級の荒れ』を起こさないために、あなたは教師として、どんな点に注意していきたいとお考えですか。**

14　**あなたは、次のようなことを感じることがありますか。**

	いつも感じている	かなり感じている	やや感じている	あまり感じていない	ぜんぜん感じていない
1. 忙しすぎて、クラスの子どもたちに接する時間が不足している……	1	2	3	4	5
2. わかりやすい楽しい授業ができない……	1	2	3	4	5
3. 「問題を持つ子」の指導がうまくいかない……	1	2	3	4	5
4. 子どもの学力差がありすぎ、授業が思うように進まない……	1	2	3	4	5
5. 子どもを集団として掌握できない……	1	2	3	4	5
6. 子どもが好きになれない……	1	2	3	4	5
7. 自分の悩みを相談する人がいない……	1	2	3	4	5

● 資料1　調査票見本

	いつも感じている	かなり感じている	やや感じている	あまり感じていない	ぜんぜん感じていない
8. 自分の考えをうまく表現できない……	1	2	3	4	5
9. 学級をまとめることが難しくなってきている……	1	2	3	4	5
10. 保護者への対応が難しくなってきている……	1	2	3	4	5
11. 教頭、校長、教育委員会などと意見が対立しがちである……	1	2	3	4	5
12. 同僚や年の違う教師とつきあう機会が持てない……	1	2	3	4	5

15　あなたは教師として、次のようなことに自信がありますか。

	とても自信がある	かなり自信がある	やや自信がある	あまり自信がない	ぜんぜん自信がない
1. 教材研究……	1	2	3	4	5
2. 子どもの心を理解する……	1	2	3	4	5
3. わかりやすい授業……	1	2	3	4	5
4. 一般的な教養……	1	2	3	4	5
5. 教育についての考え方……	1	2	3	4	5
6. 学級集団をリードする技術……	1	2	3	4	5
7. 社会的常識や知識……	1	2	3	4	5
8. 個人的な魅力……	1	2	3	4	5
9. 保護者からの信頼……	1	2	3	4	5
10. 子どもたちからの信頼……	1	2	3	4	5

16　あなたは、どういうタイプの人ですか。

	とてもそう	わりとそう	少しそう	あまりそうでない	ぜんぜんそうでない
1. 困ったときに、すぐ他の先生に相談できる……	1	2	3	4	5
2. 自分なりの教育観を持っている……	1	2	3	4	5
3. 運動会や遠足など子どもと触れ合う行事が好き……	1	2	3	4	5

	とても そう	わりと そう	少し そう	あまり そうでない	ぜんぜん そうでない
4. 管理職や同僚と意見が違っても自分の意見を通す	1	2	3	4	5
5. 職員会議や学年会では積極的に発言する	1	2	3	4	5
6. 同僚との飲み会やカラオケなどのつきあいはよい	1	2	3	4	5

17　あなたは、次のような子どもたちの『力』は、10年くらい前と比べて、どうなったと思いますか。

	とても よくなった	わりと よくなった	ほとんど 変わらない	少し 低下した	かなり 低下した
1. 計算力	1	2	3	4	5
2. 読書量	1	2	3	4	5
3. 文章表現力（作文力）	1	2	3	4	5
4. 自分の意見を発表する力（発表力）	1	2	3	4	5
5. 基本的な運動能力	1	2	3	4	5
6. 社会一般の知識	1	2	3	4	5
7. 想像力や工夫する力	1	2	3	4	5
8. 友だちを思いやる心	1	2	3	4	5
9. 先生やおとなを尊敬する気持ち	1	2	3	4	5
10. けがや病気に負けない基礎体力	1	2	3	4	5
11. リーダー性	1	2	3	4	5
12. 物を大切にする気持ち	1	2	3	4	5
13. 集団としてのモラル（道徳性）	1	2	3	4	5
14. ゲームや学習を計画実践する力	1	2	3	4	5
15. がまん強さ	1	2	3	4	5

18　**最後に、もう少しあなたご自身のことをお尋ねします。**

(1) 学校内でのあなたの役職

1. 校長
2. 教頭
3. 教務主任
4. 学年主任
5. 学級担任
6. 副担任
7. 専科の教師
8. 講師
9. その他（　　）

(2) あなたが力を入れておられる教科・領域　（　　）

(3) 教職経験年数

5年以下	6～10年	11～15年	16～20年	21～25年	26～30年	31年以上
1	2	3	4	5	6	7

(4) 出身大学

1. 教育系の大学
2. 国公立4年制大学（教育系の大学をのぞく）
3. 私立4年制大学
4. 短期大学
5. 大学院
6. その他

(5) 年齢

25歳以下	26～30歳	31～35歳	36～40歳	41～45歳	46～50歳	51～55歳	56歳以上
1	2	3	4	5	6	7	8

(6) 結婚・子どもの有無

未婚	既婚 子どもなし	既婚 子どもあり	その他
1	2	3	4

（7）もう一度人生をやり直せるとしたら、あなたはまた「小学校の教師」になりたいですか。

ぜひなりたい	できればなりたい	どちらでもいい	できればなりたくない	ぜったいなりたくない
1	2	3	4	5

（8）最近、あなたは次のように感じることがありますか。

	とても感じる	わりと感じる	あまり感じない	ぜんぜん感じない
1. 食欲がない	1	2	3	4
2. 何となく体がだるい	1	2	3	4
3. 疲れやすい	1	2	3	4
4. やる気がない	1	2	3	4
5. 頭がボーっとする	1	2	3	4
6. イライラする	1	2	3	4
7. 肩がこる	1	2	3	4
8. 立ちくらみやめまいがする	1	2	3	4

（9）あなたの高校までの成績は、だいたいどのくらいでしたか。

上の方	中の上	中くらい	中の下	下の方
1	2	3	4	5

～以上で終わりです。長い間、どうもありがとうございました。～

● 資料2　基礎集計表

単位：サンプル数、「学級の荒れ」の平均値以外は%

質問項目				全体	性別	
					男性	女性
	サンプル数（性別無記名３）			520	170	347
1	担任学年	現在受け持っている学年	１．１年生	9.6	3.0	12.9
			２．２年生	11.3	5.3	14.3
			３．３年生	11.1	11.8	10.5
			４．４年生	13.8	11.8	14.9
			５．５年生	15.0	19.5	12.9
			６．６年生	11.1	16.6	8.2
			７．専科・その他	28.1	32.0	26.3
2	学級経営や教師になってよかったなど	１．これまで受け持ってきた主な学年	１．低学年	18.6	4.1	27.0
			２．中学年	19.8	12.2	24.6
			３．高学年	43.3	76.9	23.0
			４．専科・その他	18.3	6.8	25.4
		２．一番受け持ちたい学年	１．１年生	18.3	18.0	18.7
			２．２年生	7.8	4.7	9.5
			３．３年生	34.7	37.3	33.6
			４．４年生	11.2	6.7	13.8
			５．５年生	19.7	17.3	20.5
			６．６年生	8.3	16.0	3.9
		３．一番受け持ちたくない学年	１．１年生	31.2	42.6	25.0
			２．２年生	3.3	4.7	2.1
			３．３年生	7.3	6.3	7.9
			４．４年生	3.8	1.6	5.0
			５．５年生	11.9	9.4	13.3
			６．６年生	42.5	35.4	46.7
		４．クラスの授業や学級経営がうまくいっているか	１．とてもうまくいっている	14.6	8.2	17.9
			２．わりとうまくいっている	49.2	50.0	48.5
			３．まあまあうまくいっている	29.9	34.2	28.0
			４．あまりうまくいっていない	5.0	5.7	4.7
			５．ぜんぜんうまくいっていない	1.3	1.9	0.9
		５．教師になってよかったか	１．とてもよかった	46.2	49.1	44.6
			２．わりとよかった	32.4	30.8	33.5
			３．まあまあよかった	20.6	18.9	21.3
			４．あまりよくなかった	0.8	1.2	0.6
			５．ぜんぜんよくなかった	0.0	0.0	0.0
		６．今まで教師を辞めようと思ったことがあるか	１．今辞めたいと思っている	1.6	1.8	1.5
			２．今までに何度もある	16.7	12.6	18.5
			３．４～５回ある	5.5	4.8	5.9
			４．２～３回ある	19.2	15.0	21.5
			５．１度だけある	16.5	14.4	17.6
			６．１度もない	40.5	51.4	35.0
3	最近のクラスや学校の子どもの様子	１．鉛筆や箸をきちんと使えない子	１．とても多くいる	13.3	10.2	15.0
			２．わりといる	44.0	45.5	43.1
			３．少しいる	32.3	29.3	33.7
			４．あまりいない	9.0	13.2	7.0
			５．ぜんぜんいない	1.4	1.8	1.2
		２．物を粗末にする子	１．とても多くいる	20.8	22.5	20.2
			２．わりといる	49.7	53.8	48.0
			３．少しいる	24.1	20.7	25.4
			４．あまりいない	5.4	3.0	6.4
			５．ぜんぜんいない	0.0	0.0	0.0

質問項目				全体	性別	
					男性	女性
3	最近のクラスや学校の子どもの様子	3．姿勢や学習態度が悪い子	1．とても多くいる	12.7	14.2	11.8
			2．わりといる	42.7	43.1	42.5
			3．少しいる	34.8	31.4	36.6
			4．あまりいない	9.2	10.1	8.8
			5．ぜんぜんいない	0.6	1.2	0.3
		4．授業中、わかっていても発言しない子	1．とても多くいる	10.4	12.4	9.1
			2．わりといる	43.0	45.6	42.3
			3．少しいる	37.6	34.3	39.2
			4．あまりいない	8.8	7.1	9.4
			5．ぜんぜんいない	0.2	0.6	0.0
		5．先生を尊敬しない子	1．とても多くいる	5.4	6.0	5.0
			2．わりといる	23.4	26.3	21.6
			3．少しいる	37.5	44.3	34.3
			4．あまりいない	31.1	21.0	36.4
			5．ぜんぜんいない	2.6	2.4	2.7
		6．ストレスがたまっている子	1．とても多くいる	15.4	16.0	14.9
			2．わりといる	38.5	40.8	37.4
			3．少しいる	35.6	34.3	36.3
			4．あまりいない	9.9	8.3	10.8
			5．ぜんぜんいない	0.6	0.6	0.6
		7．疲れていて元気のない子	1．とても多くいる	4.7	3.6	5.0
			2．わりといる	25.9	32.0	23.1
			3．少しいる	46.1	41.3	48.2
			4．あまりいない	20.6	20.7	20.8
			5．ぜんぜんいない	2.7	2.4	2.9
		8．晴れた日でも、外で遊ばない子	1．とても多くいる	5.1	5.3	5.0
			2．わりといる	29.0	37.9	24.9
			3．少しいる	47.6	43.2	49.9
			4．あまりいない	15.0	9.5	17.3
			5．ぜんぜんいない	3.3	4.1	2.9
		9．家庭で基本的なことがしつけられていない子	1．とても多くいる	18.1	23.2	15.5
			2．わりといる	45.9	46.4	45.6
			3．少しいる	29.8	25.6	31.9
			4．あまりいない	5.8	4.2	6.7
			5．ぜんぜんいない	0.4	0.6	0.3
		10．親からの愛情不足の子	1．とても多くいる	8.6	7.7	9.1
			2．わりといる	32.4	33.3	31.7
			3．少しいる	43.3	44.1	43.0
			4．あまりいない	14.5	14.3	14.7
			5．ぜんぜんいない	1.2	0.6	1.5
		11．自己中心的で、まわりの人のことを考えない子	1．とても多くいる	10.1	10.7	9.9
			2．わりといる	39.2	38.7	39.5
			3．少しいる	41.9	41.7	41.8
			4．あまりいない	8.4	8.9	8.2
			5．ぜんぜんいない	0.4	0.0	0.6
		12．進んで働いたり、手伝ったりすることをいやがる子	1．とても多くいる	7.0	6.5	7.3
			2．わりといる	32.1	39.0	28.4
			3．少しいる	39.9	36.7	41.7
			4．あまりいない	19.6	16.6	21.1
			5．ぜんぜんいない	1.4	1.2	1.5

● 資料2　基礎集計表

質問項目				全体	性別	
					男性	女性
3	最近のクラスや学校の子どもの様子	13．先生に反抗的な子	1．とても多くいる	1.2	1.2	1.2
			2．わりといる	7.6	11.3	5.8
			3．少しいる	33.5	29.8	35.7
			4．あまりいない	41.7	45.2	39.8
			5．ぜんぜんいない	16.0	12.5	17.5
		14．時間の観念のない子	1．とても多くいる	2.0	0.6	2.6
			2．わりといる	21.9	28.4	18.5
			3．少しいる	49.8	43.8	53.0
			4．あまりいない	23.0	21.9	23.5
			5．ぜんぜんいない	3.3	5.3	2.4
		15．授業中、マンガを読んでいる子	1．とても多くいる	0.0	0.0	0.0
			2．わりといる	0.4	0.6	0.3
			3．少しいる	4.7	3.0	5.6
			4．あまりいない	16.8	21.3	14.7
			5．ぜんぜんいない	78.1	75.1	79.4
		16．授業中、席を立ったり、教室を出たり入ったりする子	1．とても多くいる	0.2	0.6	0.0
			2．わりといる	4.1	4.8	3.8
			3．少しいる	22.4	22.0	22.8
			4．あまりいない	26.9	24.4	28.1
			5．ぜんぜんいない	46.4	48.2	45.3
4	学級の崩れ	何となく学級経営がうまくいかなかったクラスがあったか	1．1度もない	36.5	35.1	37.0
			2．1度だけある	38.6	36.3	39.8
			3．2～3回ある	22.3	25.0	21.1
			4．4～5回ある	1.8	2.4	1.5
			5．それ以上ある	0.8	1.2	0.6
5	学級経営がうまくいかなかった「学級の崩れ」の原因	1．クラスの児童数が多かった	1．とてもそう	12.5	7.3	15.4
			2．わりとそう	20.3	15.6	22.4
			3．少しそう	15.4	13.8	16.4
			4．あまりそうでない	29.0	29.4	28.9
			5．ぜんぜんそうでない	22.8	33.9	16.9
		2．教えた経験の少ない学年だった	1．とてもそう	9.7	3.7	13.1
			2．わりとそう	11.3	9.2	12.6
			3．少しそう	15.5	11.9	17.6
			4．あまりそうでない	26.2	27.5	25.1
			5．ぜんぜんそうでない	37.3	47.7	31.6
		3．教師になりたての頃で、うまく指導できなかった	1．とてもそう	13.4	13.9	13.1
			2．わりとそう	14.7	10.2	17.2
			3．少しそう	11.1	11.1	11.1
			4．あまりそうでない	14.7	13.9	14.6
			5．ぜんぜんそうでない	46.1	50.9	44.0
		4．教師としての指導力が不足していた	1．とてもそう	12.7	16.2	11.0
			2．わりとそう	27.1	23.8	29.0
			3．少しそう	31.1	29.5	31.5
			4．あまりそうでない	21.6	23.8	20.5
			5．ぜんぜんそうでない	7.5	6.7	8.0
		5．子どもと相性が悪かった	1．とてもそう	5.2	7.4	4.0
			2．わりとそう	19.4	20.4	19.0
			3．少しそう	32.3	35.1	30.5
			4．あまりそうでない	31.4	27.8	33.5
			5．ぜんぜんそうでない	11.7	9.3	13.0

質問項目				全体	性別	
					男性	女性
5	学級経営がうまくいかなかった「学級の崩れ」の原因	6．以前からいろいろと問題のある学年・クラスだった	1．とてもそう	26.5	22.2	29.0
			2．わりとそう	27.2	30.6	25.0
			3．少しそう	20.7	21.3	20.5
			4．あまりそうでない	16.2	18.5	15.0
			5．ぜんぜんそうでない	9.4	7.4	10.5
		7．保護者が自分の教育方針に協力的でなかった	1．とてもそう	5.2	4.6	5.6
			2．わりとそう	15.4	16.7	14.8
			3．少しそう	23.6	26.9	21.9
			4．あまりそうでない	38.4	33.3	40.9
			5．ぜんぜんそうでない	17.4	18.5	16.8
		8．クラス内に問題のある子や秩序を乱すグループがあった	1．とてもそう	37.9	28.0	43.3
			2．わりとそう	27.0	34.5	23.1
			3．少しそう	20.8	17.8	22.6
			4．あまりそうでない	9.1	15.0	5.5
			5．ぜんぜんそうでない	5.2	4.7	5.5
		9．自分のプライベートな問題があった	1．とてもそう	1.3	2.8	0.5
			2．わりとそう	3.3	2.8	3.5
			3．少しそう	8.5	11.2	7.1
			4．あまりそうでない	20.3	19.6	20.2
			5．ぜんぜんそうでない	66.6	63.6	68.7
6	学級の乱れ	子どもたちの気持ちが担任から離れてしまったクラスがあったか	1．1度もない	67.5	64.6	68.6
			2．1度だけある	23.5	25.3	22.8
			3．2～3回ある	7.5	8.7	7.0
			4．4～5回ある	1.1	0.7	1.3
			5．それ以上ある	0.4	0.7	0.3
	学級経営がうまくいっていない状況（平均値）		1．学級の崩れ	1.6割	2.0割	1.4割
			2．学級の乱れ	1.3割	1.4割	1.1割
7	学級の荒れ（平均値）			0.8割	0.9割	0.7割
	学級の荒れているクラスの子どもたちの様子	1．授業が始まっても教科書を出さない	1．とてもあてはまる	38.9	38.9	38.3
			2．わりとあてはまる	39.1	40.7	38.7
			3．少しあてはまる	17.8	16.6	18.6
			4．あまりあてはまらない	3.5	3.8	3.4
			5．ぜんぜんあてはまらない	0.7	0.0	1.0
		2．授業中、教室を出たり入ったりしている	1．とてもあてはまる	39.9	38.9	40.1
			2．わりとあてはまる	35.5	40.8	33.1
			3．少しあてはまる	17.7	15.9	18.5
			4．あまりあてはまらない	5.6	3.8	6.6
			5．ぜんぜんあてはまらない	1.3	0.6	1.7
		3．授業中、注意されてもおしゃべりをやめない	1．とてもあてはまる	56.4	57.4	55.4
			2．わりとあてはまる	36.3	35.7	37.0
			3．少しあてはまる	6.3	5.7	6.6
			4．あまりあてはまらない	0.6	0.6	0.7
			5．ぜんぜんあてはまらない	0.4	0.6	0.3
		4．教室の後ろの方で、寝ころんだり座ったりしている	1．とてもあてはまる	28.8	22.6	32.0
			2．わりとあてはまる	31.5	35.4	29.0
			3．少しあてはまる	22.6	25.2	21.5
			4．あまりあてはまらない	12.7	11.0	13.8
			5．ぜんぜんあてはまらない	4.4	5.8	3.7

● 資料2　基礎集計表

質問項目				全体	性別	
					男性	女性
7	学級の荒れているクラスの子どもたちの様子	5．アメやガムをこっそり食べている	1．とてもあてはまる	16.6	17.9	15.8
			2．わりとあてはまる	19.3	22.4	17.4
			3．少しあてはまる	25.2	28.3	23.5
			4．あまりあてはまらない	24.5	19.9	27.2
			5．ぜんぜんあてはまらない	14.4	11.5	16.1
		6．子ども同士のケンカが絶えない	1．とてもあてはまる	28.3	27.6	28.6
			2．わりとあてはまる	38.2	37.8	38.2
			3．少しあてはまる	21.3	21.2	21.6
			4．あまりあてはまらない	11.3	12.8	10.6
			5．ぜんぜんあてはまらない	0.9	0.6	1.0
		7．下級生や弱い者いじめがある	1．とてもあてはまる	26.3	21.7	28.3
			2．わりとあてはまる	35.2	39.5	33.0
			3．少しあてはまる	23.4	22.9	23.9
			4．あまりあてはまらない	13.3	13.4	13.5
			5．ぜんぜんあてはまらない	1.8	2.5	1.3
		8．他のクラスに比べて、学力が低い	1．とてもあてはまる	14.2	11.6	15.6
			2．わりとあてはまる	23.9	20.6	25.2
			3．少しあてはまる	28.5	37.4	24.1
			4．あまりあてはまらない	29.4	25.2	31.7
			5．ぜんぜんあてはまらない	4.0	5.2	3.4
		9．物を壊したり、後片づけをしない	1．とてもあてはまる	40.1	36.9	41.9
			2．わりとあてはまる	37.7	40.8	36.2
			3．少しあてはまる	17.8	18.5	17.6
			4．あまりあてはまらない	3.5	3.2	3.3
			5．ぜんぜんあてはまらない	0.9	0.6	1.0
		10．クラスにまとまりがなく、男女の仲が悪い	1．とてもあてはまる	28.0	19.5	32.3
			2．わりとあてはまる	38.4	42.2	36.4
			3．少しあてはまる	21.7	24.7	20.1
			4．あまりあてはまらない	11.5	13.0	10.9
			5．ぜんぜんあてはまらない	0.4	0.6	0.3
		11．子どもたちが先生の話を聞かない	1．とてもあてはまる	61.9	64.4	60.5
			2．わりとあてはまる	28.5	28.0	28.7
			3．少しあてはまる	7.5	5.7	8.5
			4．あまりあてはまらない	1.5	1.9	1.3
			5．ぜんぜんあてはまらない	0.6	0.0	1.0
		12．クラスや学校の決まりが守られていない	1．とてもあてはまる	52.7	54.2	52.2
			2．わりとあてはまる	35.2	36.9	34.0
			3．少しあてはまる	10.6	7.0	12.5
			4．あまりあてはまらない	1.3	1.9	1.0
			5．ぜんぜんあてはまらない	0.2	0.0	0.3
		13．先生を批判するグループがある	1．とてもあてはまる	43.0	44.7	42.0
			2．わりとあてはまる	35.1	31.8	36.8
			3．少しあてはまる	15.4	15.9	15.2
			4．あまりあてはまらない	5.4	5.7	5.3
			5．ぜんぜんあてはまらない	1.1	1.9	0.7
		14．先生に対抗して、クラスが1つにまとまっている	1．とてもあてはまる	10.7	7.7	12.0
			2．わりとあてはまる	19.3	22.6	17.7
			3．少しあてはまる	27.1	27.7	27.1
			4．あまりあてはまらない	31.1	29.7	31.8
			5．ぜんぜんあてはまらない	11.8	12.3	11.4

質問項目				全体	性別	
					男性	女性
7	学級の荒れているクラスの子どもたちの様子	15．先生の悪口が黒板に書かれる	1．とてもあてはまる	15.4	12.9	16.6
			2．わりとあてはまる	22.9	29.7	19.3
			3．少しあてはまる	27.1	27.1	27.2
			4．あまりあてはまらない	24.0	22.6	24.7
			5．ぜんぜんあてはまらない	10.6	7.7	12.2
8	学級の荒れているクラスの担任はどんな先生か	1．宿題をたくさん出す	1．とてもあてはまる	2.6	1.9	3.0
			2．わりとあてはまる	11.9	15.1	10.0
			3．少しあてはまる	19.9	25.8	17.0
			4．あまりあてはまらない	53.3	47.8	56.3
			5．ぜんぜんあてはまらない	12.3	9.4	13.7
		2．自由時間ばかりとる	1．とてもあてはまる	4.1	3.8	4.3
			2．わりとあてはまる	16.8	19.4	15.7
			3．少しあてはまる	23.3	24.4	22.7
			4．あまりあてはまらない	42.6	39.9	44.0
			5．ぜんぜんあてはまらない	13.2	12.5	13.3
		3．授業中、子どもがしゃべっていても注意しない	1．とてもあてはまる	15.9	15.5	16.2
			2．わりとあてはまる	34.3	36.0	33.2
			3．少しあてはまる	24.8	22.4	26.0
			4．あまりあてはまらない	17.2	19.3	16.2
			5．ぜんぜんあてはまらない	7.8	6.8	8.4
		4．忘れ物をすると厳しく叱る	1．とてもあてはまる	3.2	5.0	2.0
			2．わりとあてはまる	20.4	22.5	19.5
			3．少しあてはまる	23.2	25.0	22.2
			4．あまりあてはまらない	44.8	44.4	45.4
			5．ぜんぜんあてはまらない	8.4	3.1	10.9
		5．授業以外の仕事が多く、自習が多い	1．とてもあてはまる	7.2	6.2	7.8
			2．わりとあてはまる	17.0	21.7	14.4
			3．少しあてはまる	23.6	24.2	23.2
			4．あまりあてはまらない	37.3	35.5	38.3
			5．ぜんぜんあてはまらない	14.9	12.4	16.3
		6．運動が苦手	1．とてもあてはまる	3.0	3.1	3.0
			2．わりとあてはまる	10.5	14.9	7.9
			3．少しあてはまる	21.2	25.5	18.4
			4．あまりあてはまらない	48.6	42.2	52.6
			5．ぜんぜんあてはまらない	16.7	14.3	18.1
		7．まじめで熱心すぎる	1．とてもあてはまる	10.4	8.1	11.8
			2．わりとあてはまる	21.7	26.3	18.6
			3．少しあてはまる	28.4	25.0	30.4
			4．あまりあてはまらない	31.4	32.5	31.0
			5．ぜんぜんあてはまらない	8.1	8.1	8.2
		8．何にでもいい加減	1．とてもあてはまる	10.9	11.9	10.1
			2．わりとあてはまる	18.8	24.5	15.7
			3．少しあてはまる	21.2	17.6	23.2
			4．あまりあてはまらない	35.2	34.7	35.6
			5．ぜんぜんあてはまらない	13.9	11.3	15.4
		9．決まりに厳しすぎる	1．とてもあてはまる	8.4	9.4	7.9
			2．わりとあてはまる	23.1	27.0	21.0
			3．少しあてはまる	27.8	31.5	25.9
			4．あまりあてはまらない	34.5	27.7	38.0
			5．ぜんぜんあてはまらない	6.2	4.4	7.2

● 資料2　基礎集計表

質問項目				全体	性別	
					男性	女性
8	学級の荒れているクラスの担任はどんな先生か	10．子どもを叱れない	1．とてもあてはまる	29.1	29.8	28.6
			2．わりとあてはまる	29.5	33.0	27.4
			3．少しあてはまる	17.6	18.6	17.3
			4．あまりあてはまらない	17.4	12.4	20.2
			5．ぜんぜんあてはまらない	6.4	6.2	6.5
		11．指導力がない	1．とてもあてはまる	36.0	40.5	33.8
			2．わりとあてはまる	23.9	31.3	19.9
			3．少しあてはまる	21.7	16.3	24.5
			4．あまりあてはまらない	14.1	7.5	17.6
			5．ぜんぜんあてはまらない	4.3	4.4	4.2
		12．子どもの気持ちがわからない	1．とてもあてはまる	34.9	39.1	32.7
			2．わりとあてはまる	32.1	35.4	30.7
			3．少しあてはまる	21.8	19.3	23.0
			4．あまりあてはまらない	9.1	4.3	11.3
			5．ぜんぜんあてはまらない	2.1	1.9	2.3
		13．社会性がない	1．とてもあてはまる	16.2	21.1	13.8
			2．わりとあてはまる	23.5	26.1	21.7
			3．少しあてはまる	23.7	24.8	23.4
			4．あまりあてはまらない	28.3	19.9	32.5
			5．ぜんぜんあてはまらない	8.3	8.1	8.6
		14．自分勝手	1．とてもあてはまる	16.6	19.4	15.3
			2．わりとあてはまる	21.6	27.4	18.3
			3．少しあてはまる	21.3	19.4	22.3
			4．あまりあてはまらない	28.6	24.4	30.8
			5．ぜんぜんあてはまらない	11.9	9.4	13.3
		15．問題が起こると、子どもの責任にする	1．とてもあてはまる	26.6	29.8	25.1
			2．わりとあてはまる	23.1	28.6	19.9
			3．少しあてはまる	21.9	21.7	22.1
			4．あまりあてはまらない	20.8	14.3	24.1
			5．ぜんぜんあてはまらない	7.6	5.6	8.8
		16．ひいきしたり、不公平な扱いをする	1．とてもあてはまる	19.5	21.7	18.2
			2．わりとあてはまる	23.2	29.2	19.5
			3．少しあてはまる	24.8	28.0	23.4
			4．あまりあてはまらない	24.8	16.8	29.3
			5．ぜんぜんあてはまらない	7.7	4.3	9.6
		17．女の子だけ、または男の子だけを強く叱る	1．とてもあてはまる	12.9	13.0	12.6
			2．わりとあてはまる	24.2	30.4	21.2
			3．少しあてはまる	26.2	29.3	24.2
			4．あまりあてはまらない	29.2	23.0	32.7
			5．ぜんぜんあてはまらない	7.5	4.3	9.3
		18．決まった子に注意が集中する	1．とてもあてはまる	17.4	19.5	16.2
			2．わりとあてはまる	35.0	38.9	32.6
			3．少しあてはまる	26.5	29.6	25.1
			4．あまりあてはまらない	17.2	10.1	21.1
			5．ぜんぜんあてはまらない	3.9	1.9	5.0
		19．子どもをあまりほめない	1．とてもあてはまる	21.4	21.6	21.5
			2．わりとあてはまる	28.5	35.8	25.1
			3．少しあてはまる	25.9	25.9	25.4
			4．あまりあてはまらない	18.4	13.0	21.1
			5．ぜんぜんあてはまらない	5.8	3.7	6.9

質問項目				全体	性別	
					男性	女性
9	「学級の荒れ」が起こる原因	1．先生と子どもたちの相性が悪かった	1．とてもあてはまる	10.9	9.7	11.3
			2．わりとあてはまる	24.8	25.5	24.7
			3．少しあてはまる	38.3	37.5	39.0
			4．あまりあてはまらない	20.6	20.0	20.5
			5．ぜんぜんあてはまらない	5.4	7.3	4.5
		2．子どもたちがわがままになっている	1．とてもあてはまる	31.8	27.7	33.8
			2．わりとあてはまる	41.9	42.8	41.9
			3．少しあてはまる	19.8	21.7	18.4
			4．あまりあてはまらない	5.3	6.6	4.7
			5．ぜんぜんあてはまらない	1.2	1.2	1.2
		3．子どもたちが集団内での行動の仕方を知らない	1．とてもあてはまる	28.2	24.7	29.9
			2．わりとあてはまる	44.9	51.8	41.9
			3．少しあてはまる	19.7	15.7	21.6
			4．あまりあてはまらない	6.4	6.0	6.3
			5．ぜんぜんあてはまらない	0.8	1.8	0.3
		4．担任の指導力不足、学級経営の失敗	1．とてもあてはまる	26.1	28.7	24.7
			2．わりとあてはまる	36.0	43.3	32.6
			3．少しあてはまる	28.1	21.3	31.3
			4．あまりあてはまらない	8.2	5.5	9.6
			5．ぜんぜんあてはまらない	1.6	1.2	1.8
		5．先生をバカにする子どもが増えた	1．とてもあてはまる	15.6	13.3	16.7
			2．わりとあてはまる	32.9	39.1	29.8
			3．少しあてはまる	33.7	28.9	35.9
			4．あまりあてはまらない	15.8	16.9	15.5
			5．ぜんぜんあてはまらない	2.0	1.8	2.1
		6．先生に情熱がなくなった	1．とてもあてはまる	6.0	7.2	5.1
			2．わりとあてはまる	18.1	27.1	13.7
			3．少しあてはまる	28.4	30.2	27.5
			4．あまりあてはまらない	39.2	28.3	45.0
			5．ぜんぜんあてはまらない	8.3	7.2	8.7
		7．受け持った学年の経験が不足している	1．とてもあてはまる	4.2	3.0	4.5
			2．わりとあてはまる	7.8	10.9	6.3
			3．少しあてはまる	27.9	30.9	26.7
			4．あまりあてはまらない	42.9	37.0	45.7
			5．ぜんぜんあてはまらない	17.2	18.2	16.8
		8．児童数が多く、全員に目をかけることが困難である	1．とてもあてはまる	16.6	9.6	19.8
			2．わりとあてはまる	21.3	18.7	22.8
			3．少しあてはまる	25.0	22.9	26.3
			4．あまりあてはまらない	25.9	31.9	22.5
			5．ぜんぜんあてはまらない	11.2	16.9	8.6
		9．塾通いする子どもが多く、学校の授業に気を抜いている	1．とてもあてはまる	12.9	10.3	13.6
			2．わりとあてはまる	28.8	24.8	31.0
			3．少しあてはまる	26.5	29.1	25.5
			4．あまりあてはまらない	25.3	26.7	24.6
			5．ぜんぜんあてはまらない	6.5	9.1	5.3
		10．基本的生活習慣ができていない子が増えた	1．とてもあてはまる	40.0	33.7	43.1
			2．わりとあてはまる	38.0	39.2	37.5
			3．少しあてはまる	17.8	21.1	16.1
			4．あまりあてはまらない	3.8	4.8	3.3
			5．ぜんぜんあてはまらない	0.4	1.2	0.0

● 資料2　基礎集計表

質問項目				全体	性別	
					男性	女性
9	「学級の荒れ」が起こる原因	11．保護者が先生を批判したり、学校に非協力的である	1．とてもあてはまる	25.8	19.9	28.4
			2．わりとあてはまる	40.4	47.0	37.3
			3．少しあてはまる	24.7	22.3	26.0
			4．あまりあてはまらない	8.5	10.2	7.7
			5．ぜんぜんあてはまらない	0.6	0.6	0.6
		12．マスコミが学校批判をあおっている	1．とてもあてはまる	34.3	32.3	35.2
			2．わりとあてはまる	29.3	29.3	29.0
			3．少しあてはまる	25.1	23.8	26.0
			4．あまりあてはまらない	10.3	12.2	9.5
			5．ぜんぜんあてはまらない	1.0	2.4	0.3
		13.「学級の荒れ」の原因（自由記述）		86.7	88.8	83.3
10	「学級の荒れ」を解決していくための有効な解決策	1．クラスの児童数を20〜30人前後にする	1．とても有効	44.3	31.8	50.7
			2．わりと有効	30.5	30.8	30.3
			3．少し有効	17.9	24.3	14.8
			4．あまり有効でない	5.7	10.1	3.3
			5．ぜんぜん有効でない	1.6	3.0	0.9
		2．1年ごとに担任を替える	1．とても有効	5.4	6.6	4.8
			2．わりと有効	20.9	16.9	22.8
			3．少し有効	22.7	24.7	21.9
			4．あまり有効でない	38.5	39.1	37.9
			5．ぜんぜん有効でない	12.5	12.7	12.6
		3．専科の先生の数を増やし、担任の負担を軽くする	1．とても有効	28.8	22.5	31.9
			2．わりと有効	27.1	26.1	27.5
			3．少し有効	23.7	25.4	23.1
			4．あまり有効でない	16.1	20.1	13.9
			5．ぜんぜん有効でない	4.3	5.9	3.6
		4．TT（チームティーチング）の制度や副担任の制度などをもっと取り入れる	1．とても有効	27.8	19.6	31.7
			2．わりと有効	33.1	36.4	31.5
			3．少し有効	23.6	25.0	23.1
			4．あまり有効でない	11.2	12.5	10.7
			5．ぜんぜん有効でない	4.3	6.5	3.0
		5．教師の学年ごとのまとまりを強める	1．とても有効	33.0	25.6	37.0
			2．わりと有効	34.9	38.0	33.1
			3．少し有効	25.0	26.8	24.0
			4．あまり有効でない	5.1	5.4	5.0
			5．ぜんぜん有効でない	2.0	4.2	0.9
		6．保護者や地域の人に、教室内での学習の補助や協力を頼む	1．とても有効	6.9	6.5	7.1
			2．わりと有効	21.1	29.0	17.0
			3．少し有効	29.5	31.4	28.9
			4．あまり有効でない	29.9	25.4	32.1
			5．ぜんぜん有効でない	12.6	7.7	14.9
		7．校内研修を活発にする	1．とても有効	8.9	11.9	7.4
			2．わりと有効	17.9	22.0	15.8
			3．少し有効	29.8	29.2	30.1
			4．あまり有効でない	29.0	25.6	30.9
			5．ぜんぜん有効でない	14.4	11.3	15.8
		8．小中学校でも、退学や停学制度を設ける	1．とても有効	4.1	8.2	1.8
			2．わりと有効	6.1	8.2	5.0
			3．少し有効	10.6	14.7	8.3
			4．あまり有効でない	31.3	29.4	32.5
			5．ぜんぜん有効でない	47.9	39.5	52.4

質問項目				全体	性別	
					男性	女性
10	「学級の荒れ」を解決していくための有効な解決策	9．研究会や会議の時間を減らして、子どもの指導や補習時間にあてる	1．とても有効	33.7	24.1	38.5
			2．わりと有効	31.3	31.2	31.6
			3．少し有効	21.9	26.5	19.5
			4．あまり有効でない	11.1	14.1	9.5
			5．ぜんぜん有効でない	2.0	4.1	0.9
		10．授業参観や懇談会、個人面談、家庭訪問などをもっと頻繁に行う	1．とても有効	5.9	7.6	5.0
			2．わりと有効	24.1	22.9	24.9
			3．少し有効	40.5	37.1	42.0
			4．あまり有効でない	25.0	26.5	24.3
			5．ぜんぜん有効でない	4.5	5.9	3.8
		11．学級の班活動を活発にする	1．とても有効	3.6	4.8	3.0
			2．わりと有効	23.4	20.5	25.0
			3．少し有効	40.3	44.6	38.1
			4．あまり有効でない	24.8	21.1	26.5
			5．ぜんぜん有効でない	7.9	9.0	7.4
		12．学校行事をさかんにして、学校を活気づける	1．とても有効	4.5	4.8	4.4
			2．わりと有効	18.7	19.8	18.0
			3．少し有効	38.8	46.0	35.0
			4．あまり有効でない	29.5	21.0	34.0
			5．ぜんぜん有効でない	8.5	8.4	8.6
		13．学年間、クラス間の交流を積極的に行う	1．とても有効	18.9	14.2	21.1
			2．わりと有効	38.0	42.6	35.8
			3．少し有効	29.9	28.4	30.9
			4．あまり有効でない	11.2	10.7	11.3
			5．ぜんぜん有効でない	2.0	4.1	0.9
11	「学級の荒れた」状況での対応（自由記述）			87.5	91.8	85.3
12	学級経営や子どもの指導上問題が起こったとき	1．同学年の同僚に相談する	1．いつもしている	44.8	26.7	54.0
			2．わりとしている	34.5	42.4	30.9
			3．ときどきしている	14.9	23.0	10.6
			4．あまりしない	5.0	7.9	3.3
			5．ぜんぜんしない	0.8	0.0	1.2
		2．校長や教頭に相談する	1．いつもしている	17.8	20.5	16.7
			2．わりとしている	35.5	33.2	36.9
			3．ときどきしている	27.7	29.5	26.7
			4．あまりしない	13.8	12.0	14.5
			5．ぜんぜんしない	5.2	4.8	5.2
		3．教師の友人（同じ学校でない）に相談する	1．いつもしている	15.7	9.1	19.1
			2．わりとしている	24.7	20.7	26.7
			3．ときどきしている	32.3	34.2	31.1
			4．あまりしない	19.7	24.4	17.6
			5．ぜんぜんしない	7.6	11.6	5.5
		4．誰にも言わず、自分だけで解決しようと努力する	1．いつもしている	1.4	3.1	0.3
			2．わりとしている	7.5	14.7	3.6
			3．ときどきしている	16.0	19.0	14.6
			4．あまりしない	34.1	35.6	33.4
			5．ぜんぜんしない	41.0	27.6	48.1
		5．教育相談など専門機関に相談する	1．いつもしている	2.0	1.2	2.4
			2．わりとしている	8.7	7.3	9.5
			3．ときどきしている	20.0	18.9	20.3
			4．あまりしない	34.2	35.4	33.9
			5．ぜんぜんしない	35.1	37.2	33.9
13	「学級の荒れ」を起こさないために（自由記述）			86.7	90.6	84.7

● 資料2　基礎集計表

質問項目				全体	性別	
					男性	女性
14	最近、教師として感じること	1．忙しすぎて、クラスの子どもたちに接する時間が不足している	1．いつも感じている	30.9	26.7	33.2
			2．かなり感じている	37.4	32.7	39.6
			3．やや感じている	25.3	29.7	23.3
			4．あまり感じていない	6.2	10.3	3.9
			5．ぜんぜん感じていない	0.2	0.6	0.0
		2．わかりやすい楽しい授業ができない	1．いつも感じている	5.4	4.2	6.0
			2．かなり感じている	19.8	20.6	19.6
			3．やや感じている	49.8	51.6	48.8
			4．あまり感じていない	23.6	22.4	24.1
			5．ぜんぜん感じていない	1.4	1.2	1.5
		3．「問題を持つ子」の指導がうまくいかない	1．いつも感じている	7.4	4.2	9.1
			2．かなり感じている	18.4	18.2	18.7
			3．やや感じている	46.3	44.9	46.8
			4．あまり感じていない	25.1	29.1	23.0
			5．ぜんぜん感じていない	2.8	3.6	2.4
		4．子どもの学力差がありすぎ、授業が思うように進まない	1．いつも感じている	10.0	5.5	12.4
			2．かなり感じている	21.7	24.2	20.3
			3．やや感じている	40.6	41.2	40.4
			4．あまり感じていない	25.5	26.7	24.8
			5．ぜんぜん感じていない	2.2	2.4	2.1
		5．子どもを集団として掌握できない	1．いつも感じている	0.6	0.0	0.9
			2．かなり感じている	4.6	4.2	4.5
			3．やや感じている	21.2	20.0	22.1
			4．あまり感じていない	58.4	59.4	57.7
			5．ぜんぜん感じていない	15.2	16.4	14.8
		6．子どもが好きになれない	1．いつも感じている	0.0	0.0	0.0
			2．かなり感じている	0.2	0.6	0.0
			3．やや感じている	7.2	8.5	6.6
			4．あまり感じていない	37.8	41.2	36.1
			5．ぜんぜん感じていない	54.8	49.7	57.3
		7．自分の悩みを相談する人がいない	1．いつも感じている	1.0	2.4	0.3
			2．かなり感じている	1.8	1.8	1.8
			3．やや感じている	9.9	14.5	7.7
			4．あまり感じていない	40.1	43.7	37.8
			5．ぜんぜん感じていない	47.2	37.6	52.4
		8．自分の考えをうまく表現できない	1．いつも感じている	1.0	1.2	0.9
			2．かなり感じている	3.2	3.6	3.0
			3．やや感じている	15.9	14.5	16.7
			4．あまり感じていない	44.8	43.7	45.2
			5．ぜんぜん感じていない	35.1	37.0	34.2
		9．学級をまとめることが難しくなってきている	1．いつも感じている	3.4	3.0	3.7
			2．かなり感じている	11.6	14.0	10.4
			3．やや感じている	36.1	35.4	36.5
			4．あまり感じていない	33.5	28.7	35.6
			5．ぜんぜん感じていない	15.4	18.9	13.8
		10．保護者への対応が難しくなってきている	1．いつも感じている	9.2	6.7	10.5
			2．かなり感じている	27.6	31.5	25.6
			3．やや感じている	38.2	36.3	39.2
			4．あまり感じていない	18.8	18.8	18.7
			5．ぜんぜん感じていない	6.2	6.7	6.0

質問項目				全体	性別	
					男性	女性
14	最近、教師として感じること	11. 教頭、校長、教育委員会などと意見が対立しがちである	1．いつも感じている	9.8	9.1	10.2
			2．かなり感じている	13.4	12.2	13.8
			3．やや感じている	21.4	18.3	23.1
			4．あまり感じていない	38.6	43.3	36.1
			5．ぜんぜん感じていない	16.8	17.1	16.8
		12. 同僚や年の違う教師とつきあう機会が持てない	1．いつも感じている	2.4	1.8	2.7
			2．かなり感じている	6.7	7.9	6.2
			3．やや感じている	20.0	23.6	18.1
			4．あまり感じていない	45.8	41.2	47.8
			5．ぜんぜん感じていない	25.1	25.5	25.2
15	教師としての自信	1．教材研究	1．とても自信がある	4.2	6.1	3.3
			2．かなり自信がある	21.2	26.2	18.7
			3．やや自信がある	50.8	53.1	49.8
			4．あまり自信がない	22.4	12.8	27.0
			5．ぜんぜん自信がない	1.4	1.8	1.2
		2．子どもの心を理解する	1．とても自信がある	6.1	8.5	5.0
			2．かなり自信がある	33.7	37.0	31.9
			3．やや自信がある	49.9	46.0	51.9
			4．あまり自信がない	9.7	6.7	11.2
			5．ぜんぜん自信がない	0.6	1.8	0.0
		3．わかりやすい授業	1．とても自信がある	4.4	3.6	4.8
			2．かなり自信がある	24.2	30.3	21.1
			3．やや自信がある	54.7	51.6	56.5
			4．あまり自信がない	16.1	13.3	17.3
			5．ぜんぜん自信がない	0.6	1.2	0.3
		4．一般的な教養	1．とても自信がある	4.7	7.3	3.5
			2．かなり自信がある	23.0	32.1	18.5
			3．やや自信がある	49.4	47.3	50.7
			4．あまり自信がない	20.1	11.5	24.1
			5．ぜんぜん自信がない	2.8	1.8	3.2
		5．教育についての考え方	1．とても自信がある	6.5	8.5	5.6
			2．かなり自信がある	30.0	42.4	24.0
			3．やや自信がある	50.2	41.2	54.7
			4．あまり自信がない	12.3	6.7	14.8
			5．ぜんぜん自信がない	1.0	1.2	0.9
		6．学級集団をリードする技術	1．とても自信がある	5.6	7.9	4.5
			2．かなり自信がある	25.3	29.3	23.2
			3．やや自信がある	50.5	51.2	50.0
			4．あまり自信がない	17.0	9.8	20.8
			5．ぜんぜん自信がない	1.6	1.8	1.5
		7．社会的常識や知識	1．とても自信がある	5.7	10.9	3.3
			2．かなり自信がある	24.3	32.1	20.7
			3．やや自信がある	51.2	44.9	53.8
			4．あまり自信がない	16.4	9.7	19.8
			5．ぜんぜん自信がない	2.4	2.4	2.4
		8．個人的な魅力	1．とても自信がある	3.8	4.9	3.3
			2．かなり自信がある	15.3	21.3	12.5
			3．やや自信がある	50.5	49.4	50.9
			4．あまり自信がない	27.8	23.2	30.0
			5．ぜんぜん自信がない	2.6	1.2	3.3

● 資料2　基礎集計表

質問項目				全体	性別	
					男性	女性
15	教師としての自信	9．保護者からの信頼	1．とても自信がある	3.6	3.6	3.6
			2．かなり自信がある	26.7	31.5	24.3
			3．やや自信がある	54.5	52.2	55.8
			4．あまり自信がない	13.8	10.3	15.7
			5．ぜんぜん自信がない	1.4	2.4	0.6
		10．子どもたちからの信頼	1．とても自信がある	5.1	7.3	4.1
			2．かなり自信がある	33.1	40.0	29.7
			3．やや自信がある	53.5	44.8	57.7
			4．あまり自信がない	7.7	6.7	8.2
			5．ぜんぜん自信がない	0.6	1.2	0.3
16	教師としての意識	1．困ったときに、すぐ他の先生に相談できる	1．とてもそう	24.0	13.3	29.2
			2．わりとそう	42.1	34.3	46.3
			3．少しそう	18.1	25.9	14.5
			4．あまりそうでない	13.4	21.1	9.1
			5．ぜんぜんそうでない	2.4	5.4	0.9
		2．自分なりの教育観を持っている	1．とてもそう	27.1	28.3	26.1
			2．わりとそう	51.3	53.6	50.4
			3．少しそう	16.9	15.1	17.9
			4．あまりそうでない	4.7	3.0	5.6
			5．ぜんぜんそうでない	0.0	0.0	0.0
		3．運動会や遠足など子どもと触れ合う行事が好き	1．とてもそう	32.7	33.1	31.9
			2．わりとそう	38.5	39.8	38.3
			3．少しそう	21.7	20.5	22.5
			4．あまりそうでない	6.5	6.6	6.4
			5．ぜんぜんそうでない	0.6	0.0	0.9
		4．管理職や同僚と意見が違っても自分の意見を通す	1．とてもそう	6.5	9.1	5.1
			2．わりとそう	23.2	27.3	20.8
			3．少しそう	33.4	33.9	33.3
			4．あまりそうでない	32.7	24.2	37.2
			5．ぜんぜんそうでない	4.2	5.5	3.6
		5．職員会議や学年会では積極的に発言する	1．とてもそう	13.9	15.8	12.6
			2．わりとそう	40.2	47.3	36.6
			3．少しそう	25.3	20.0	28.2
			4．あまりそうでない	17.5	14.5	19.1
			5．ぜんぜんそうでない	3.1	2.4	3.5
		6．同僚との飲み会やカラオケなどのつきあいはよい	1．とてもそう	14.1	21.1	10.9
			2．わりとそう	32.0	37.9	28.7
			3．少しそう	28.0	23.5	30.2
			4．あまりそうでない	20.2	13.9	23.5
			5．ぜんぜんそうでない	5.7	3.6	6.7
17	子どもたちの力を10年前の子どもと比較して	1．計算力	1．とてもよくなった	2.4	2.4	2.2
			2．わりとよくなった	20.4	17.1	22.4
			3．ほとんど変わらない	46.4	47.5	45.6
			4．少し低下した	25.3	27.1	24.5
			5．かなり低下した	5.5	5.9	5.3
		2．読書量	1．とてもよくなった	0.0	0.0	0.0
			2．わりとよくなった	2.6	2.4	2.7
			3．ほとんど変わらない	18.3	23.5	15.8
			4．少し低下した	46.3	40.6	49.1
			5．かなり低下した	32.8	33.5	32.4

質問項目				全体	性別	
					男性	女性
17	子どもたちの力を10年前の子どもと比較して	3．文章表現力（作文力）	1．とてもよくなった	0.0	0.0	0.0
			2．わりとよくなった	6.4	6.5	6.4
			3．ほとんど変わらない	30.1	28.8	30.7
			4．少し低下した	45.6	45.3	45.9
			5．かなり低下した	17.9	19.4	17.0
		4．自分の意見を発表する力（発表力）	1．とてもよくなった	1.0	0.6	1.2
			2．わりとよくなった	26.2	23.5	27.5
			3．ほとんど変わらない	34.0	34.1	34.3
			4．少し低下した	29.4	32.4	27.5
			5．かなり低下した	9.4	9.4	9.5
		5．基礎的な運動能力	1．とてもよくなった	0.0	0.0	0.0
			2．わりとよくなった	4.0	1.2	5.4
			3．ほとんど変わらない	25.1	24.1	25.9
			4．少し低下した	50.9	50.6	50.6
			5．かなり低下した	20.0	24.1	18.1
		6．社会一般の知識	1．とてもよくなった	0.8	0.6	0.9
			2．わりとよくなった	17.9	18.8	17.0
			3．ほとんど変わらない	30.3	33.5	28.9
			4．少し低下した	36.1	31.8	38.3
			5．かなり低下した	14.9	15.3	14.9
		7．想像力や工夫する力	1．とてもよくなった	0.2	0.0	0.3
			2．わりとよくなった	11.7	11.2	12.1
			3．ほとんど変わらない	34.4	37.1	32.7
			4．少し低下した	40.2	42.3	39.1
			5．かなり低下した	13.5	9.4	15.8
		8．友だちを思いやる心	1．とてもよくなった	0.2	0.0	0.3
			2．わりとよくなった	3.7	4.1	3.6
			3．ほとんど変わらない	39.4	38.8	39.8
			4．少し低下した	42.3	43.6	41.6
			5．かなり低下した	14.4	13.5	14.7
		9．先生やおとなを尊敬する気持ち	1．とてもよくなった	0.0	0.0	0.0
			2．わりとよくなった	0.4	0.0	0.6
			3．ほとんど変わらない	23.6	22.9	24.1
			4．少し低下した	44.7	45.9	44.3
			5．かなり低下した	31.3	31.2	31.0
		10．けがや病気に負けない基礎体力	1．とてもよくなった	0.0	0.0	0.0
			2．わりとよくなった	0.4	0.6	0.3
			3．ほとんど変わらない	21.4	20.0	22.0
			4．少し低下した	56.4	60.6	54.2
			5．かなり低下した	21.8	18.8	23.5
		11．リーダー性	1．とてもよくなった	0.2	0.0	0.3
			2．わりとよくなった	3.8	3.5	3.6
			3．ほとんど変わらない	23.5	24.1	23.4
			4．少し低下した	50.2	55.3	47.5
			5．かなり低下した	22.3	17.1	25.2
		12．物を大切にする気持ち	1．とてもよくなった	0.0	0.0	0.0
			2．わりとよくなった	1.2	1.8	0.9
			3．ほとんど変わらない	20.3	21.2	19.8
			4．少し低下した	42.8	43.5	42.2
			5．かなり低下した	35.7	33.5	37.1

● 資料2　基礎集計表

質問項目				全体	性別	
					男性	女性
17	子どもたちの子どもと比較して10年前の力を	13．集団としてのモラル（道徳性）	1．とてもよくなった	0.2	0.0	0.3
			2．わりとよくなった	1.4	0.6	1.8
			3．ほとんど変わらない	17.8	21.2	16.2
			4．少し低下した	47.8	50.0	46.6
			5．かなり低下した	32.8	28.2	35.1
		14．ゲームや学習を計画実践する力	1．とてもよくなった	1.8	1.2	2.1
			2．わりとよくなった	15.7	14.1	16.7
			3．ほとんど変わらない	36.5	37.1	36.2
			4．少し低下した	36.6	40.0	34.7
			5．かなり低下した	9.4	7.6	10.3
		15．がまん強さ	1．とてもよくなった	0.0	0.0	0.0
			2．わりとよくなった	0.8	0.0	1.2
			3．ほとんど変わらない	8.3	10.0	7.5
			4．少し低下した	45.9	48.8	44.5
			5．かなり低下した	45.0	41.2	46.8
18	役職・結婚・年齢・出身大学など	学校内での役職	1．校長	4.2	8.2	0.2
			2．教頭	5.6	11.2	2.9
			3．教務主任	7.7	14.1	4.6
			4．学年主任	30.6	22.4	34.9
			5．学級担任	47.3	49.4	46.4
			6．副担任	0.0	0.0	0.0
			7．専科の教師	11.3	6.5	13.8
			8．講師	1.9	0.0	2.9
			9．その他	11.0	10.6	10.7
		力を入れている教科・領域（自由記述）		92.1	93.5	91.4
		教職経験年数	1．５年以下	2.7	1.8	3.2
			2．６～10年	9.7	7.7	10.5
			3．11～15年	13.5	15.5	12.6
			4．16～20年	14.8	22.6	10.8
			5．21～25年	19.9	19.6	20.2
			6．26～30年	25.8	23.3	27.2
			7．31年以上	13.6	9.5	15.5
		出身大学	1．教育系の大学	56.4	52.9	57.5
			2．国公立４年制大学	8.5	7.1	9.4
			3．私立４年制大学	25.0	30.6	22.2
			4．短期大学	6.9	2.9	9.1
			5．大学院	1.9	4.1	0.9
			6．その他	1.3	2.4	0.9
		年齢	1．25歳以下	0.4	0.0	0.6
			2．26～30歳	4.1	2.4	5.0
			3．31～35歳	9.9	10.1	9.6
			4．36～40歳	13.0	14.8	12.2
			5．41～45歳	16.5	20.1	14.6
			6．46～50歳	25.6	27.2	25.1
			7．51～55歳	22.3	19.5	23.9
			8．56歳以上	8.2	5.9	9.0
		結婚・子どもの有無	1．未婚	11.0	8.2	12.2
			2．既婚・子どもなし	8.5	10.6	7.6
			3．既婚・子どもあり	79.1	80.0	78.7
			4．その他	1.4	1.2	1.5

質問項目				全体	性別	
					男性	女性
18	満足感	もう一度人生をやり直せるとしたら、また「小学校の教師」になりたいか	1．ぜひなりたい	23.0	28.7	20.4
			2．できればなりたい	31.2	29.9	31.6
			3．どちらでもいい	29.1	24.0	31.6
			4．できればなりたくない	14.1	15.6	13.4
			5．絶対なりたくない	2.6	1.8	3.0
	健康状態・ストレス	1．食欲がない	1．とても感じる	0.0	0.0	0.0
			2．わりと感じる	6.3	4.2	7.4
			3．あまり感じない	41.5	41.9	41.1
			4．ぜんぜん感じない	52.2	53.9	51.5
		2．何となく体がだるい	1．とても感じる	7.7	9.6	6.8
			2．わりと感じる	32.0	26.3	35.0
			3．あまり感じない	38.8	40.7	37.7
			4．ぜんぜん感じない	21.5	23.4	20.5
		3．疲れやすい	1．とても感じる	17.3	16.8	17.8
			2．わりと感じる	48.5	40.1	52.6
			3．あまり感じない	22.6	27.5	20.1
			4．ぜんぜん感じない	11.6	15.6	9.5
		4．やる気がない	1．とても感じる	1.0	1.8	0.6
			2．わりと感じる	16.6	17.4	16.3
			3．あまり感じない	54.6	50.9	56.4
			4．ぜんぜん感じない	27.8	29.9	26.7
		5．頭がボーっとする	1．とても感じる	2.0	1.8	2.1
			2．わりと感じる	15.8	13.2	17.3
			3．あまり感じない	45.6	46.7	45.2
			4．ぜんぜん感じない	36.6	38.3	35.4
		6．イライラする	1．とても感じる	4.2	4.2	4.2
			2．わりと感じる	26.1	25.1	26.3
			3．あまり感じない	47.1	49.1	46.5
			4．ぜんぜん感じない	22.6	21.6	23.0
		7．肩がこる	1．とても感じる	24.0	16.8	27.8
			2．わりと感じる	33.3	32.4	33.9
			3．あまり感じない	24.6	25.7	24.1
			4．ぜんぜん感じない	18.1	25.1	14.2
		8．立ちくらみやめまいがする	1．とても感じる	2.4	0.6	3.3
			2．わりと感じる	17.9	9.0	22.3
			3．あまり感じない	40.1	42.5	38.8
			4．ぜんぜん感じない	39.6	47.9	35.6
	成績	高校までの成績	1．上の方	28.9	16.4	35.3
			2．中の上	42.1	46.0	40.6
			3．中くらい	22.8	27.9	20.2
			4．中の下	5.6	8.5	3.6
			5．下の方	0.6	1.2	0.3